

2023 年度

福山市 田尻 町地内

栗林池改良工事 実施設計書

	項目	当初	変更
工 事 概 要	適用単価区分	2023年10月単価	
	地域補正 工事概要	ため池工事 補正なし 工事延長 L= 19.4 m 堤体工 盛土(鋼土) V= 16 m3 盛土(ランダム材) V= 199 m3 洪水吐工 一式 構造物撤去工 一式	

特記仕様書

第1章 総則

第1節 適用

- ・本特記仕様書は、栗林池改良工事に適用する。
- ・本特記仕様書に記載のない事項については、次によるものとする。
- ・令和5年8月 広島県 土木工事共通仕様書，「設計図書（別冊図面，仕様書）」，「福山市建設工事執行規則」，「福山市工事検査技術基準」
- ・その他関連規格類
「令和5年8月 広島県 土木工事共通仕様書の1-1-1-26 週休二日の対応」は本工事においては適用しない

第2節 工程表の提出について

- ・契約締結後14日以内に設計図書に基づいて、工程表を作成し、発注者に提出すること。工期の変更契約についても同様とする。

第3節 地元への周知

- ・受注者は、監督員と協議し、地先住民，町内会長，土木常設員に工事着手及び工事完了の報告を行うこと。また、工事着手に先立ち地先住民及び貸借人には具体的な施工内容，方法，時期等の説明を行い，承諾を得ること。
- ・受注者は、工事着手の際に、あらかじめ沿線地権者に施工内容等についての説明を行い，承諾を得ること。

第4節 工事に着手すべき期日について

- ・受注者は、工事開始日以降30日以内に工事着手しなければならない。

第5節 法定外労災保険の付保について

- ・本工事は、法定外の労災保険契約の保険料を見込んでいる。

第2章 材料

第1節 コンクリートの配合指定

- ・鉄筋コンクリート（呼び強度21及び24）の水セメント比については55%以下，無筋構造物のコンクリート（呼び強度18）の水セメント比については60%以下とすること。

第3章 施工条件

第1節 検査期間

- ・本工事の工期は、工事検査期間として、14日間を見込んでいる。

第2節 熱中症対策

・本工事は、工事現場の熱中症対策に資する経費に関して、現場管理費の補正を行う工事である。

1 工期（工事の始期日から工事の終期日までの期間で、準備期間、施工に必要な実日数、不稼働日及び後片付け期間の合計をいう。なお、検査期間13日間、年末年始6日間（12月29日～1月3日）、夏季休暇3日間（国民の祝日である山の日次の日から土曜日、日曜日及び振替休日を除く3日間とする。）、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。）期間中の真夏日の状況に応じて、変更契約時に現場管理費の補正を行うものとする。

2 真夏日とは、日最高気温が30度以上の日をいう。また、日最高暑さ指数（WBGT）が25度以上の日をいう。ただし、夜間工事の場合は、作業時間帯の最高気温又は最高暑さ指数（WBGT）を対象とする。

3 気温の計測箇所及び結果は、施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温又は環境省が公表している観測地点の暑さ指数（WBGT）を用いることを標準とする。なお、本工事において、上記地上観測所及び観測地点は、「福山」とすることを標準とする。

4 受注者は、工事期間中における気温の計測箇所、用いる計測値及び計測期間（計測開始日、計測終了予定日）を明記した施工計画書を工事着手前に提出し、計測結果を工事完成時までに監督員に提出すること。

5 受注者は、計測終了日について、工事完成時までに監督員と協議するものとする。

6 積算方法は次のとおりとする。

(1) 補正方法

ア 受注者より提出された計測結果の資料を基に、補正値を算出し現場管理費率に加算する。ただし、現場管理費率の補正は、「積算寒冷地域で施工時期が冬期となる場合の補正」、「緊急工事の場合」及び本通知の補正値を合計し、2%を上限とする。

イ 真夏日率＝工期期間中の真夏日÷工期

ウ 補正値（%）＝真夏日率×1.2

(2) 補正値の計算結果は、パーセント表示で少数点3位を四捨五入して2位止めとする。

7 受注者より、熱中症対策に資する現場管理費の補正が不要である旨の協議があった場合は、補正を行う工事から対象外とすることが出来る。

8 検査員から修補の指示があった場合、修補期間は対象外とする。

第3節 建設発生土（搬出）（建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積））

・当該工事により発生する建設発生土は、公の関与する埋立地、建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）のいずれかに搬出するものとする。また、搬出先として、運搬費と受入費（平日の受入費用）の合計が最も経済的になる建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き残土処分に要する費用（単価）は変更しない。なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）への搬出が困難となった場合は、監督員と受注者が協議するものとする。

・搬出先においては、処分状況が確認できるよう、写真撮影を行うとともに、数量等が確認できるように計量伝票等を監督員に提出すること。

・実施伝票は原本を提出すること。

第4節 特定建設資材廃棄物（アスファルト塊、コンクリート塊等）

・建設リサイクル法対象工事（請負代金額500万円以上）の場合、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」を遵守し適正に処理すること。また、法第12条第2項に基づき、法第10条第1号から第5号までに掲げる事項について下請負人に告知する場合は、告知書の写しを監督員に提出すること。

・特定建設資材廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下「廃棄物処理法」という）を遵守し、適正に処理しなければならない。

・特定建設資材廃棄物は、広島県（環境局）及び保健所設置政令市（広島市、呉市、福山市）が、廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設へ搬出し再資源化しなければならない。

・再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は、広島県（環境局）及び保健所設置政令市（広島市、呉市、福山市）が廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設のうち受入条件が合うものの中から、運搬費な理由がある場合を除き再資源化に要する費用（単価）は変更しない。の受入が困難な場合は監督員と受注者が協議するものとする。

・搬出先においては、処分状況が確認できるよう、写真撮影を行うとともに、数量等が確認できるように計量伝票等を監督員に提出すること。

第4章 その他

第1節 その他項目

・本特記仕様書及び設計図書に明示していない事項または、その内容に疑義が生じた場合は、監督員の指示を受けること。

第5章 総則

第1節 運搬費及び準備費の設計変更

1 工事施工に当たり、「共通仮設費（率分）のうち運搬費及び準備費」の次に示す経費（以下「実績変更対象費」という。）について、土地改良事業等請負工事積算基準に基づく積算額と実際の費用に乖離が生じた場合は、実績変更対象費の支出実績を踏まえて最終精算変更時点で設計変更することができる。

【実績変更対象費】

運搬費：建設機械の運搬費

準備費：伐開、除根、除草費

2 受注者は、以下に示す共通仮設費に対する実績変更対象経費の割合（以下「割合」という。）を参考にして、実績変更対象経費に係る費用の内訳について設計変更の協議ができるものとする。

【実績変更対象費の割合】

共通仮設費（率分）に占める実績変更対象費（運搬費（建設機械の運搬に要する費用））の割合：12.86%

共通仮設費（率分）に占める実績変更対象費（準備費（伐開・除根・除草に要する費用））の割合：3.02%

3 実績変更対象費の支出実績を踏まえて設計変更が必要な場合は、実績変更対象経費に関する内訳書（様式1）及び内訳書に記載した計上額が証明できる書類（領収書の写し、又は金額の妥当性を証明する書類等。）を監督職員に提出し、設計変更の内容について協議するものとする。

4 実績変更対象費の支出実績を踏まえて設計変更する場合、受注者が実績変更対象費について実際に支払った額のうち証明書類において確認された費用から、土地改良事業等請負工事積算基準に基づき算出した額における実績変更対象費を差し引いた額を加算して算出する。

5 受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については、設計変更の対象としない。

6 受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び指名除外等の措置を行う場合がある。

7 疑義が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。

第2節 遠隔地からの労働者確保に要する間接工事費の設計変更

1 工事施工に当たり、労働者確保に要する方策に変更が生じ、不足する技術者や技能者を広域的に確保せざるを得なくなり、「共働仮設費（率分）のうち営繕費」及び「現場管理費のうち労務管理費」の次に示す費用（以下「実績変更対象費」という。）について、土地改良事業等請負工事積算基準・森林整備保全事業設計積算要領※1に基づく金額相当では適正な工事の実施が困難になった場合は、実績変更対象費の支出実績を踏まえて最終精算変更時点で設計変更の対象とする。

【実績変更対象費】

【営繕費】労働者送迎費、宿泊費、借上げ費（宿泊費、借上げ費については労働者確保に係るものに限る。）

【労務管理費】募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤等に要する費用² 受注者は、次のとおり資料を提出することにより、上記1による設計変更を発注者に協議することができる。

(1) 次に示す実績変更対象費の割合を参考とし、工事着手までに「実績変更対象費に関する実施計画書（様式1）」を作成のうえ監督職員に提出すること。

【実績変更対象費の割合】

共働仮設費（率分）に占める実績変更対象費（労働者送迎費、宿泊費、借上げ費）の割合：

4. 10%

現場管理費に占める実績変更対象費（募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤等に要する費用）の割合：0.93%

(2) 実績変更対象費の支出実績を踏まえて設計変更が必要な場合は、「実績変更対象費に関する実績報告書（様式2）」及び実績変更対象費について実際に支払った全ての証明書類の原本とその写し（領収書、領収書の出ないものは金額の妥当性を証明する書類等。）を監督職員に提出すること。なお、原本は監督職員の照合・確認後、返却する。

3 実績変更対象費の支出実績を踏まえて設計変更する場合、受注者が実績変更対象費について実際に支払った額のうち証明書類において確認された費用から、土地改良事業等請負工事積算基準・森林整備保全事業設計積算要領※1に基づき算出した額における実績変更対象費を差し引いた額を加算して算出する。なお、全ての証明書類の提出がない場合であっても、提出された証明書類をもって設計変更の根拠資料とする。

4 受注者の責めによる工事工程の遅れ等受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については、設計変更の対象としない。

5 受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び指名除外等の措置を行う場合がある。

6 疑義が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。

第6章 その他

第1節 現場標示板等について

「第20 回世界パラ会議福山大会2025」の周知と機運醸成を図るため、現場標示板等へ大会ロゴの標示について、ご協力をお願いします。

・使用するロゴは「第20 回世界パラ会議福山大会2025 ロゴ利用規程」に沿ったものとし、別紙のいずれかのデザインとする。

・「第20 回世界パラ会議福山大会2025 ロゴ利用規程」に定められた「大会ロゴ利用許諾申請書」の提出は不要とする。

・使用する大会ロゴは「大会ロゴデザインガイド」にて配色等が定められているので留意すること。

・大会ロゴの標示については任意事項とし、標示に必要な経費は工事費に計上しない。

・ロゴ標示期限は2026 年（令和8 年）3 月31 日とする。

（デザインデータについては福山市建設管理部技術検査課へお問い合わせください。）

ため池整備工事共通仕様書

(適用)

1-1 本仕様書は、高さ(堤高)15m未満のフィルタイプのため池(調整池を含む)改修の堤体工、地盤改良工、洪水吐工、取水施設工、浚渫工その他これらに類する工種について適用するものとする。

1-2 設計図書において特に定めのない事項については、次の基準類によらなければならない。なお、基準類と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、この仕様書に定めのない事項、または疑義がある場合は、監督員に確認を求めなければならない。

- | | |
|----------------------|-------------|
| 1. 土地改良事業設計指針「ため池整備」 | 農林水産省農村振興局 |
| 2. 土木工事等共通仕様書 | 農林水産省構造改善局 |
| 3. 広島県農林土木工事共通仕様書 | 広島県農林水産局 |
| 4. 広島県土木工事共通仕様書 | 広島県建設技術センター |
| 5. 農林土木工事施工管理基準 | 広島県農林水産局 |

(一般事項)

2-1 打合せ

この仕様書において「打合せを行う」とされた場合に、監督員は状況に応じ、受注者、現場代理人、監理技術者または主任技術者に対し指示、承諾または助言を行うものとし、指示及び承諾は文書(打合せ簿を含む)によって行うものとする。助言は口頭でもできるものとする。

2-2 測量

1. 事前測量を行い監督員に結果を提出し承諾を受けなければならない。
2. 基準点及び水準点は常に保全に努め、施工の支障となる基準点及び水準点は監督員と協議の上移設し、その管理を適切に行わなければならない。
3. 監督員が別に指示する測量については、これを速やかに実施しその成果を提出しなければならない。

2-3 段階確認

受注者は、工事完了後外面から明視できない箇所または重要な工事部分及び監督員が必要と認めて指示する作業段階ごとにその施工位置、施工状況等について監督員の確認を受けなければならない。

2-4 履行報告書

受注者は、月末締めで翌月7日までに履行報告書を監督員に提出しなければならない。

2-5 定義

1. 「鋼土、刃金土」とは、堤体盛土のうち遮水を目的とした部分をいう。特に「刃金土」と

いう場合は、遮水性部分又は工法を示し、「鋼土」とは遮水性部分に用いる材料を示す場合もある。

2. 「ランダム材」とは、堤体盛土のうち遮水性ゾーン（鋼土、刃金土）以外の部分をいう。
3. 「ドレーン」とは、堤体からの浸透水による細粒材料の流失を防止し、かつ浸透水を堤体外へ安全に排出流下させることにより、堤体の浸透破壊を防止するものをいう。
4. 「コンタクトクレイ」とは、土質材料と基礎岩盤面あるいはコンクリート構造物面が接する箇所において密着性をより高めるために貼付ける粘土質材料をいう。
5. 「前法（表法）」とは、堤体上流側の法面をいう。
6. 「後法（裏法）」とは、堤体下流側の法面をいう。
7. 「取水施設」とは、底樋等の土木構造物と取水バルブ（ゲート）等の機械設備を含めたものの総称である。
8. 「取水設備」とは、取水施設における取水バルブ（ゲート）等の機械設備を示す。
9. 「樋管」とは、底樋、斜樋を含めたものの総称である。
10. 「腰ブロック」とは、ドレーンを保護し、かつ浸透水を堤体外に速やかに排水流下させる積ブロックをいう。
11. 「土砂吐」とは、ため池の最も低位置に設けられた池内に堆積する土砂等の排除施設をいう。

2-6 使用資材

1. 設計図及び仕様書に特定の製品名及び製造業者名を表示していない場合は、「日本工業規格（JIS 製品）」・団法人日本水道協会（JWWA 製品）」又は監督員が認める同等以上の製品であることとする。
2. 受注者は、本工事に使用する主要な資材について、名称・規格・品質・各種試験成績書及び購入先が確認できる資料を提出し、監督員の承諾を受けなければならない。

2-7 コンクリート工

この工事に使用するコンクリートは、「広島県土木工事共通仕様書」によるものとし、セメントは高炉B種とし、使用区分は次表のとおりとする。

表 示	名 称	設計基準強度	粗骨材最大寸法	スランプ	水セメント比
21-20-8	鉄筋構造物	$\sigma_{ck}=21\text{N/mm}^2$	20mm	8cm	55%以下
18-40-8	無筋構造物	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$	40mm	8cm	60%以下
18-40-8	均しコンクリート	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$	40mm	8cm	60%以下

2-8 施工体制立入点検について

1. 発注者は、受注者が工事の施工に当たり、遵守しなければならない法令上の義務が適正に履行されているかの立入調査を行うことができる。

2. 受注者は、発注者の指名する者が、工事現場、現場事務所又は営業所に立入調査を実施する場合は、これを受け入れなければならない。

<施工一般>

(堤体工)

3-1 雑物除去工

1. 受注者は、掘削に当たり、堤敷内の腐植土、草木根等の有機物及び基礎として不適当なもの並びに池水の浸透を誘導する雑物（風化土、転石、泥土等）は完全に除去しなければならない。なお、現地状況により完全に除去できない場合には、監督員と協議しなければならない。
2. 受注者は、設計図書に基づき工事現場内にある地表物及び物件を処理しなければならない。また、設計図書に示されていない地表物等については、監督員と協議しなければならない。

3-2 土取場

1. 堤体盛土材料の採取に当っては、指定する土取場について採取計画を施工計画書に記載し、監督職員の承諾を得なければならない。
2. 受注者は、伐開又は採土前に土取場で監督職員、所有者立会のもとに範囲等を確認し、後でトラブルのないようにしなければならない。又数量の確認ができるよう着工前後の測量、写真等必要書類を整理しなければならない。

3-3 表土剥ぎ取り

1. 受注者は、改修する堤体表土の剥ぎ取りに当たり、原則として全面にわたり同時に施工するものとする。
なお、やむを得ず盛土の進捗に応じて表土を剥ぎ取る場合には、表土と盛土が混合しないようにしなければならない。
2. 受注者は、表土の剥ぎ取りに当たり、設計図書に定めのない限り 30cm 以上とし、剥ぎ取り面に樹木の根等が残る場合、これを除去しなければならない。
なお、現地状況により除去できない場合には、監督員と協議しなければならない。

3-4 掘削工

1. 受注者は、掘削に当たり、計画基礎地盤標高に達する前にボーリング結果と現地の照合を行う等地盤の確認を行い、地盤改良の可否を検討するものとする。地盤改良等が必要となった場合には、監督員と協議するものとする。
2. 受注者は、浸透水をその原因により堤防の内外に区分して、誘導処理しなければならない。
3. 受注者は、床掘及び袖掘を設計図書に示す深さに掘り下げ、掘削完了後は監督員の検査を受けなければならない。
ただし、所定の深さ以前に良質堅固な不透水層に遭遇した場合は、監督員の指示を受けなければならない。
4. 受注者は、床掘及び袖掘には原則として火薬使用を避け、基礎の弛緩を防止し、やむを

得ずこれを使用する必要があるときは、監督員の指示を受けなければならない。

5. 受注者は、漏水を絶無にするため、基礎地盤の「凹凸」を取除いてよく清掃し、基礎地盤と築堤土との接触を密にしなければならない。

6. 受注者は、掘削に当たり必要な断面を確保するとともに、極力過掘りを避けるものとする。過掘りとなった場合、地山と同等若しくは良質な材料を用いて埋戻すものとするが、その処置について監督員の指示によるものとし、これに要する経費は受注者の負担により行わなければならない。

7. 受注者は、掘削法面の保護について十分工程計画を検討し、風化、変質が生じないようにしなければならない。

3-5 掘削土の流用工

1. 受注者は、掘削土を築堤材料へ流用する場合、設計図書によるものとする。

2. 受注者は、掘削に先立ち掘削土の盛立材料への流用の適否を検討するために掘削箇所の試掘を行うとともに土質試験を実施し、その試験結果を監督員に提出するものとする。なお、試験項目については監督員の指示によらなければならない。

3-6 掘削土の搬出工

1. 受注者は、泥土等軟弱な土砂を現場外へ搬出する場合、建設汚泥再生利用技術基準(案)の第4種建設発生土相当以上(コーン指数(qc)が200kN/m²以上若しくは一軸圧縮強度(qu)が50kN/m²以上)に改良しなければならない。

なお、第4種建設発生土相当以下の泥土等軟弱な土砂を本工事現場外へ搬出する必要がある場合は、監督員と協議するものとする。

2. 受注者は、泥土を他事業、他工事で再利用する場合、事前に泥土に含まれる有害物質に関する試験を行い、「水質汚濁防止法に基づく排水基準(一律排水基準)」を満たしていることを確認するものとする。なお、基準を満たしていない場合は監督員と協議するものとする。

3-7 堤体盛立工

1. 受注者は、盛立材料の試験を設計図書及び監督員の指示により行わなければならない。

2. 受注者は、鋼土には特に水密性の大きい粘質土を選び、透水係数 $k = 1 \times 10^{-5} \text{cm/sec}$ 以下の土を用いなければならない。

(JIS A 1214の方法による、最大乾燥密度の95%以上の時)

3. 受注者は、ランダム材には透水性があり重量の大きい砂質土で、透水係数 $k = 1 \times 10^{-3} \sim 1 \times 10^{-5} \text{cm/sec}$ の土を用いなければならない。

(JIS A 1214の方法による、最大乾燥密度の95%以上の時)

4. 受注者は、築堤用土の採取及び搬入について、1日計画盛土量程度とし、降雨、降雪その他の事由により盛土を中断し、搬入土が余る場合、覆い等を施して過湿あるいは乾燥土とならないよう処置しなければならない。

5. 受注者は、用土運搬の方法について転圧の障害となる軌道、ポスト等は盛土の現場に設けてはならない。
また、自走式運搬機械で行なう場合も、その進入路等の軌跡が集中して過転圧を起さないように、取付部の拡張、運搬方法について考慮しなければならない。
6. 受注者は、築堤用土のまき出し及び転圧に当たり、原則として堤体の縦断方向に施工するものとし、横断方向に層状にならないように注意しなければならない。
ただし、樋管設置のための開削部で作業が困難な場合はこの限りではない。
7. 受注者は、盛土基礎地盤について支持力及び均等性に疑問がある場合には監督員と協議しなければならない。
8. 受注者は、まき出した土を、その日のうちに締固めなければならない。
9. 受注者は、床掘部の盛立において、湧水のあるときはこれを排除して十分に締固めなければならない。なお、排除の方法については、監督員と協議しなければならない。
10. 受注者は、地山及び既成盛立との接触面について特に十分に締固めなければならない。
11. 受注者は、盛土作業について最凹部から各層平坦に締固め、設計図書に示す高さまで盛立てるものとする。
12. 受注者は、水平な面を施工する場合、平坦な締固め、排水が良好となるよう施工しなければならない。
13. 受注者は、タイヤローラまたは振動ローラで転圧作業を行うこととする。
14. 受注者は、転圧作業に当たり、ローラの転圧幅は 30cm 以上重複させなければならない。
15. 受注者は、地山又は既成盛立との接触面及び地形上ローラの使用が不可能な箇所の転圧に際しては、地山との密着及び既成盛立との均一化を図るよう特に留意し、タンパ、振動ローラ等の小型締固め機械または人力で入念に締固めなければならない。
16. 受注者は、法面部の盛土について、規定以上の寸法の広さまでまき出し、十分締固めを行うものとする。また、はみ出した部分は、盛立完了後に切り取り、法面を仕上げるものとする。
17. 受注者は、冬期の盛立において、盛立面の氷雪又は凍土、霜柱は必ず除去して転圧しなければならない。また、含水比あるいは締固め密度が所定の値を満足していない場合、その 1 層を破棄あるいは再締固めしなければならない。
18. 受注者は、盛土の施工中において、用土の不適若しくは転圧の不十分、又は受注者の不注意によって湧水あるいは盛立法面の崩壊があった場合、その部分及びこれに関連する部分の盛立について再施工しなければならない。
19. 受注者は、盛立現場の排水を常に十分行い、雨水等が盛立部分に残留しないよう緩勾配をつけて仕上げるものとする。
20. 受注者は、転圧後平滑面が出来た場合、次層との密着を図るため、かき起しをしてから

次のまき出しを行わなければならない。

21. 受注者は、まき出し面が乾燥した場合は散水等により、まき出し材料と同程度の含水比となるよう調整し施工しなければならない。
22. 受注者は、まき出し土中に過大な粒径の岩石、不良土及びその他草木根などがある場合、これを除去しなければならない。
23. 受注者は、盛土作業中に沈下等の有害な現象があった場合、その処理方法について監督員と協議しなければならない。
24. 受注者は、岩盤面に盛立する場合、浮石やオーバーハング部を取除き、十分清掃のうえコンタクトクレイを貼り付けた後施工しなければならない。
また、コンタクトクレイを施工するときは、その厚さ及び施工方法について監督員と協議しなければならない。
25. 受注者は、締固めに当たり、過転圧による品質の低下に十分注意し、適正な盛立管理のもとに施工しなければならない。
26. 受注者は、締固め後、乾燥によるクラックが発生した場合、その処理範囲について監督員と協議し、健全な層まで取除き再施工しなければならない。
27. 受注者は、盛立作業ヤード上で締固め機械を急旋回してはならない。
28. 受注者は、施工中において用土の含水比、締固め試験、透水試験等の施工管理試験を行わなければならない。
29. まき出し厚さ、転圧回数の標準は次のとおりとする。ただし、施工前及び土質変更時には現場盛土試験を行い、転圧状況等の確認を行い、監督員と協議し決定するものとする。

	タイヤローラ (3500m/h)		振動ローラ (1000m/h)		タンパ (550m/h)	
	まき出厚 (m)	転圧回数 (回)	まき出厚 (m)	転圧回数 (回)	まき出厚 (m)	転圧回数 (回)
鋼 土	0.20	8	0.20	8	0.10	8
ランダム	0.30	4	0.30	4	0.20	4

30. 施工管理

- ① 施工管理は、別紙ため池出来形管理基準（写真撮影）及びため池品質管理基準によるものとし、試験方法、回数、施工管理基準は本仕様書によるものとする。
- ② 受注者は、土質が変化する時等、監督員の指示により含水比試験を行わなければならない。許容含水比は最適含水比±5%とする。
- ③ 試験結果が管理基準値に達しない場合は監督員の指示にしたがうものとする。

3-8 コンクリート工

受注者は、構造物の施工に当たり、図面に表示している箇所以外で生コンクリートの施工

打継ぎを行う場合には、塩ビ製止水板を設置し、漏水がないようにするものとする。

3-9 法面保護工

1. 受注者は、設計図書で示された工法で充分転圧し、法面を整形しなければならない。
2. 受注者は、曲線部及び局部で波止ブロックの施工ができない箇所は、強度 $18\text{N}/\text{mm}^2$ 以上のコンクリートで仕上げなければならない。

3-10 裏法フィルター工

受注者は、後法（裏法）フィルターの施工に当たり、1層の仕上がり厚さが 30cm 以下となるようまき出し、タンパ（60～100kg 級）等により締固めなければならない。

3-11 腰ブロック工

受注者は、腰ブロック水抜孔の施工に当たり、塩化ビニル管（VU ϕ 50mm）を $2\sim 3\text{ m}^2$ に 1 箇所程度の割合で設置しなければならない。

3-12 ドレーン工

受注者は、碎石又は砂によるドレーンについて、1層の仕上り厚さが 30cm 以下となるようまき出し、振動ローラ又はタンパ（60～100kg 級）等により締固めなければならない。

（地盤改良工）

4-1 浅層改良工

1. 受注者は、設計図書に示す種類の固化材を使用するものとし、地盤改良の施工方法等を施工計画書に記載し、監督員に提出しなければならない。なお、これ以外の改良方法を行う場合には、監督員と協議しなければならない。
2. 受注者は、工事着手前に室内配合試験を行い、使用する固化材の添加量について監督員の承諾を得なければならない。
3. 受注者は、風による飛散公害と作業員の健康障害等を招かないよう必要な措置を講じるとともに天候に留意し、雨天、強風時及び気温 5°C 以下のときは散布してはならない。また、施工時に異常が発生した場合には、直ちに監督員に報告し、指示を受けるものとする。
4. 受注者は、バックホウ等により所定の深さまで現地土と固化材を混合・攪拌するものとし、混合状態の良否を観察し、目視による色むらがなくなるまで行うものとし、混合むらが生じた場合は、再度混合する。
5. 受注者は、固化材を混合、攪拌し所定の養生期間を経た後、基盤面の仕上げを行うものとする。
6. 受注者は、セメント系固化材を使用する場合、必要に応じて透流水の PH を測定するものとする。なお、測定方法については、監督員の指示を受けるものとする。
7. また、六価クロム溶出試験（及びタンクリーチング試験）を実施し、試験結果（計量証明書）を提出するものとする。試験方法は「セメント及びセメント系固化材を使用した改良

土などの六価クロム溶出試験実施要領」によるものとする。また、土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が生じた場合は、監督員と協議するものとし、設計変更の対象とする。

・試験対象工種名及び検体数

仮設地盤改良工	： 配合設計段階	1 検体（試験方法 1）
	施工後段階	1 検体（試験方法 2）

（洪水吐工）

5-1 洪水吐工

1. 受注者は、堰体に接する部分の掘削に当たり、発破と過掘りを避けて基盤を緩めないようにしなければならない。また、洪水吐の越流堰設置箇所部分の掘削は、正確な断面を保持しなければならない。
2. 受注者は、設計図書に掘削土等の流用計画が示されている場合、流用工種との工程調整を図り、所定量を確保しなければならない。
3. 受注者は、特に堰体コンクリートと岩盤の密着について留意し、浮石等を除去、清掃のうえモルタルを敷き均して施工しなければならない。
4. 受注者は、堤体越流部及び放水路の断面形状等について、設計図書によるものとし、表面に生じた空隙にはコンクリート等を充填し、突起部はすべて削り取って平滑に仕上げなければならない。
5. 受注者は、洪水吐周辺の盛土について、土とコンクリートの境界面が水みちとならないように施工しなければならない。
6. 受注者は、設計図書のとおり床版ずれ止めアンカーを正確に取付けなければならない。

（取水施設工）

6-1 取水施設工

1. 受注者は、底樋管巻立コンクリート及び止水壁周辺の盛土について、境界面が水みちとならないよう、特に十分に締固めなければならない。また、締固め機械によって底樋管等に損傷を与えないよう注意して施工しなければならない。
2. 受注者は、底樋管上の盛土の転圧について巻立コンクリートの天端から 60cm までは、重機械によらずにタンパ等で十分に締固めなければならない。
3. 受注者は、取水施設設置のための現況堤体開削部について、盛土材料と旧堤体土とのなじみを良くするため境界面のかき起しや散水を行うものとし、堤体開削部より漏水することのないように施工しなければならない。
4. 受注者は、掘削において管敷設、接合、基礎工、埋戻し等の作業及び管体の安全を考慮して必要な幅員及び法勾配を確保するものとし、過掘りの発生は極力避けなければならない。継手掘り箇所又はやむを得ず基礎地盤を過掘りした場合、良質な材料を用いて締固め、当初地盤と同等程度に復元しなければならない。

5. 受注者は、設計図書に示すとおり取水施設の継手を設置しなければならない。なお、盛土の圧密沈下等により支障を生じないようにしなければならない。
6. 受注者は、堤体盛土に支障のないよう工程上余裕を持って底樋管を設置するものとする。
7. 受注者は、管路の埋戻し用土に掘削土を流用するとき石礫、有機物等の有害物を含まないようにしなければならない。
8. 受注者は、斜樋管に塩ビ管・ヒューム管等を用いる場合、管体に損傷を与えないよう丁寧に取扱い、継手は水密になるよう接合しなければならない。
9. 受注者は、底樋管と斜樋管の取付部、斜樋管の取水孔部、施工継手等は漏水のないよう施工しなければならない。
10. 受注者は、樋管工事の施工に当たり樋管部巻立コンクリート打設前及び樋管完成時の各段階で監督員の承認を受けなければならない。

6-2 ゲート及びバルブ製作工

1. 受注者は、製作に先立ち、承諾図書を2部（承諾後返却分1部を含む）提出するものとする。
2. 受注者は、完成図書を2部提出するものとする。なお、完成図書等の内容、様式等については監督員と打合せのうえ作成するものとする。
3. 受注者は、製作に使用するすべての材料について、水圧に耐えうる強度を有し、各種形状寸法は正確に承諾図書に適合したものでなければならない。
4. 受注者は、鋳鋼、鋳鉄、砲金等の鋳造品は十分押湯をし、表面平滑であって、鋳房、気泡、その他鋳造上の欠点のないものでなければならない。

6-3 取水ゲート

1. 受注者は、扉体の主横桁は設計最大水圧を均等に受ける位置に配置しなければならない。
2. 受注者は、シートフレームの設計、製作に当たりコンクリートにより弾性支持されるレールと考えられるので、扉体に作用する水圧を有効かつ安全にコンクリートへ分布伝達できるようにしなければならない。
3. 受注者は、水密部となる扉体及びシートフレームを平削加工したうえ、共摺合せを十分に行い完全なる水密を保たなければならない。
4. 受注者は、スルースバルブの巻上機について巻上オネジ及びメネジがその荷重に耐えられる構造としなければならない。
5. 受注者は、オネジの軸受部について開閉が容易に行えるようにベアリングを装置しなければならない。
6. 受注者は、巻上機に開閉度を表示する目盛板とハンドルの回転方向による開閉別を区分できる表示板を取付けなければならない。

(土砂吐ゲート)

6-4 土砂吐ゲート

1. 受注者は、扉体の主桁は設計最大深を均等に受ける位置に配置し、その水圧に対して十分な強度を有する構造としなければならない。
2. 受注者は、シートフレームの設計、製作に当たり、コンクリートにより弾性支持されるレールと考えられるので、扉体に作用する水圧を有効かつ安全に側壁コンクリートへ分布伝達できるようにしなければならない。
3. 受注者は、水密部となる扉体及びシートフレームを平削加工したうえ、共摺合せを十分に行い完全なる水密を保たなければならない。
4. 受注者は、開閉が円滑に行える構造としなければならない。

(仮設備工)

7-1 道路工

1. 工事用道路は工程計画、安全性を考慮し施工しなければならない。
2. 工事用道路については、施工計画書に記載しなければならない。

7-2 水替工

1. 仮締切、仮廻し水路は、設計図書によるほか、流水等に対し安全な構造とし適切な維持管理をしなければならない。
2. 工事に起因する汚濁水は、環境保全、自然保護等について十分留意し、必要に応じて流末処理（沈砂池等）をするなど十分に注意しなければならない。
3. 受注者は、汚濁水の流出等不測の事態が生じた場合は、監督員及び関係者に速やかに連絡し迅速に対処しなければならない。
4. 仮締切内の水替は排水計画に万全を期し常時適切に管理をしなければならない。

7-3 仮排水工の管理

1. 仮排水工は、受注者の責任において適切な維持管理をしなければならない。
2. 仮排水工の計画流量を超える場合の処置については、予め監督員と協議するものとし、緊急時に備えなければならない。

ため池 出来形管理基準(写真撮影)

種 類	細 目	撮 影 箇 所	撮 影 頻 度	摘 要
堤体工		盛土幅員, まき出し厚, 転圧, 法長, 法面(芝)法勾配, 排水側溝その他必要な箇所を撮影する	施工延長概ね20~40mにつき1箇所の割合で撮影する。 上記に満たない場合は2箇所撮影する。	
洪水吐工		床掘, 基礎, 幅, 高さ, 厚さ, 配筋, 打継目, パイプ敷設, 外観検査, ジョイント関係, その他必要箇所を撮影する。	概ね2スパンにつき1箇所の割合で撮影する。 箇所単位の構造物については適宜撮影する。	
樋管工		床掘, 基礎, 幅, 高さ, 厚さ, 配筋, 打継目, その他必要箇所を撮影する。	施工延長概ね10mにつき1箇所の割合で撮影する。箇所単位の構造物については適宜撮影する。	
地盤改良 (浅層混合)		改良前に改良深の確認状況その他必要箇所を撮影する。	施工延長概ね20~40mにつき1箇所の割合で撮影する。	

ため池 段階確認 事項

項 目	内 容	備 考
地盤支持力の確認	ブロック積擁壁	キャスポル等にて確認
	余水吐	
	土砂吐	
	底樋	
準備工	丁張	
盛土工	現場透水試験	品質管理基準のとおり
鉄筋構造物	鉄筋組立完了時	
準備工	丁張	
堤体基礎地盤面	現場透水試験 $K=1 \times 10^{-4}$ cm/s以下	

ため池 品質管理基準

種別	重要度	試験(測定)項目	管 理 基 準				
			試験(測定)方法	規 格 値	試 験 (測 定) 基 準	摘 要	
材料試験	必須	土の粒度試験	JIS A 1204		原則として、当初及び土質の変化時		
		土の突固め試験	JIS A 1210				
		土の密度試験	JIS A 1202				
		土の透水試験	JIS A 1218				
		土の含水比試験	JIS A 1203				
	その他	土の一軸試験	JIS A 1216		当初設計に比べ重大な変化が認められる場合、発注者と協議してから実施のこと	※その他の試験(測定)項目は必要に応じて実施すること	
		土の三軸圧縮試験	土木試験基準				
		土の圧密試験	JIS A 1217				
		土のせん断試験	土木試験基準				
		土の液性限界試験	JIS A 1205				
		土の塑性限界試験	JIS A 1206				
施工試験	必須	土の含水比試験	JIS A 1203	施工含水比は、標準突き固め最適含水比の±5.0%の範囲にあること。			
		六価クロム溶出試験	環境庁告示第46条溶出試験	試験方法1			地盤改良工施工前
		現場密度試験	JIS A 1210	D値95%以上			遮水性ゾーン： 盛土1m毎、延長50m毎に1回、 1回当り3個 ランダムゾーン： 盛土2m毎、延長50m毎に1回、 1回当り3個
		現場透水試験	立坑法 JGS1316	K=1.0*10 ⁻⁵ cm/s以下			遮水性ゾーン： 盛土1m毎、延長50m毎に1回、 1回当り1個
				K=1.0*10 ⁻³ ~1.0*10 ⁻⁵ cm/s			ランダムゾーン： 盛土2m毎、延長50m毎に1回、 1回当り1個

総括情報表

変更回数 適用単価地区 単価適用日 諸経費体系	0 70 福山市 00-05.10.01(0) 9 公共(011015～)	
	当世代	前世代
諸経費工種 工事費端数区分 週休補正区分 施工地域・工事場所区分 契約保証費区分 前払支出割合区分 軽油区分 復興補正区分 ICT補正区分	21 ため池工事 01 千円未満切捨 00 補正なし 00 補正なし 01 金銭的保証(0.04%) 00 補正なし 00 一般軽油使用 00 補正なし 00 補正なし	

本工事費

内訳表

本工事費	費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	ため池	1	式			レベル1
	余水吐工	1	式			レベル2
	作業土工	1	式			レベル3
	床掘り	1	式			レベル4
	床掘り 土砂 上記以外(小規模)	268	m3			00 単第 0 -0001号表
	埋戻し 鋼		m3			レベル4
	流用土埋戻 流用土(鋼) タンパ まき出厚10cm, 仕上り厚7cm, 転圧回数8回	12	m3			00 単第 0 -0002号表
	流用土埋戻 流用土(鋼) 振動ローラ(ハンドガイド) まき出厚20cm, 仕上り厚13cm, 転圧回数8回	2	m3			00 単第 0 -0005号表

本工事費

内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
流用土埋戻 流用土(鋼) 振動ローラ(2.4t~2.5t) まき出厚20cm, 仕上り厚13cm, 転圧回数8回	2		m3						00	単第 0 -0007号表
埋戻し ランダム			m3							レベル4
流用土埋戻 流用土(ランダム) タンパ まき出厚20cm, 仕上り厚14cm, 転圧回数4回	29		m3						00	単第 0 -0009号表
流用土埋戻 流用土(ランダム) 振動ローラ(ハンドガイド) まき出厚30cm, 仕上り厚22cm, 転圧回数4回	23		m3						00	単第 0 -0010号表
流用土埋戻 流用土(ランダム) 振動ローラ(2.4t~2.5t) まき出厚30cm, 仕上り厚22cm, 転圧回数4回	82		m3						00	単第 0 -0012号表
流用土埋戻 流用土(ランダム) 振動ローラ(2.4t~2.5t) まき出厚30cm, 仕上り厚22cm, 転圧回数4回	65		m3						00	単第 0 -0012号表
作業残土処理工	1		式							レベル3
作業残土処理			m3							レベル4
土砂等運搬 小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む) DID区間無し 距離7.0km以下(5.5km超)	29		m3						00	単第 0 -0014号表

本工事費

内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
型枠 一般型枠 鉄筋・無筋構造物	190		m	2					00	
鉄筋 【規格】				t					単第 0 -0018号表 レベル4	
鉄筋工 SD295_D13 一般構造物 [規]10t未満	3.15		t						00	
継手工									単第 0 -0019号表 レベル3	
ダウエルバー 【規格】	1			式						レベル4
ダウエルバー取付 異形棒鋼 D 1 6	98			本					00	
目地板 【材料種別・規格】									単第 0 -0020号表 レベル4	
目地板 1工事当り使用量30m2未満 ゴム発泡体 t=10mm	7.0		m	2					00	
目地板 1工事当り使用量30m2未満 瀝青繊維質目地板 t=10mm	1.2		m	2					00	
									単第 0 -0022号表	

本工事費

内訳表

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
止水板 【規格】		m			レベル4
止水板 幅CF200×厚さ5mm(塩ビ製)	37.1	m			00 単第 0 -0023号表
アンカー鉄筋 【規格】		t			レベル4
アンカー鉄筋 SD345 D25 L=0.44m	2	本			00 単第 0 -0024号表
水抜き孔 【規格】		m			レベル4
水抜き孔 VP 50 L=0.25m	2	箇所			00 単第 0 -0026号表
安全施設工	1	式			レベル3
横断・転落防止柵 【規格】		m			レベル4
横断・転落防止柵 コンクリート建込 ビーム式・パネル式 [規]100m未満 転落防止柵-標準品-縦格子型,白色	5.4	m			00 単第 0 -0027号表

本工事費

内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
仮設工									レベル3	
足場工	1			式					レベル4	
手摺先行型枠組・単管・単管傾斜足場 手摺先行型枠組足場	14		掛	m2					00	単第 0 -0028号表
手摺先行型枠組・単管・単管傾斜足場 単管足場	44		掛	m2					00	単第 0 -0029号表
支保工				式					レベル4	
パイプサポート支保(小規模) 支保耐力 40kN/m2以下 総設置数量40空m3以下	7		空	m3					00	単第 0 -0030号表
復旧工	1			式					レベル3	
張コンクリート 【規格】				m					レベル4	
張コンクリート t=12cm	7			m2					00	単第 0 -0031号表

本工事費

内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
裏込砕石 【規格】				m3					レベル4	
裏込工(ブロック張) ブロック張り 再生クラッシャーラン(RC-40)	1			m3					00	単第 0 -0032号表
石材小型車割増	1			m3					00	
天端コンクリート 【規格】				m					レベル4	
天端コンクリート	4.6			m					00	単第 0 -0033号表
基礎コンクリート 【規格】				m					レベル4	
基礎コンクリート	2.3			m					00	単第 0 -0036号表
構造物撤去工	1			式					レベル2	
構造物取壊し工	1			式					レベル3	

本工事費

内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
コンクリート構造物取壊し 【構造物種別】				m3					レベル4	
構造物とりこわし工(鉄筋構造物) 機械施工	8.4			m3					00	単第 0 -0037号表
構造物とりこわし工(無筋構造物) 機械施工	2.8			m3					00	単第 0 -0038号表
殻運搬・処理 【殻種別】				m3					レベル4	
殻運搬 Co(鉄筋)構造物とりこわし DID区間有り 運搬距離23.2km以下(18.5km超)	8.4			m3					00	単第 0 -0039号表
殻運搬 Co(無筋)構造物とりこわし DID区間有り 運搬距離23.2km以下(18.5km超)	2.8			m3					00	単第 0 -0040号表
処分費 「処分費等」の取扱いによる										
建設副産物受入費 コンクリート塊(鉄筋)	8.4			m3					00	
建設副産物受入費 コンクリート塊(無筋)	2.8			m3					00	

本工事費

内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
工事用道路撤去工									レベル3	
	1			式						
切土・盛土									レベル4	
				式						
掘削 土砂 上記以外(小規模) 標準以外	71			m3					00	単第 0 -0041号表
盛土 流用土									00	
	2			m3						単第 0 -0042号表
大型土のう撤去									レベル4	
				式						
大型土のう撤去 作業半径 6m以下	28			袋					00	単第 0 -0044号表
コンクリートブロック撤去									レベル4	
				式						
方塊コンクリートブロック撤去 0.5×1.0×0.5	14			個					00	単第 0 -0046号表
構造物とりこわし工(無筋構造物) 機械施工									00	
	1.2			m3						単第 0 -0038号表

本工事費

内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
道路用側溝撤去									レベル4	
道路用側溝撤去 L=8.0m	1			式					00	単第 0 -0047号表
殻運搬処理									レベル4	
土砂等運搬 小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む) DID区間無し 距離7.0km以下(5.5km超)	71			m3					00	単第 0 -0014号表
現場発生品運搬 クレーン装置付BT2t級2.9t吊 片道運搬距離31.5km以下(27.5km超)	0.08			t					00	単第 0 -0051号表
土砂等運搬 小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む) DID区間無し 距離7.0km以下(5.5km超)	12			m3					00	単第 0 -0014号表
殻運搬 Co(無筋)構造物とりこわし DID区間有り 運搬距離23.2km以下(18.5km超)	3.5			m3					00	単第 0 -0040号表
殻運搬 Co(無筋)構造物とりこわし DID区間有り 運搬距離23.2km以下(18.5km超)	1.2			m3					00	単第 0 -0040号表
殻運搬 Co(鉄筋)構造物とりこわし DID区間有り 運搬距離23.2km以下(18.5km超)	0.7			m3					00	単第 0 -0039号表

本工事費

内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
準備費									レベル2	
準備費	1			式					レベル3	
準備費	1			式					レベル4	
抜開・除根				式						
人力刈払 チェーンソー 樹量区分160.1~200(本・m/10a)	0.01		ha						00	単第 0 -0052号表
人力刈払後の集積 樹木 密生	1		a						00	単第 0 -0053号表
運搬(伐開・除根・除草) 運搬距離20.8km	20		空m3						00	単第 0 -0054号表
木根等処分				式					レベル4	
処分費 「処分費等」の取扱いによる										
建設発生木材 竹	20		m3						00	

本工事費

内訳表

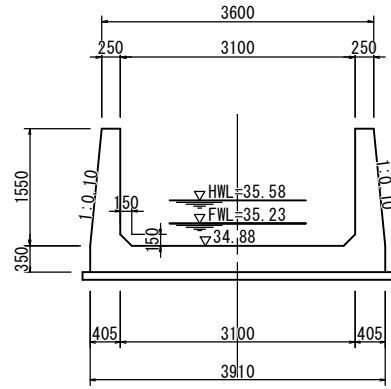
費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
共通仮設費率 分額						
共通仮設費計						
純工事費						
現場管理費						
工事原価						
一般管理費率 分						
契約保証費						
一般管理費計						
** 工事価格計 **						



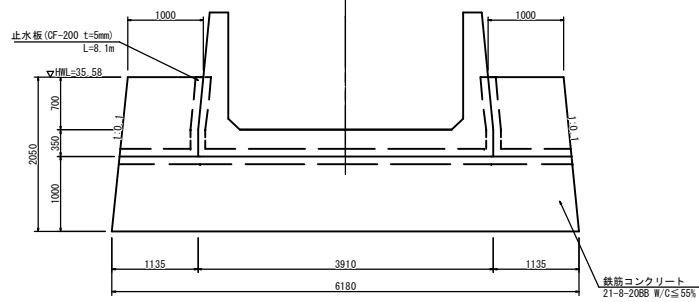
洪水吐工一般図

S=1:50

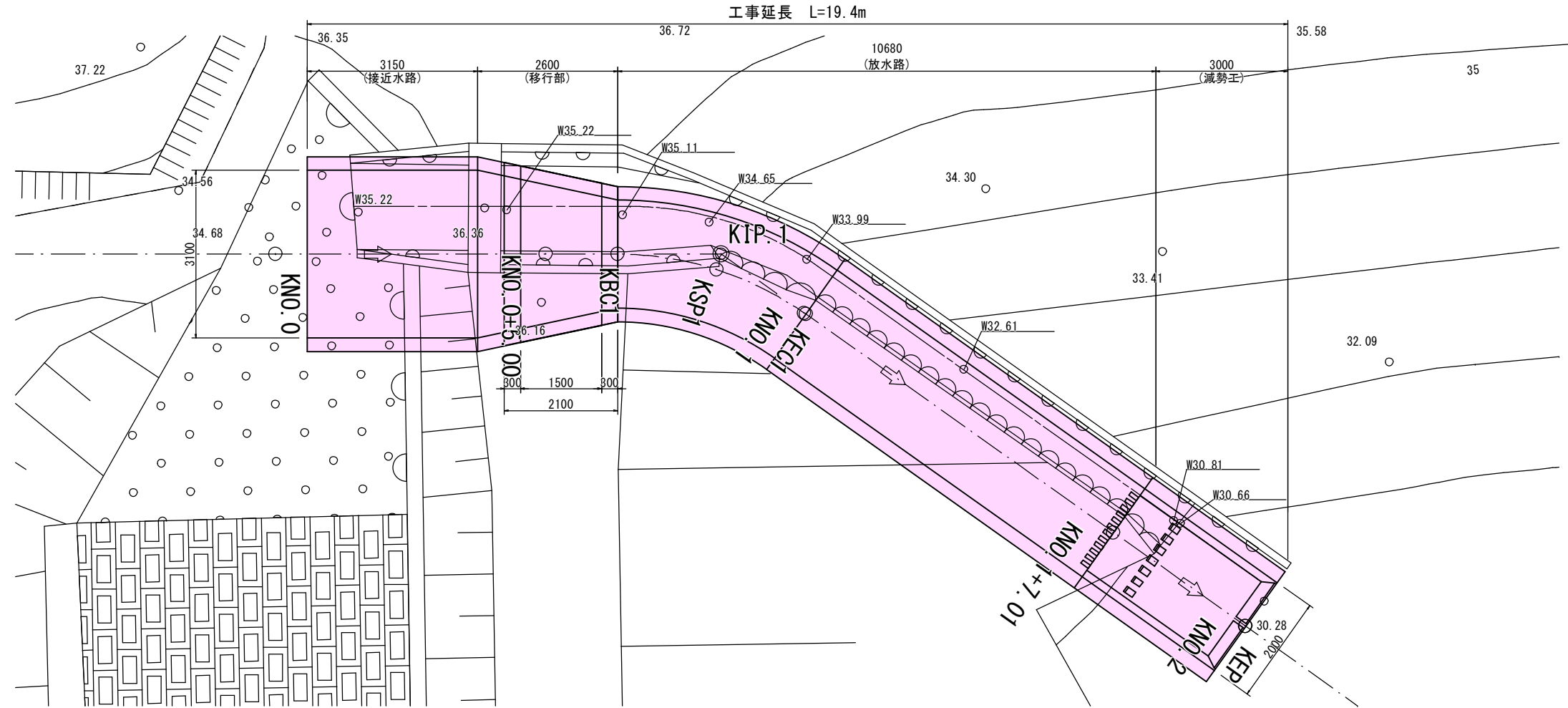
正面図



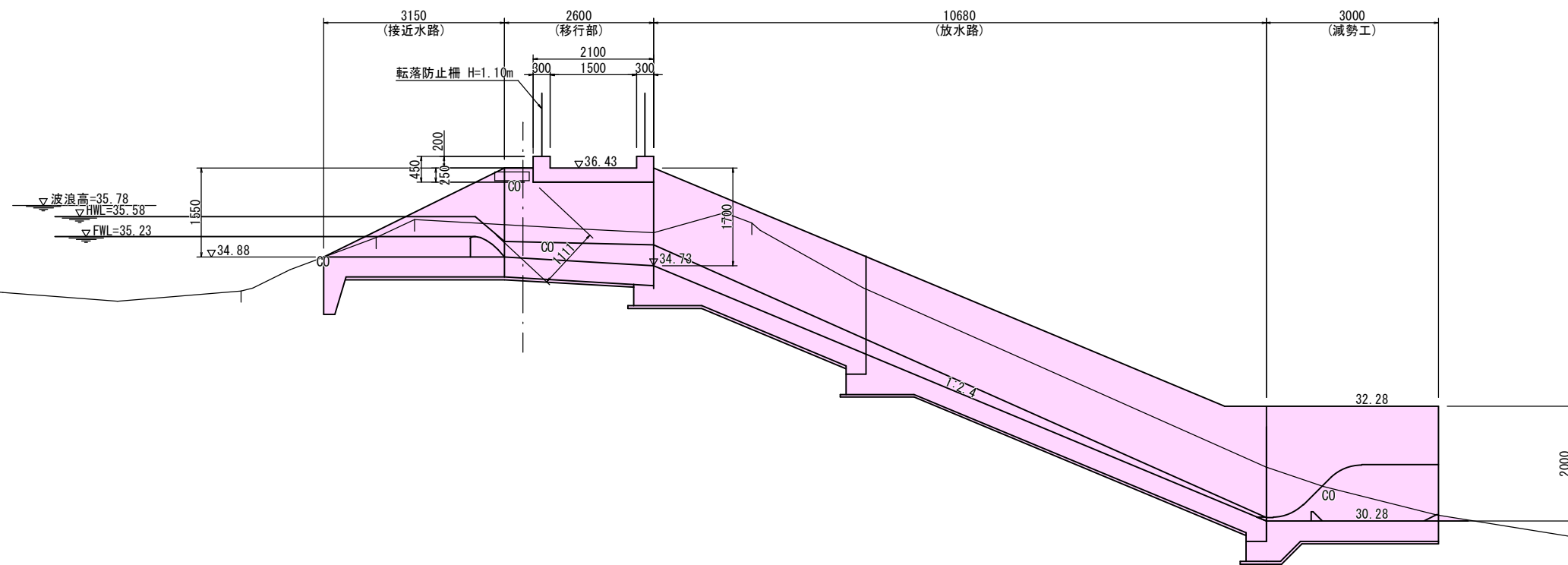
止水壁



平面図



断面図



栗林池	
図面の名称	図面番号
洪水吐工一般図	2/28
測量	キタイ設計株式会社
設計	キタイ設計株式会社
製図	原図 2023年 10月
	複写
福山市 田尻町 地内	
福山市	

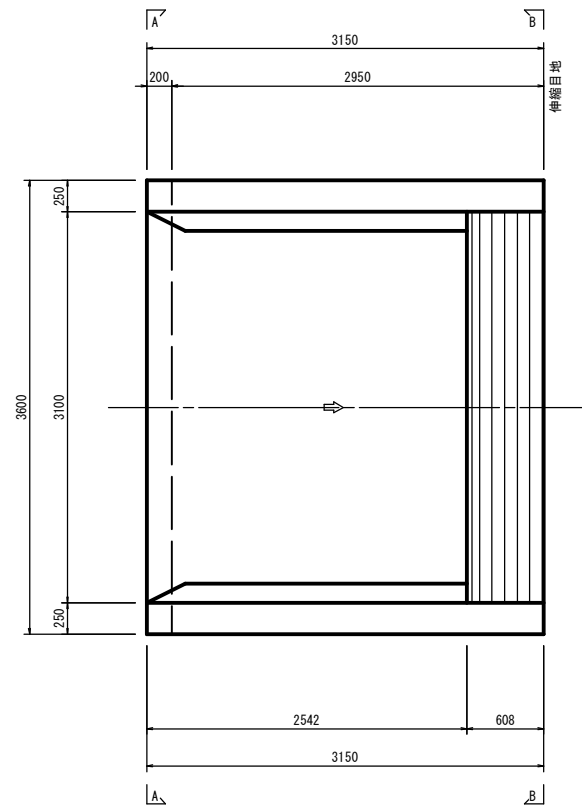
洪水吐工構造図(1)

(接近水路)

S=1:30

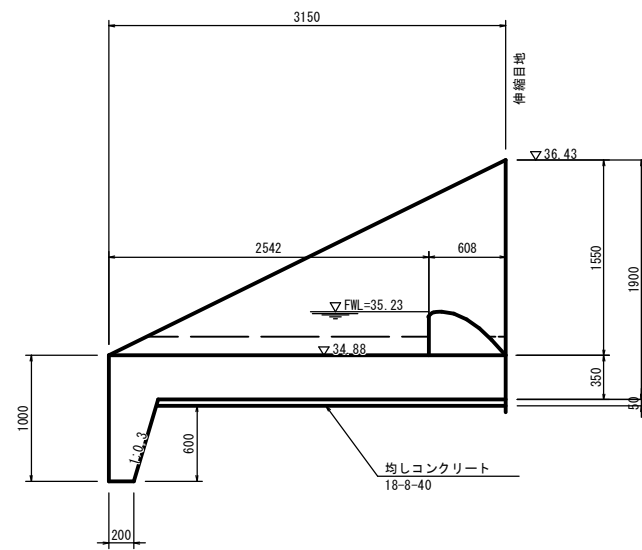
平面図

S=1:30



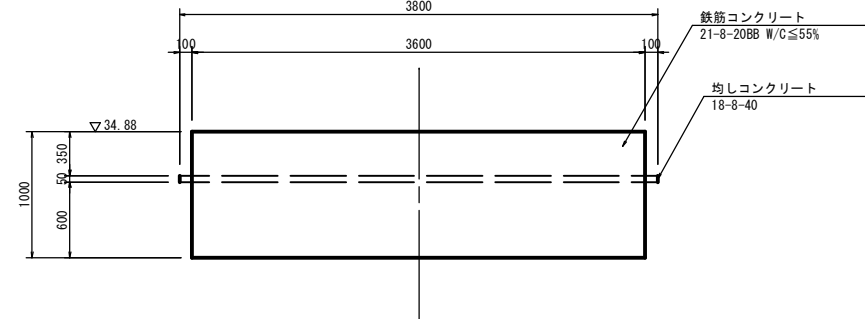
縦断面図

S=1:30



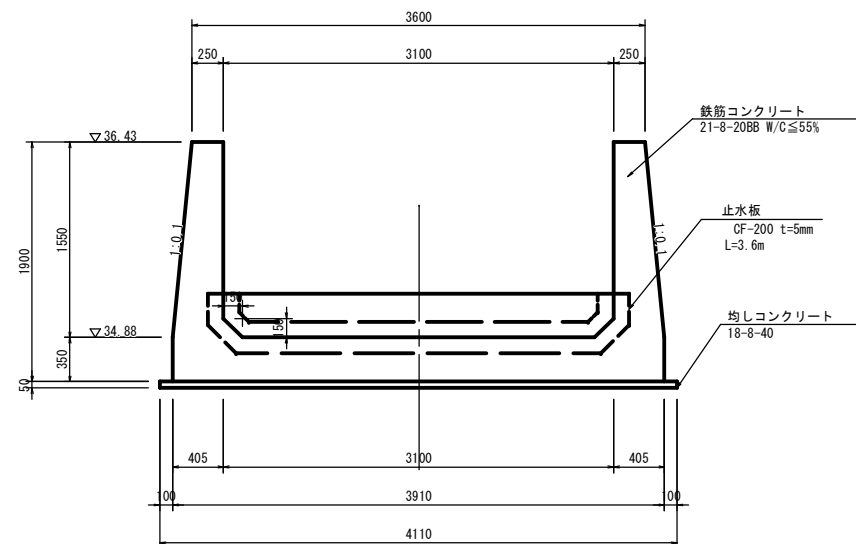
A-A断面図

S=1:30



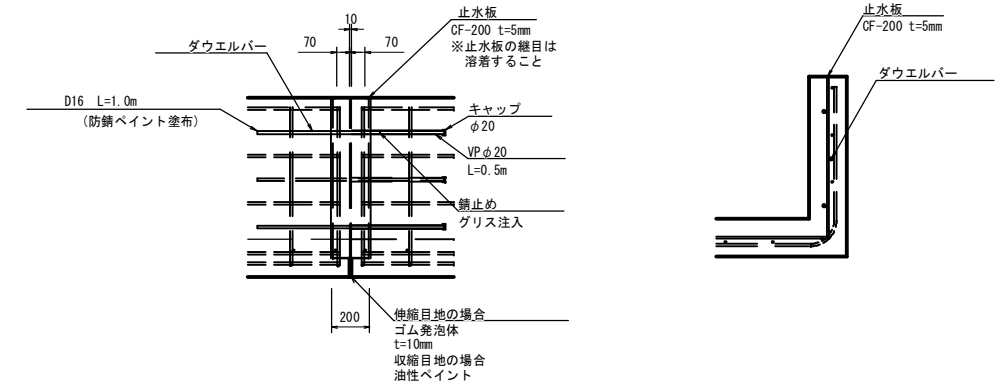
B-B断面図

S=1:30



目地・止水板・ダウエルバー

S=1:20

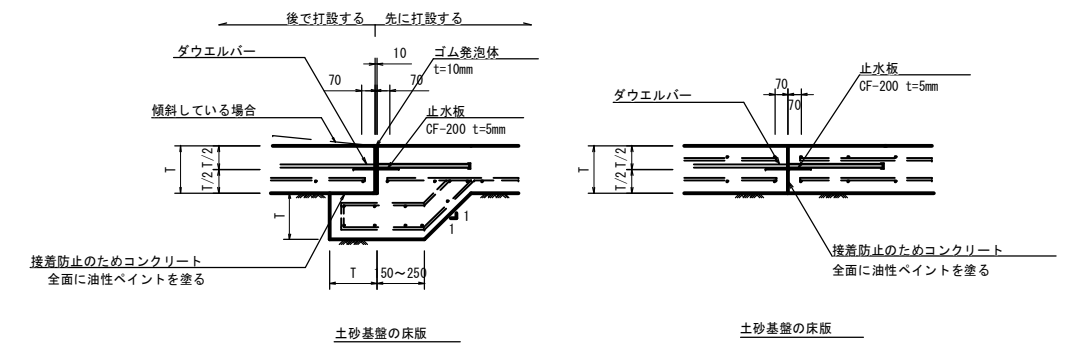


伸縮目地

S=1:20

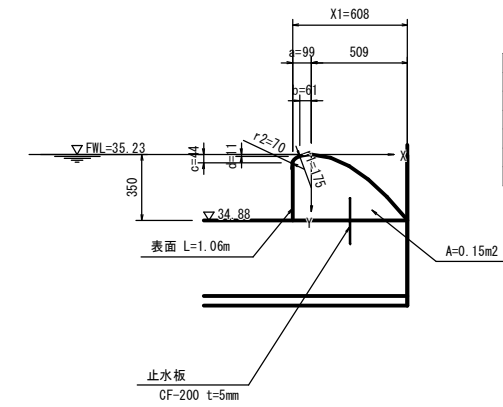
収縮目地

S=1:20



越流堰詳細図

S=1:20



No	X	Y
1	0.100	0.017
2	0.200	0.062
3	0.300	0.132
4	0.400	0.224
5	0.500	0.339
6	0.509	0.350

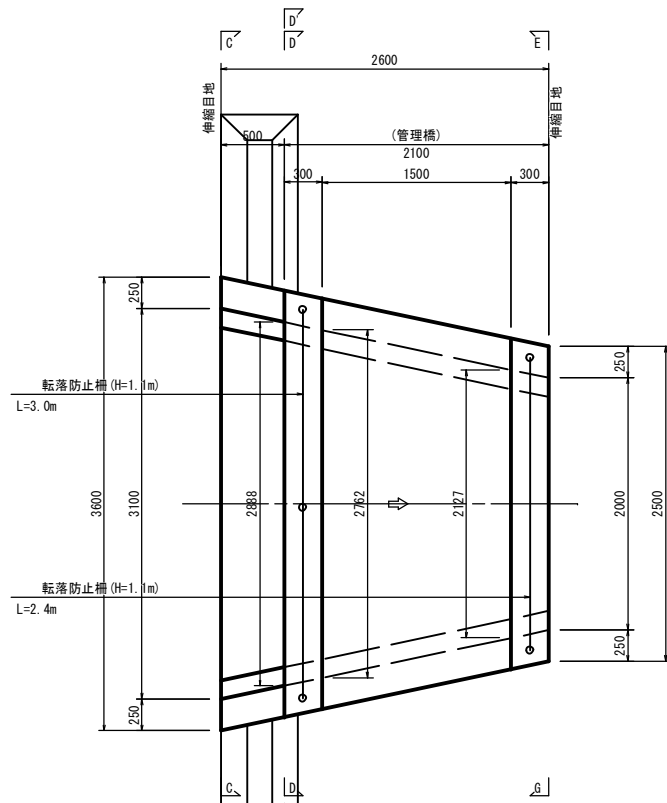
栗林池	
図面の名称	図面番号
洪水吐工構造図_1	3/28
測量	キタイ設計株式会社
設計	キタイ設計株式会社
製図	原図 2023年 10月
	複写
福山市 田尻町 地内	
福山市	

洪水吐工構造図(2)

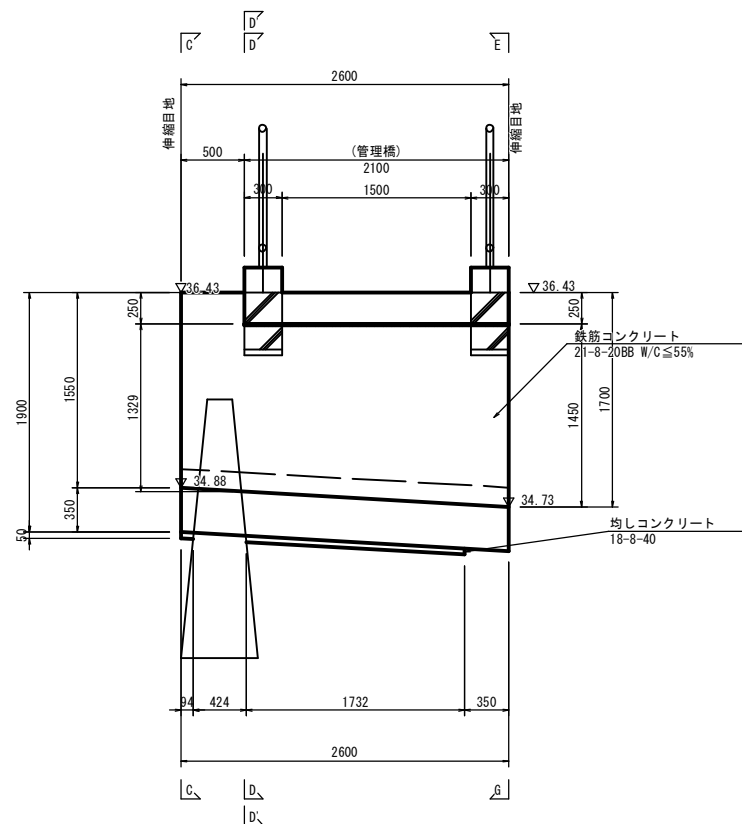
(移行部)

S=1:30

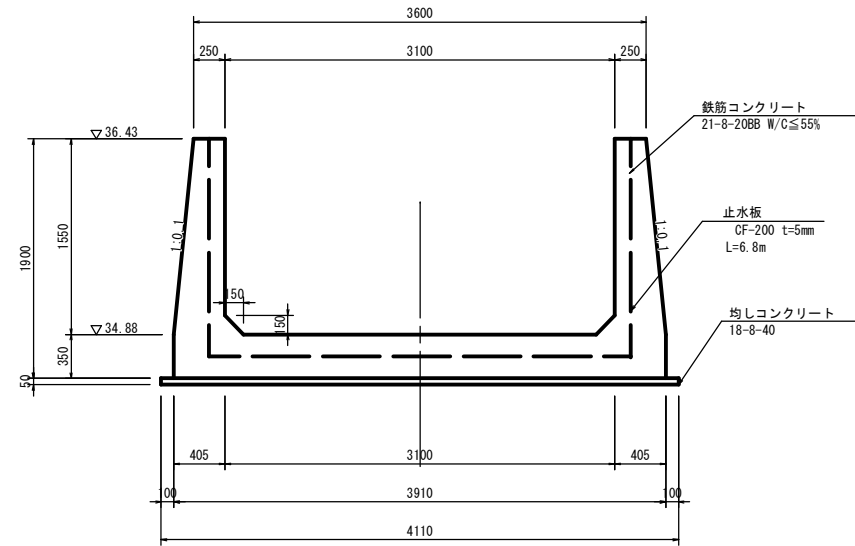
平面図



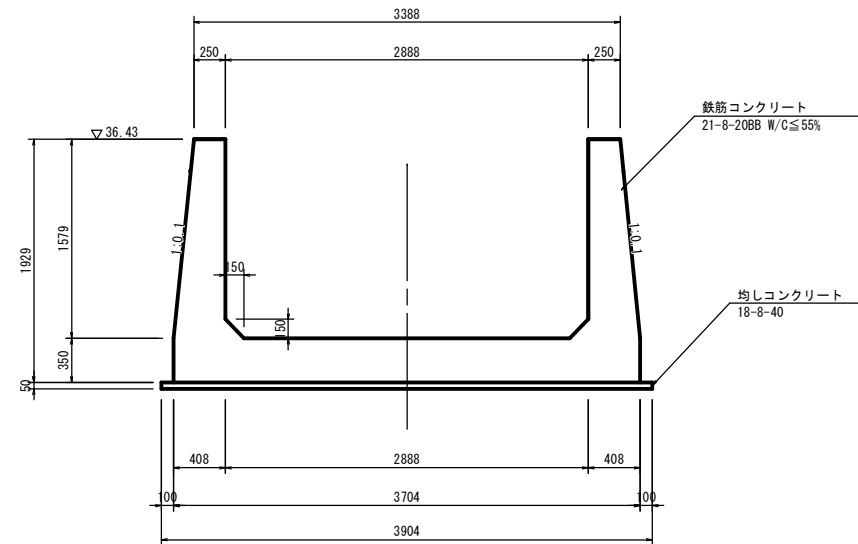
縦断面図



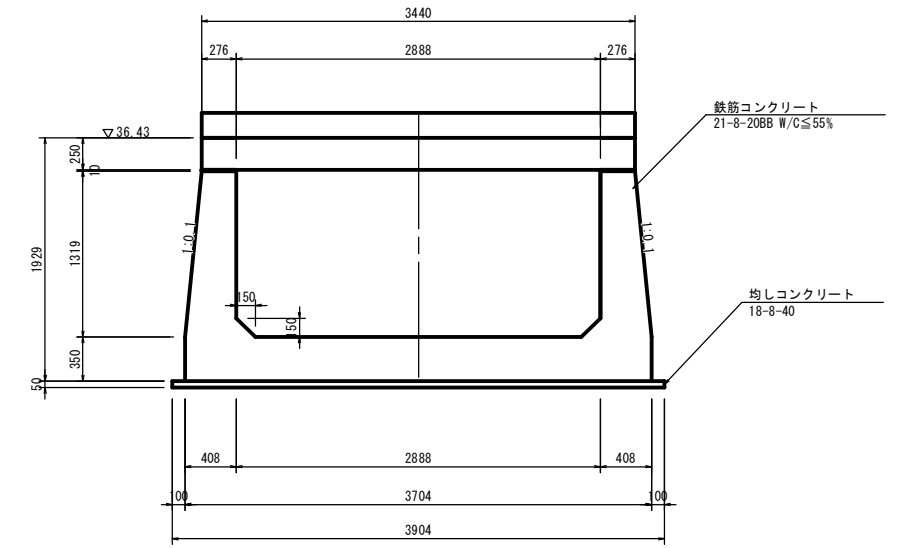
C-C断面図



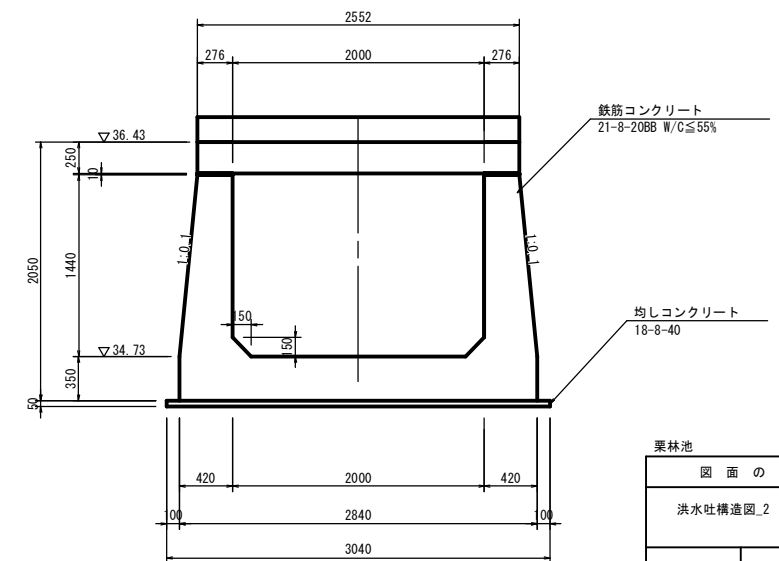
D-D断面図



D'-D'断面図



E-E断面図



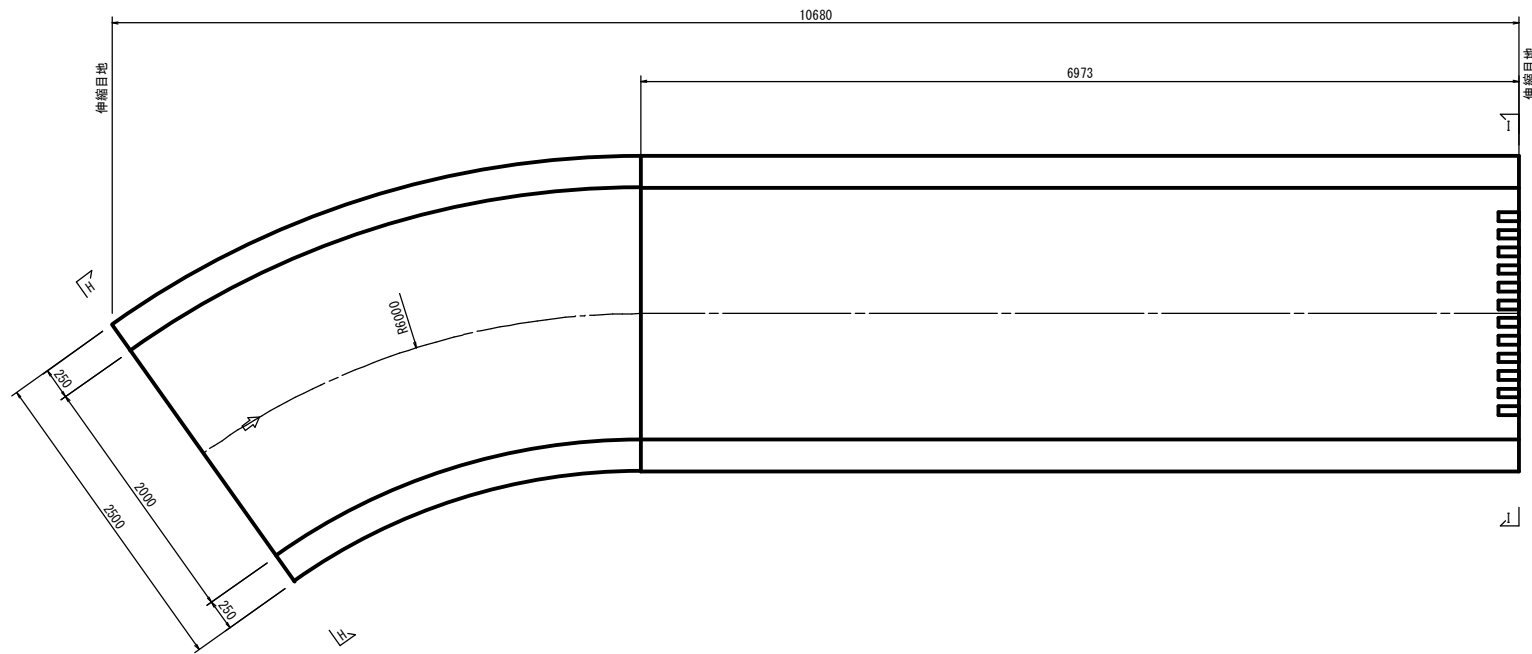
栗林池	
図面の名称	図面番号
洪水吐構造図_2	4/28
測量	キタイ設計株式会社
設計	キタイ設計株式会社
製図	原図 2023年 10月
	複写
福山市 田尻町 地内	
福山市	

洪水吐工構造図(3)

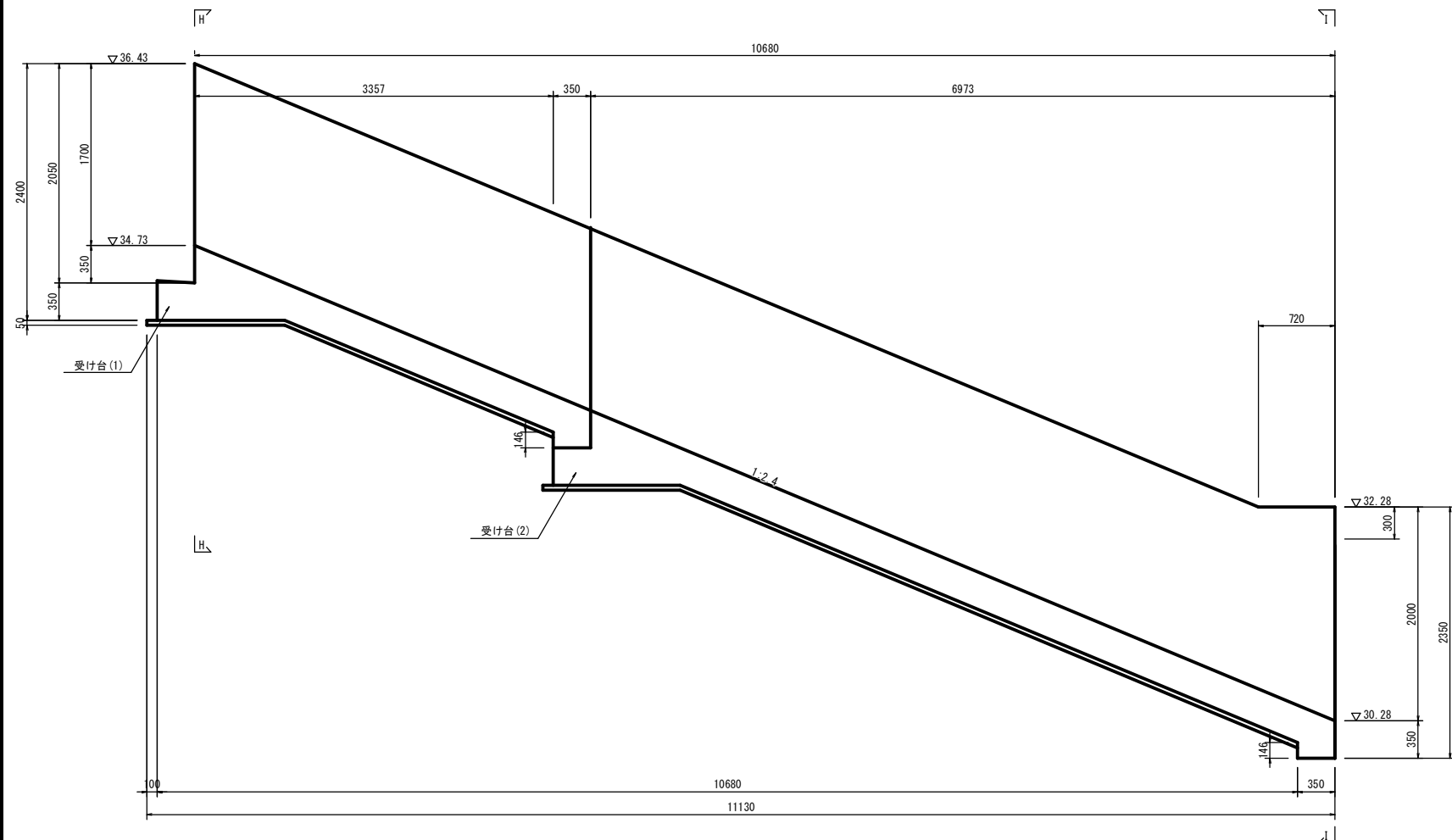
(放水路)

S=1:30

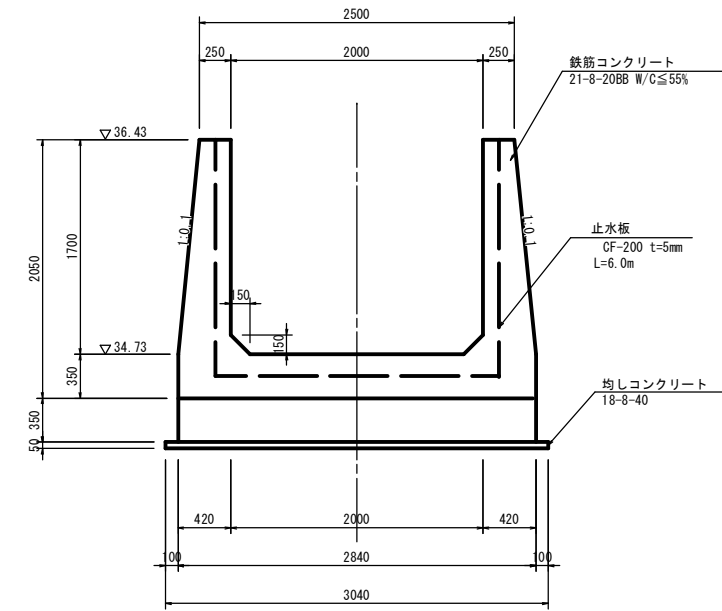
平面図



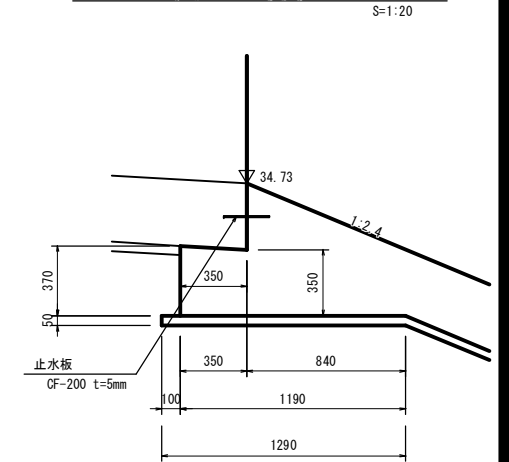
縦断面図



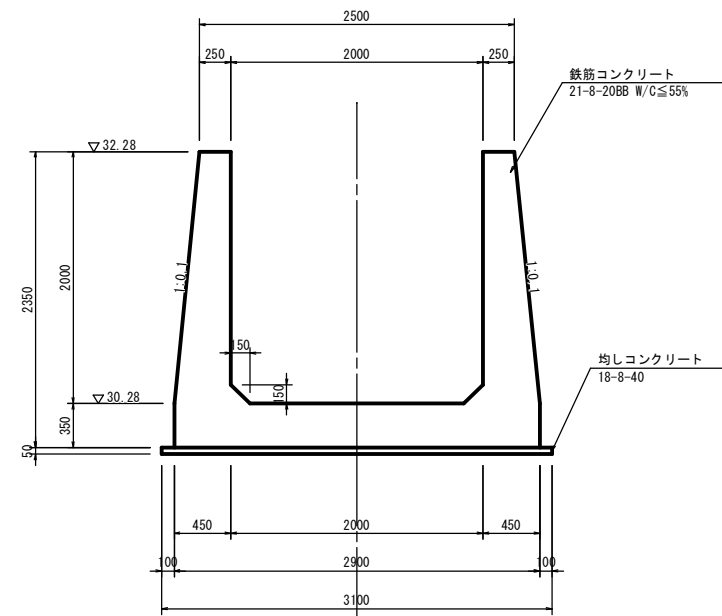
H-H断面図



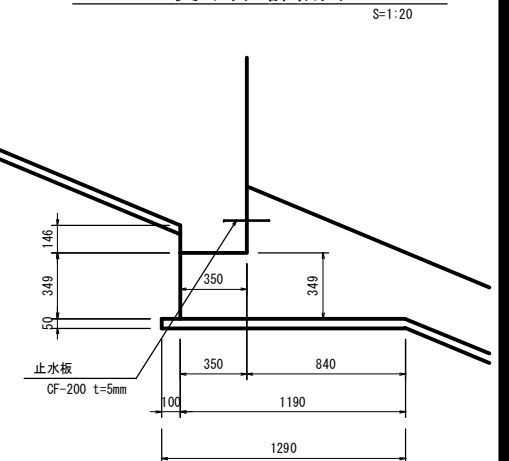
受け台1詳細図



I-I断面図



受け台2詳細図



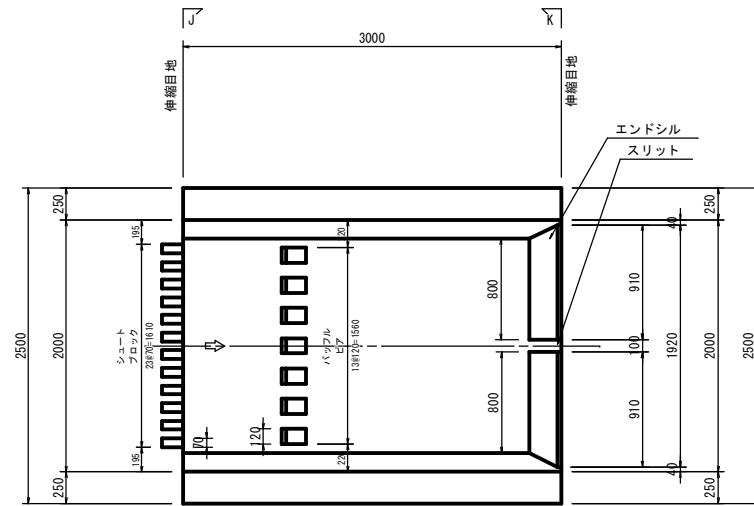
栗林池	
図面の名称	図面番号
洪水吐構造図_3	5/28
測量	キタイ設計株式会社
設計	キタイ設計株式会社
製図	原図 2023年 10月
	複写
福山市 田尻町 地内	
福山市	

この図面はA3版時、約50%で縮小しています。

洪水吐工構造図(4)

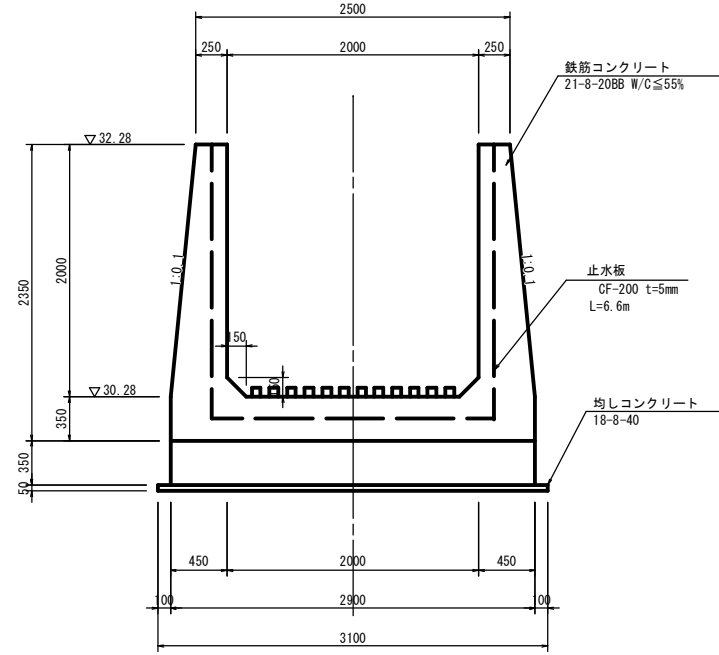
(静水池) S=1:30

平面図



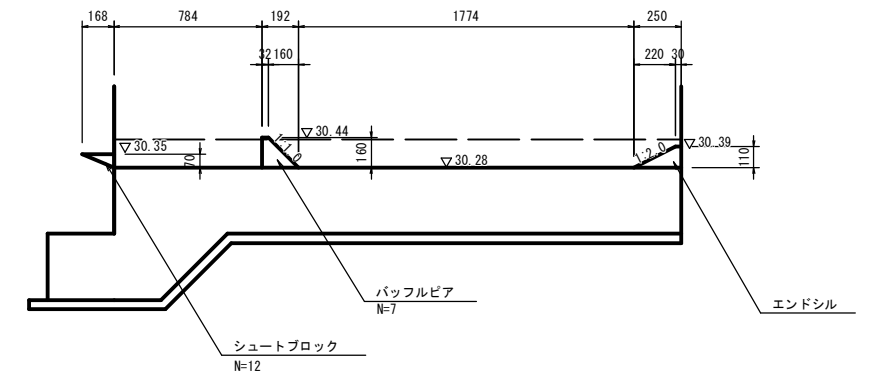
※シュートブロックは放水路に設置する。

J-J断面図



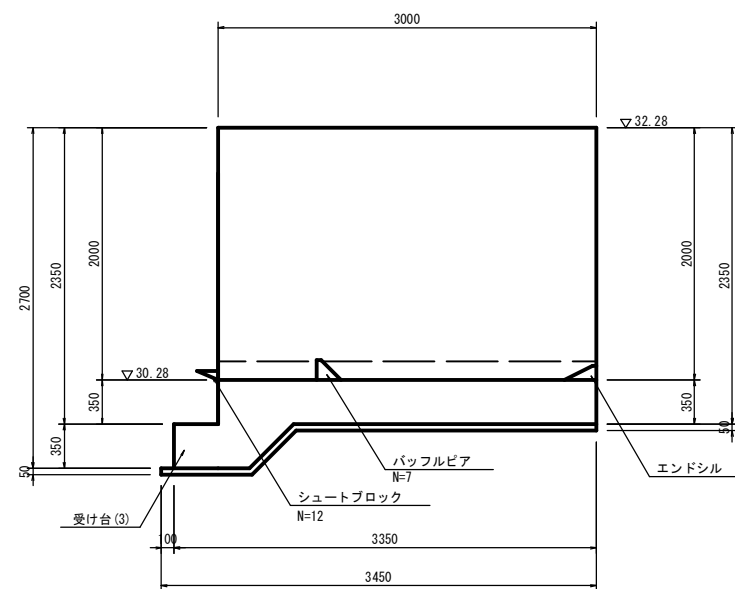
減勢工詳細図

S=1:20



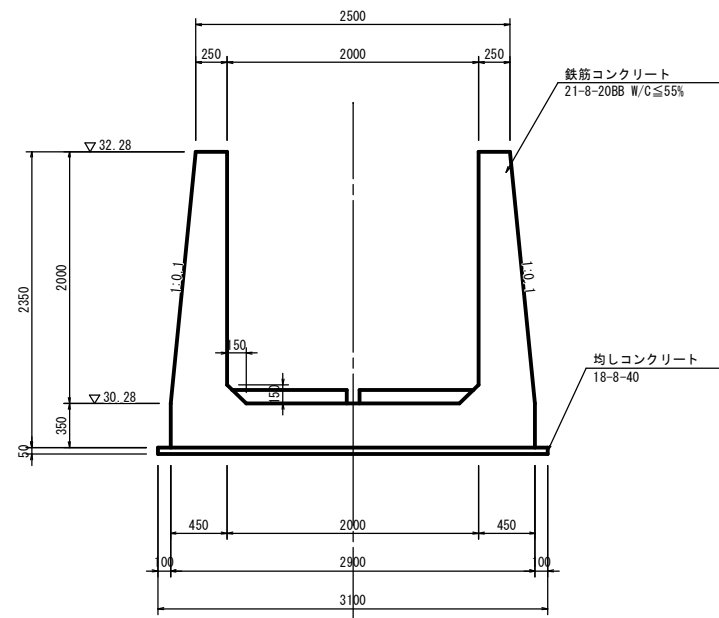
※シュートブロックは放水路に設置する。

縦断面図



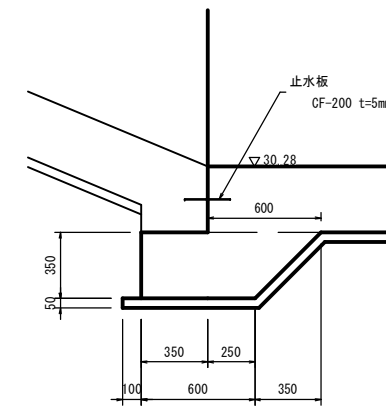
※シュートブロックは放水路に設置する。

K-K断面図



受け台3詳細図

S=1:20



栗林池	
図面の名称	図面番号
洪水吐構造図_4	6/28
測量	キタイ設計株式会社
設計	キタイ設計株式会社
製図	原図 2023年 10月
	複写
福山市 田尻町 地内	
福山市	

この図面はA3版時、約50%で縮小しています。

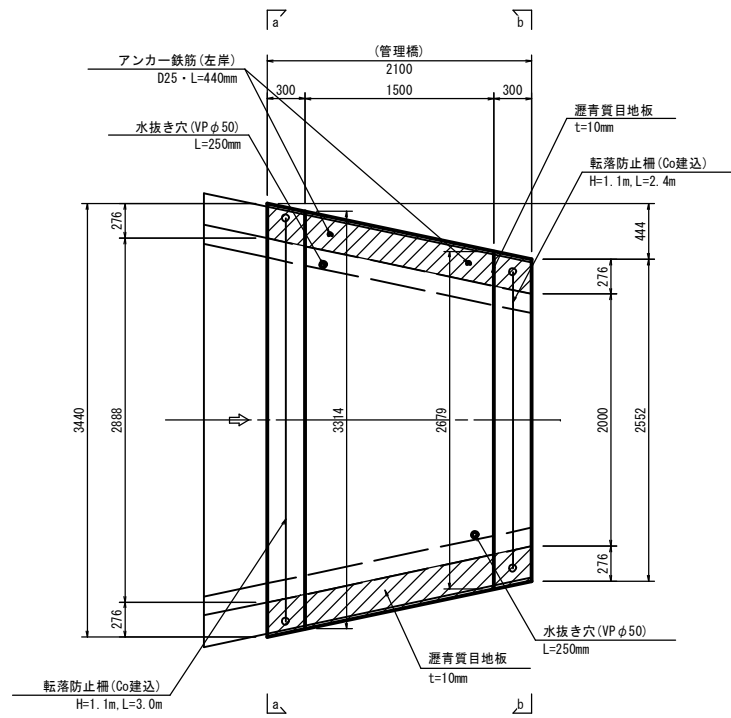
洪水吐工構造図(5)

(管理橋・止水壁)

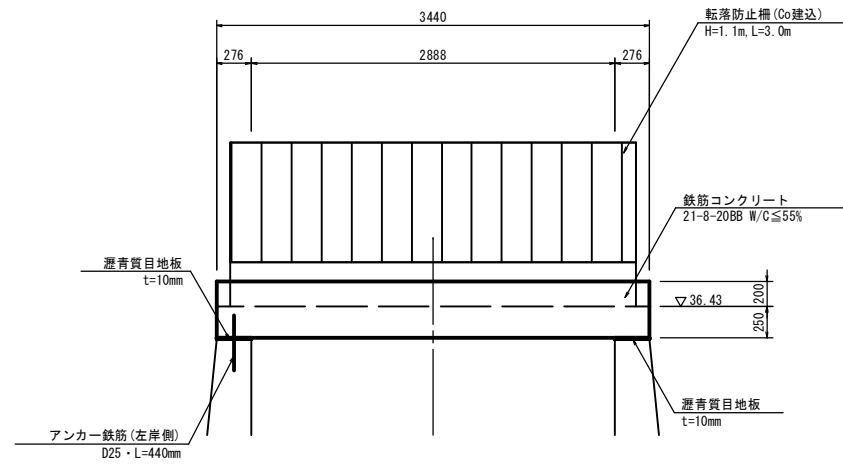
S=1:30

管理橋

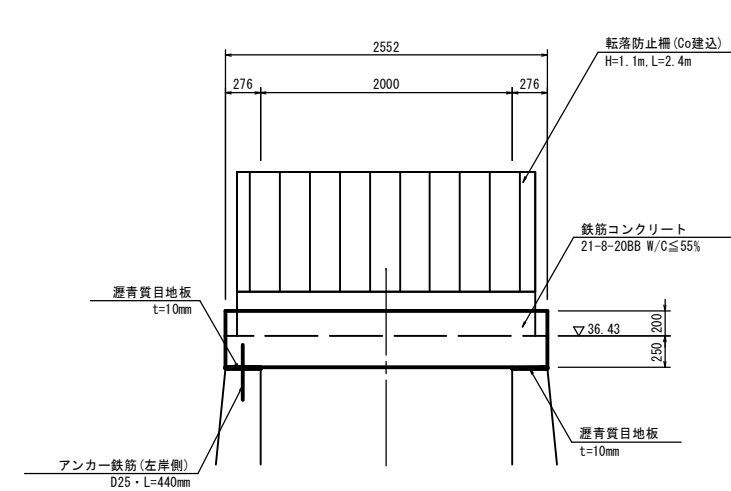
平面図



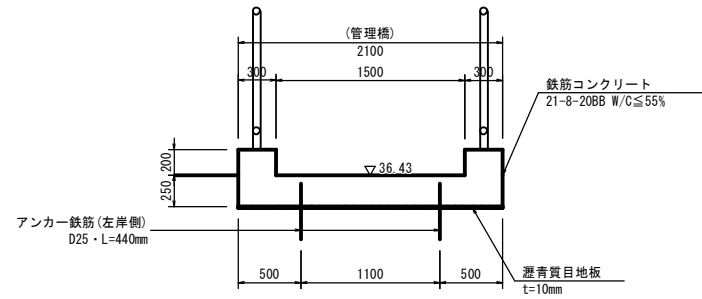
a-a断面図



b-b断面図

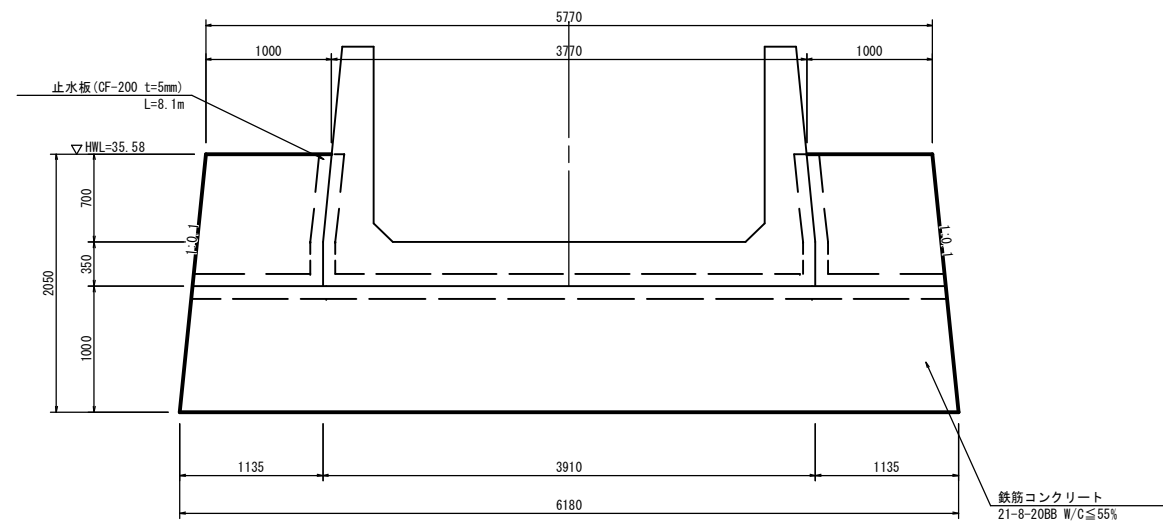


縦断面

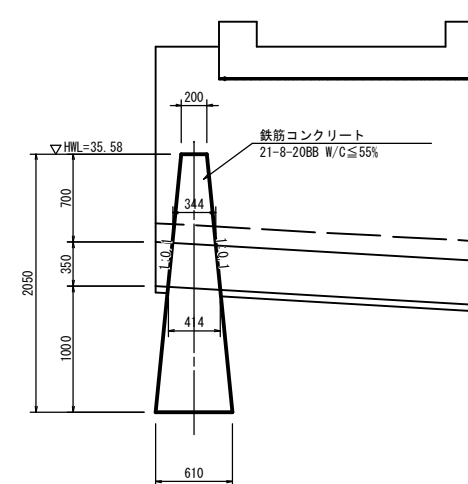


止水壁

正面図



側面図



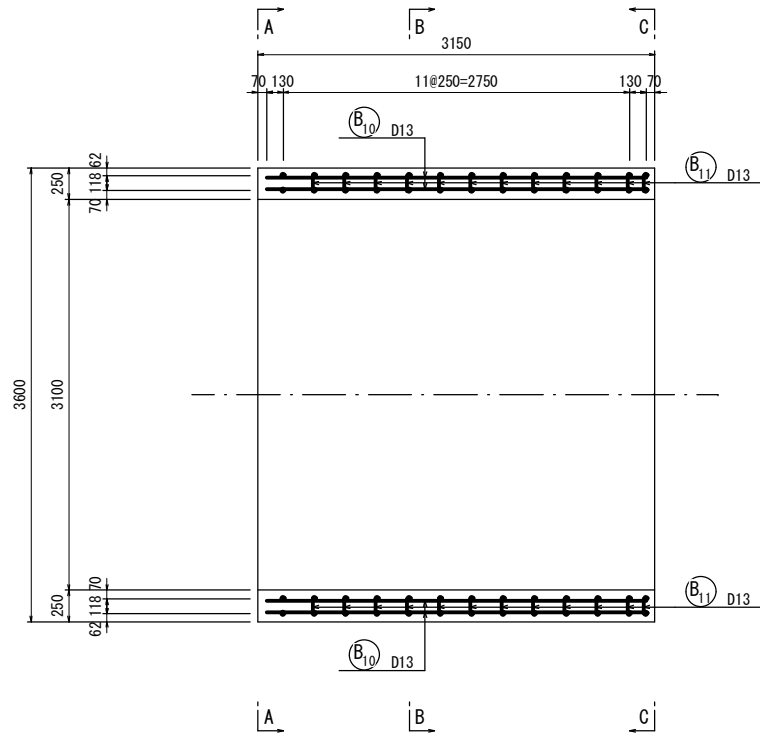
図面の名称		図面番号
洪水吐構造図_5		7/28
測量	キタイ設計株式会社	
設計	キタイ設計株式会社	
製図	原図	2023年 10月
	複写	
福山市 田尻町 地内		
福山市		

この図面はA3版時、約50%で縮小しています。

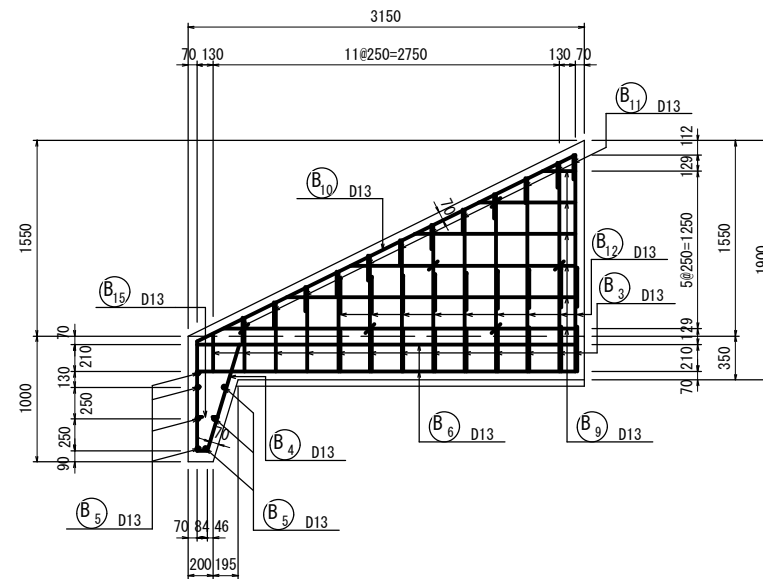
洪水吐配筋図-1

接近水路 S=1:30

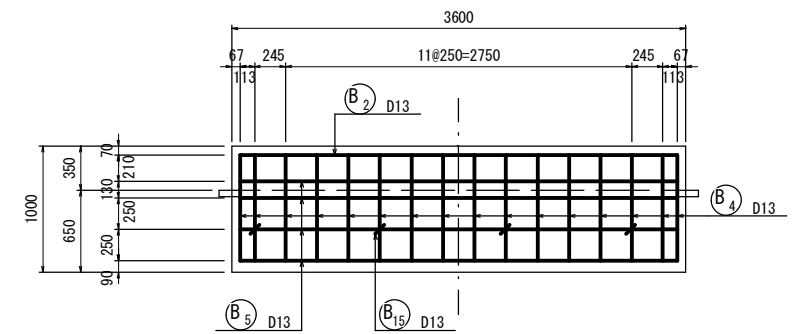
平面図
(天端)



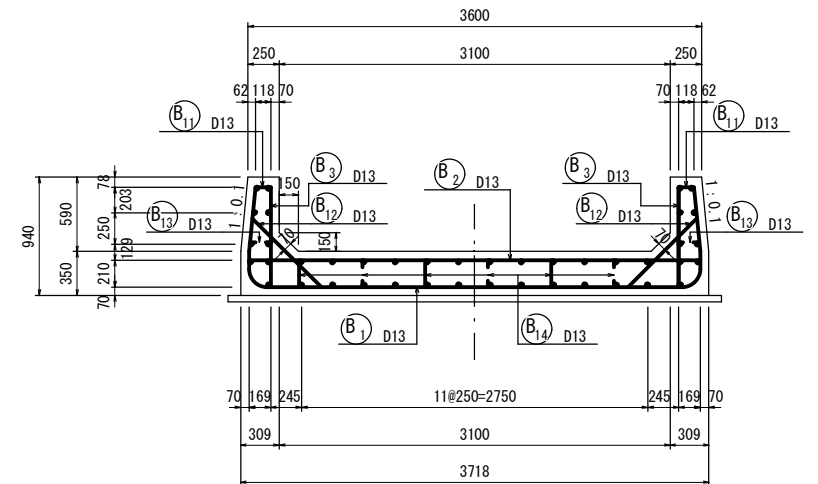
側壁(内側)



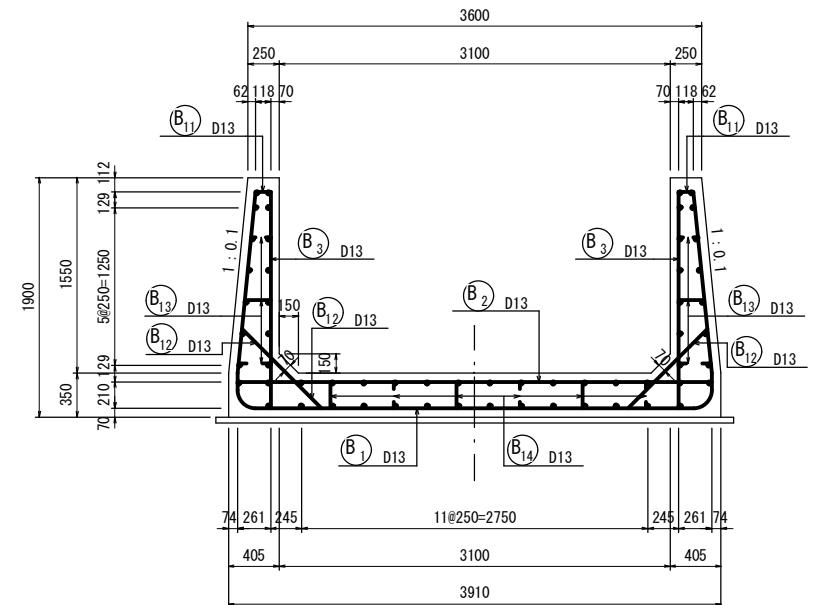
A-A断面



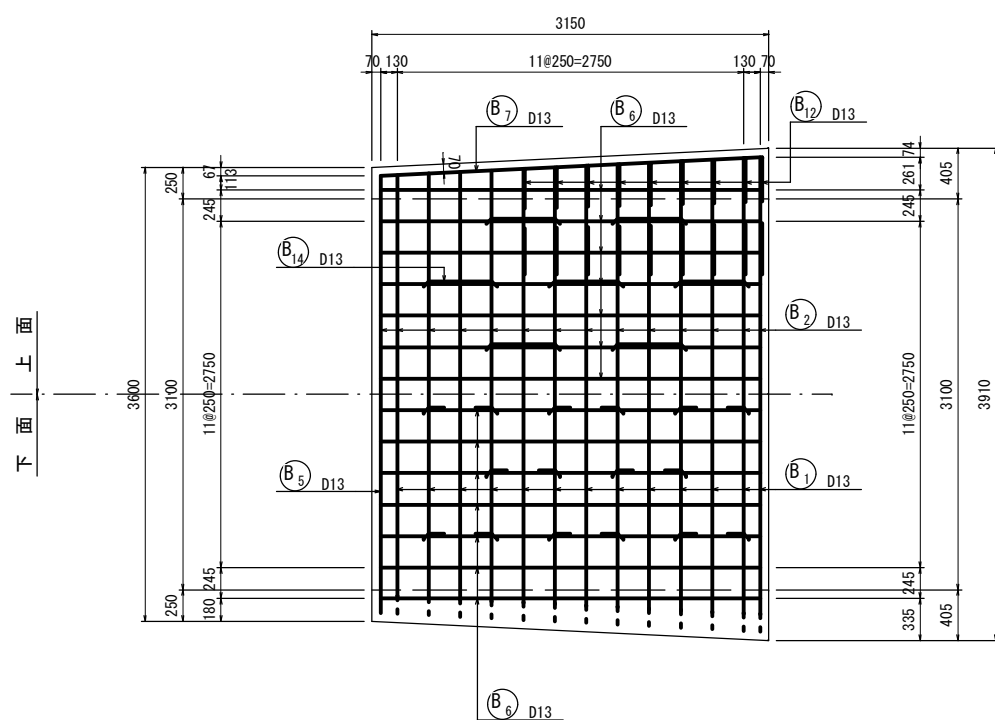
B-B断面



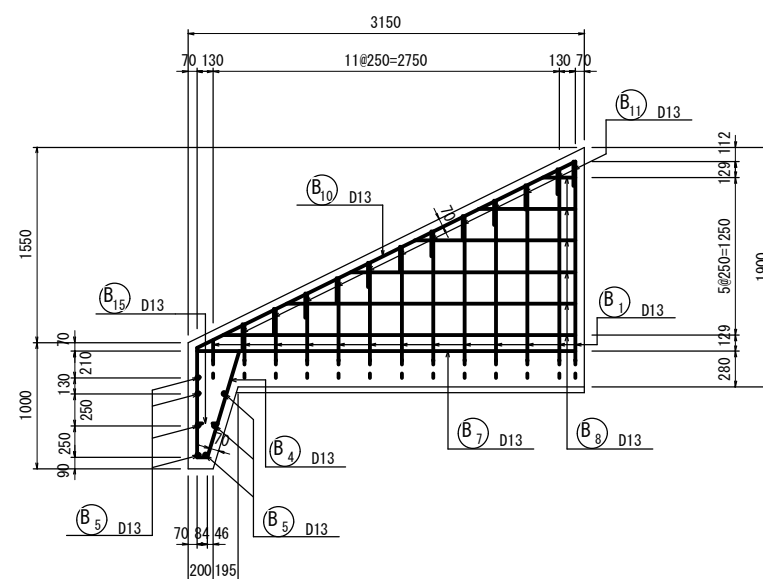
C-C断面



底版



側壁(外側)



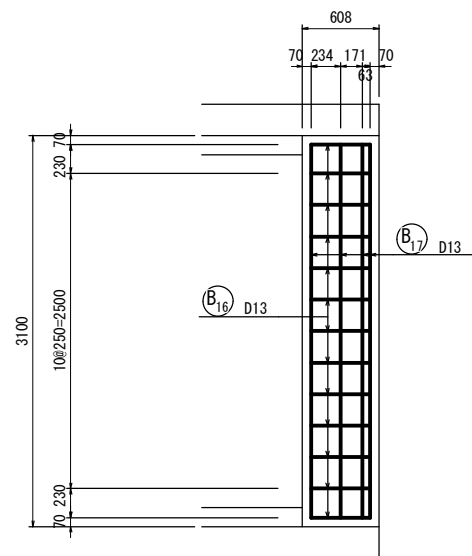
図面の名称		図面番号
洪水吐配筋図-1		8/28
縮尺 1:30		
測量	キタイ設計株式会社	
設計	キタイ設計株式会社	
製図	原図	2023年 10月
	複写	
福山市 田尻町 地内		
福山市		

※鉄筋の寸法表示は、鉄筋センター寸法を示す。
ハンチ筋及び組立鉄筋は主筋につなぐこと。
鉄筋の結束は全ての交点で行うこと。

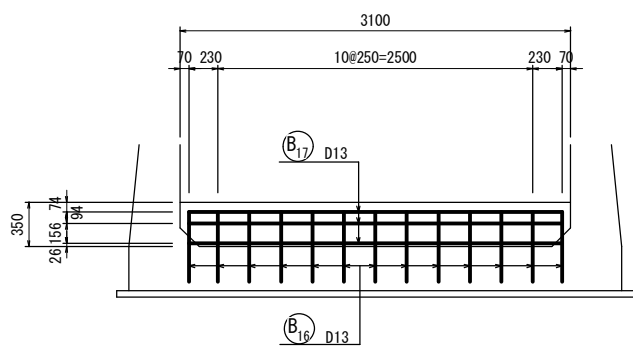
洪水吐配筋図-2

接近水路 S=1:30

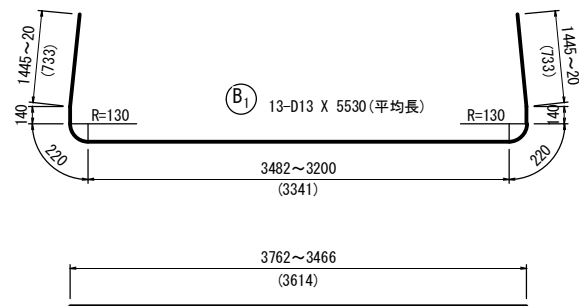
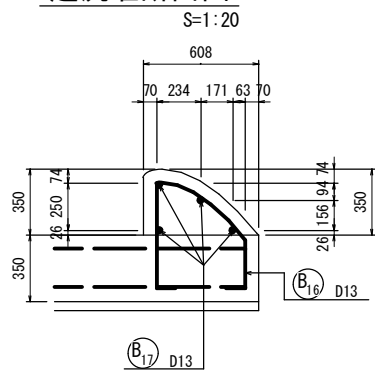
越流堰平面図



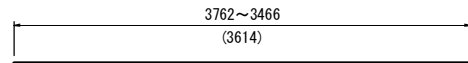
越流堰正面図



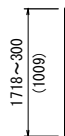
越流堰断面図



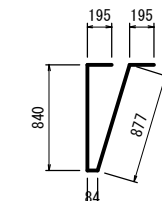
B₁ 13-D13 X 5530 (平均長)



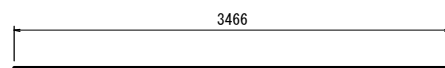
B₂ 14-D13 X 3610 (平均長)



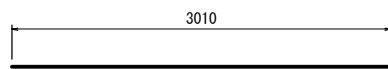
B₃ 26-D13 X 1010 (平均長)



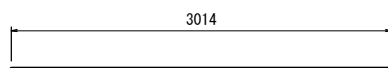
B₄ 16-D13 X 2190



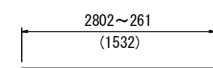
B₅ 7-D13 X 3470



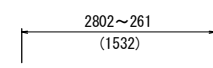
B₆ 28-D13 X 3010



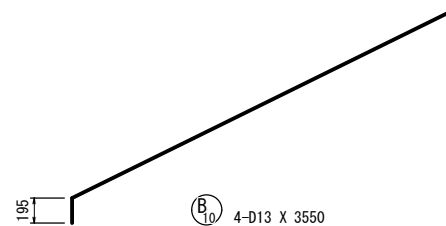
B₇ 2-D13 X 3010



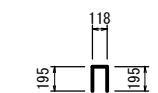
B₈ 12-D13 X 1530 (平均長)



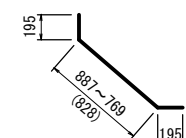
B₉ 12-D13 X 1530 (平均長)



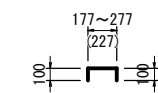
B₁₀ 4-D13 X 3550



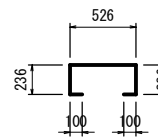
B₁₁ 24-D13 X 510



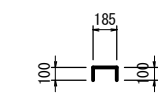
B₁₂ 18-D13 X 1220 (平均長)



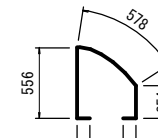
B₁₃ 12-D13 X 430 (平均長)



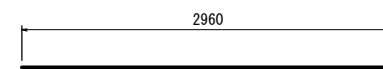
B₁₄ 15-D13 X 1200



B₁₅ 4-D13 X 390



B₁₆ 13-D13 X 1590



B₁₇ 4-D13 X 2960

鉄筋質量表

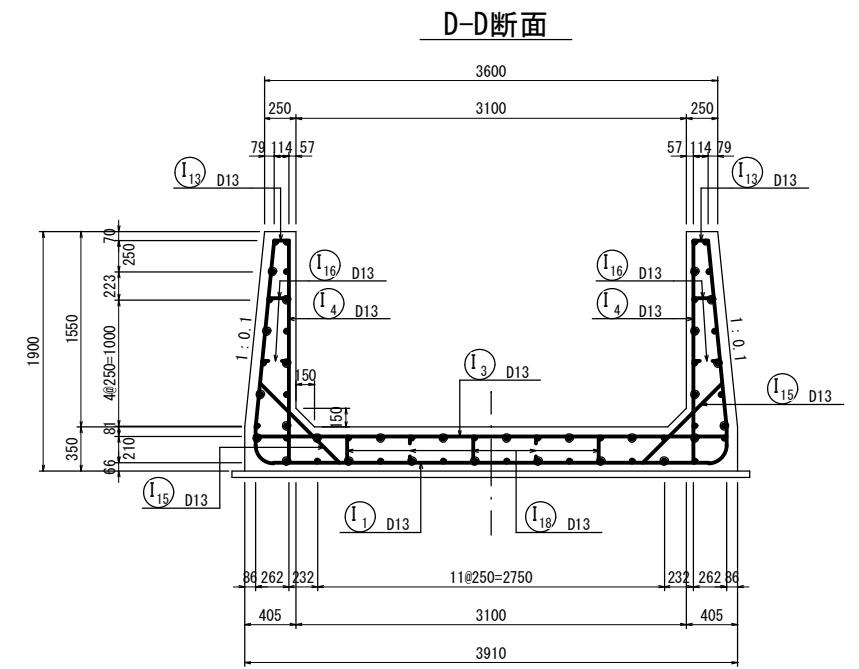
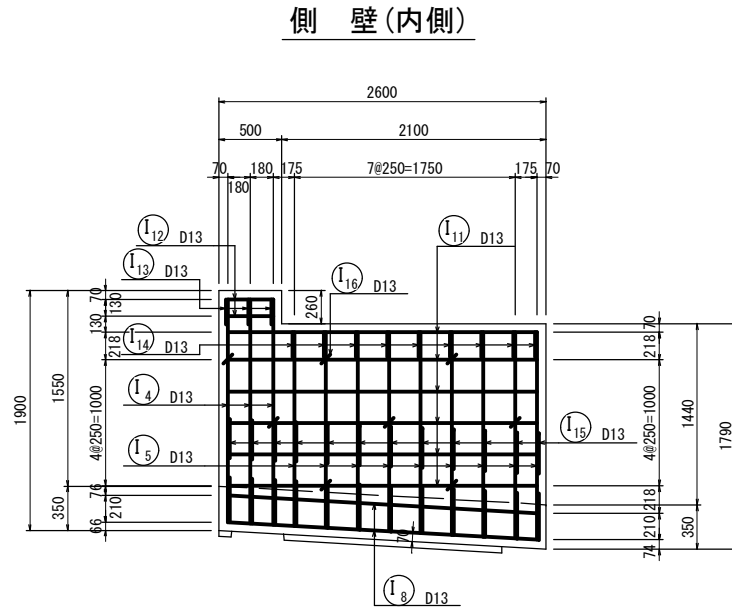
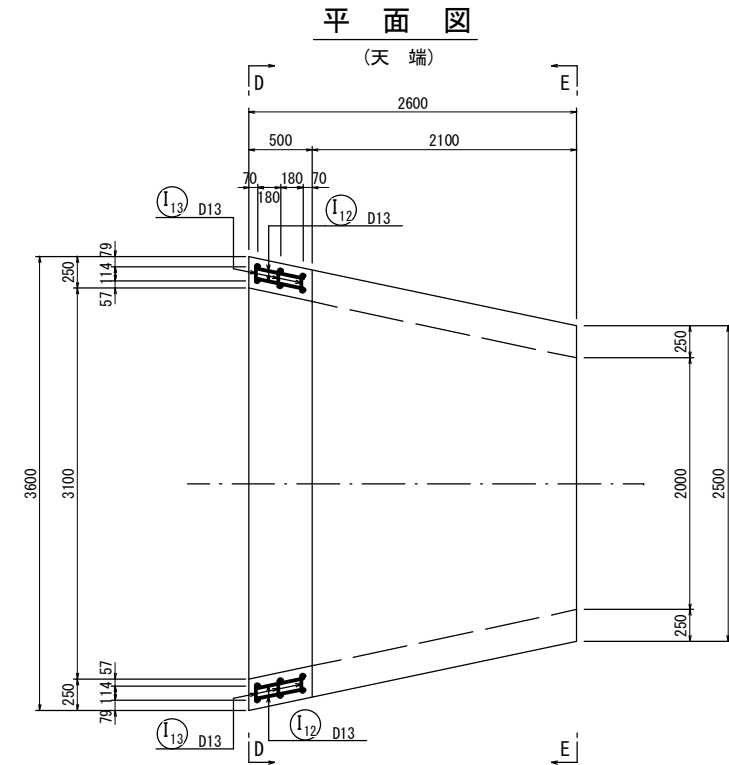
記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当たり質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
B 1	D 13	5530	13	0.995	5.502	71.526	┌ (平均長)
B 2	D 13	3610	14	0.995	3.592	50.288	— (平均長)
B 3	D 13	1010	26	0.995	1.005	26.130	└ (平均長)
B 4	D 13	2190	16	0.995	2.179	34.864	└┐
B 5	D 13	3470	7	0.995	3.453	24.171	—
B 6	D 13	3010	28	0.995	2.995	83.860	—
B 7	D 13	3010	2	0.995	2.995	5.990	—
B 8	D 13	1530	12	0.995	1.522	18.264	— (平均長)
B 9	D 13	1530	12	0.995	1.522	18.264	— (平均長)
B 10	D 13	3550	4	0.995	3.532	14.128	└┐
B 11	D 13	510	24	0.995	0.507	12.168	└┐
B 12	D 13	1220	18	0.995	1.214	21.852	└┐ (平均長)
B 13	D 13	430	12	0.995	0.428	5.136	└┐ (平均長)
B 14	D 13	1200	15	0.995	1.194	17.910	└┐
B 15	D 13	390	4	0.995	0.388	1.552	└┐
B 16	D 13	1590	13	0.995	1.582	20.566	└┐
B 17	D 13	2960	4	0.995	2.945	11.780	—
					計	438.449	
					D13	438.449 (kg)	
					合計	438.449 (kg)	

製図		原図	2023年 10月
製図		複写	
測量		キタイ設計株式会社	
設計		キタイ設計株式会社	
図面の名称		洪水吐配筋図-2	図面番号 9/28
縮尺		図示	
製図		福山市 田尻町 地内	
製図		福山市	

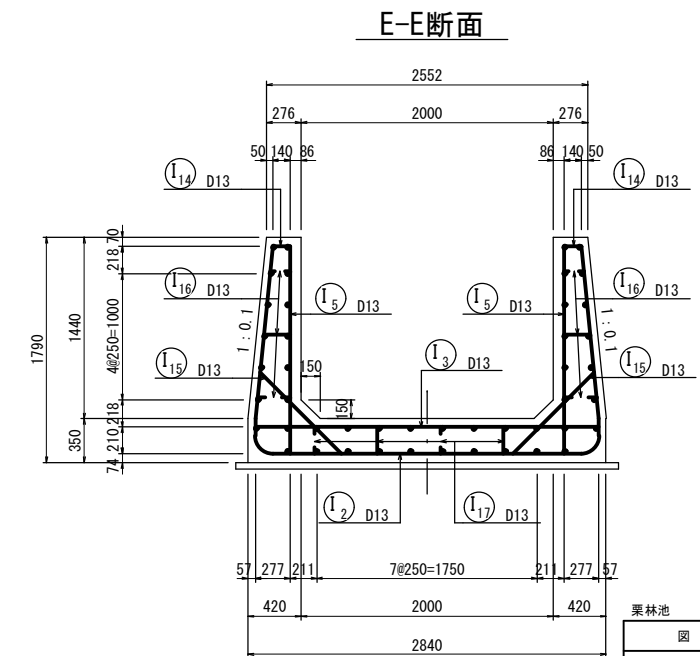
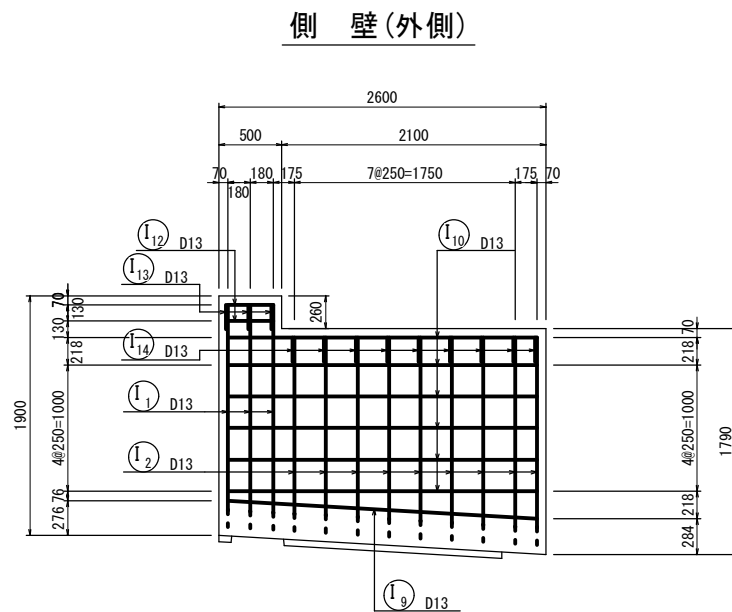
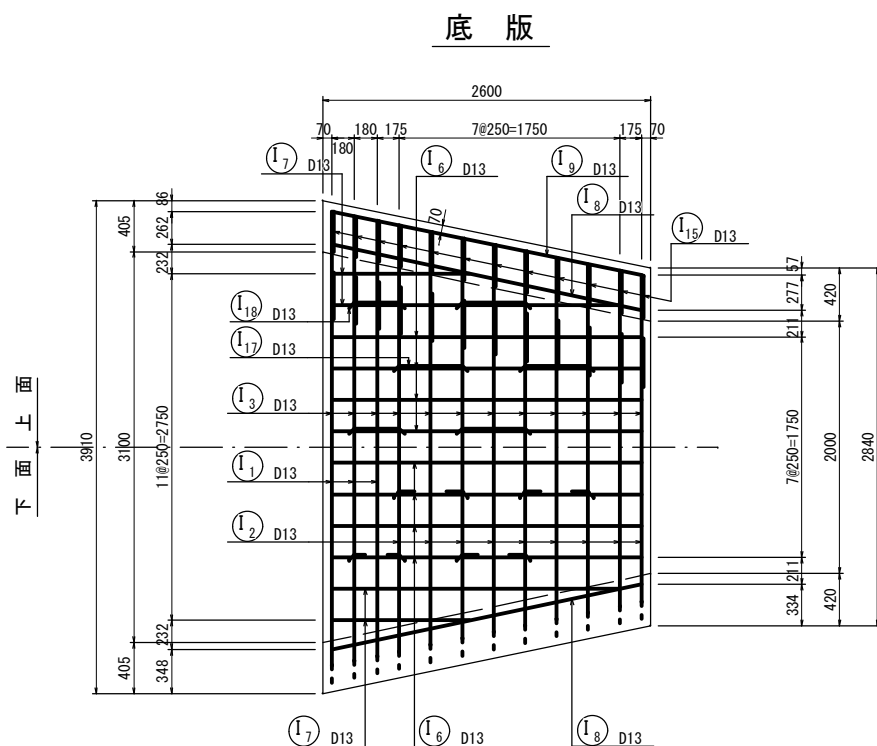
※鉄筋の寸法表示は、鉄筋センター寸法を示す。
ハンチ筋及び組立鉄筋は主筋につなぐこと。
鉄筋の結束は全ての交点で行うこと。

洪水吐配筋図-3

移行部 S=1:30



○印はダウエルバーの位置を示す
N=27

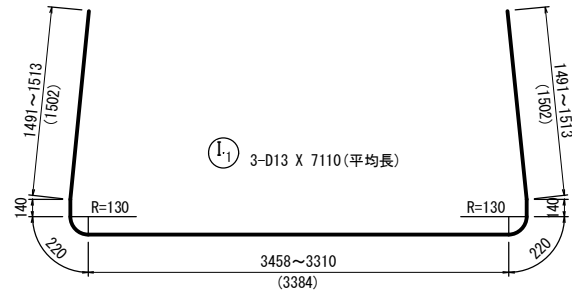


※鉄筋の寸法表示は、鉄筋センター寸法を示す。
ハンチ筋及び組立鉄筋は主筋につなぐこと。
鉄筋の結束は全ての交点で行うこと。

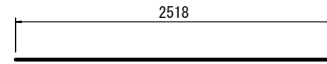
図面の名称		図面番号
洪水吐配筋図-3 縮尺 図示		10/28
測量	キタイ設計株式会社	
設計	キタイ設計株式会社	
製図	原図	2023年 10月
	複写	
福山市 田尻町 地内		
福山市		

洪水吐配筋図-4

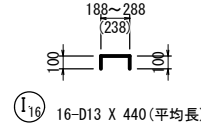
移行部 S=1:30



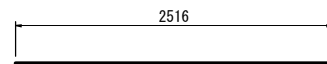
I-1 3-D13 X 7110 (平均長)



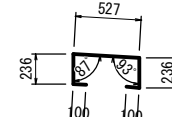
I-8 4-D13 X 2520



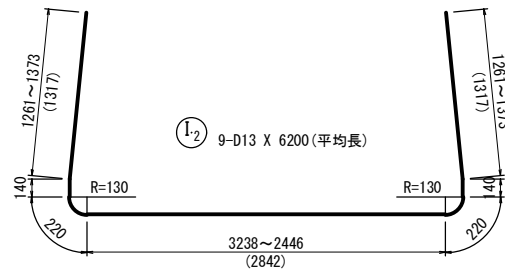
I-16 16-D13 X 440 (平均長)



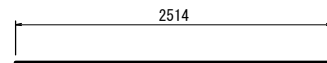
I-9 2-D13 X 2520



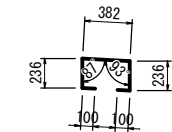
I-17 7-D13 X 1200



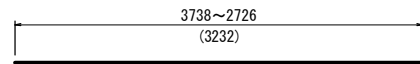
I-2 9-D13 X 6200 (平均長)



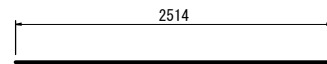
I-10 12-D13 X 2510



I-18 3-D13 X 1050



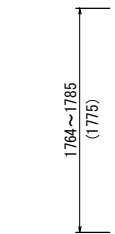
I-3 12-D13 X 3230 (平均長)



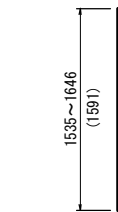
I-11 12-D13 X 2510



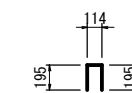
I-12 8-D13 X 370



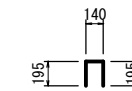
I-4 6-D13 X 1780 (平均長)



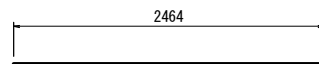
I-5 18-D13 X 1590 (平均長)



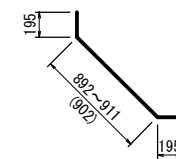
I-13 6-D13 X 500



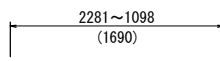
I-14 18-D13 X 530



I-6 16-D13 X 2460



I-15 24-D13 X 1290 (平均長)



I-7 8-D13 X 1690 (平均長)

鉄筋質量表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当たり 質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要	
I 1	D 13	7110	3	0.995	7.074	21.222	┌ (平均長)	
I 2	D 13	6200	9	0.995	6.169	55.521	┌ (平均長)	
I 3	D 13	3230	12	0.995	3.214	38.568	— (平均長)	
I 4	D 13	1780	6	0.995	1.771	10.626	┌ (平均長)	
I 5	D 13	1590	18	0.995	1.582	28.476	┌ (平均長)	
I 6	D 13	2460	16	0.995	2.448	39.168	—	
I 7	D 13	1690	8	0.995	1.682	13.456	— (平均長)	
I 8	D 13	2520	4	0.995	2.507	10.028	—	
I 9	D 13	2520	2	0.995	2.507	5.014	—	
I 10	D 13	2510	12	0.995	2.497	29.964	—	
I 11	D 13	2510	12	0.995	2.497	29.964	—	
I 12	D 13	370	8	0.995	0.368	2.944	—	
I 13	D 13	500	6	0.995	0.498	2.988	┌	
I 14	D 13	530	18	0.995	0.527	9.486	┌	
I 15	D 13	1290	24	0.995	1.284	30.816	┌ (平均長)	
I 16	D 13	440	16	0.995	0.438	7.008	┌ (平均長)	
I 17	D 13	1200	7	0.995	1.194	8.358	┌	
I 18	D 13	1050	3	0.995	1.045	3.135	┌	
						計	346.742	
					D13	346.742 (kg)		
					合計	346.742 (kg)		

※鉄筋の寸法表示は、鉄筋センター寸法を示す。
ハンチ筋及び組立鉄筋は主筋につなぐこと。
鉄筋の結束は全ての交点で行うこと。

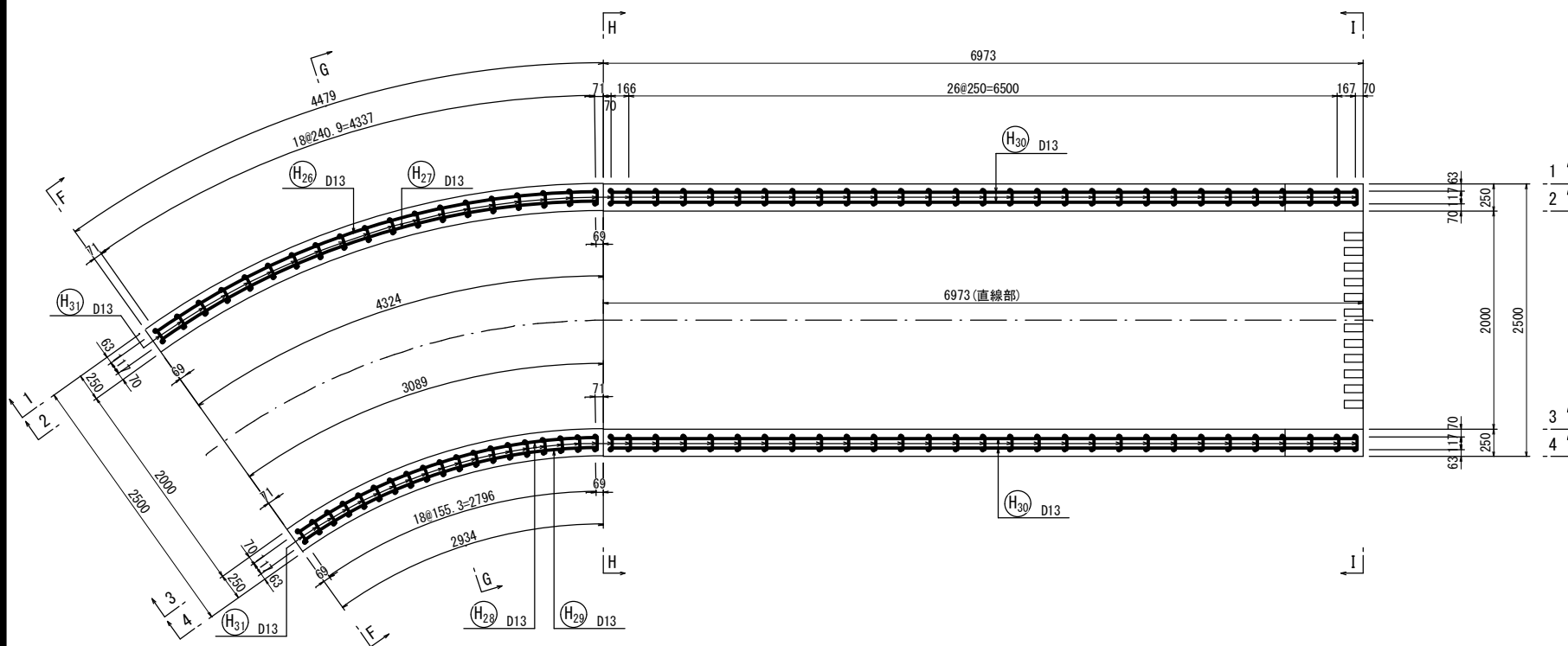
栗林池		図面の名称	図面番号
洪水吐配筋図-4 縮尺 図示			11/28
測量	キタイ設計株式会社		
設計	キタイ設計株式会社		
製図	原図	2023年 10月	
	複写		
福山市 田尻町 地内			
福山市			

洪水吐配筋図-5

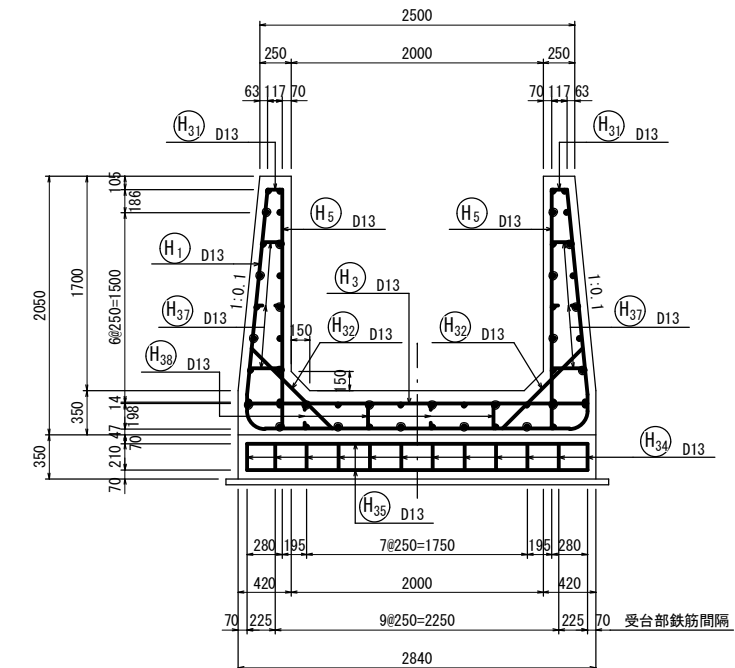
放水路 S=1:30

平面図

(天端)

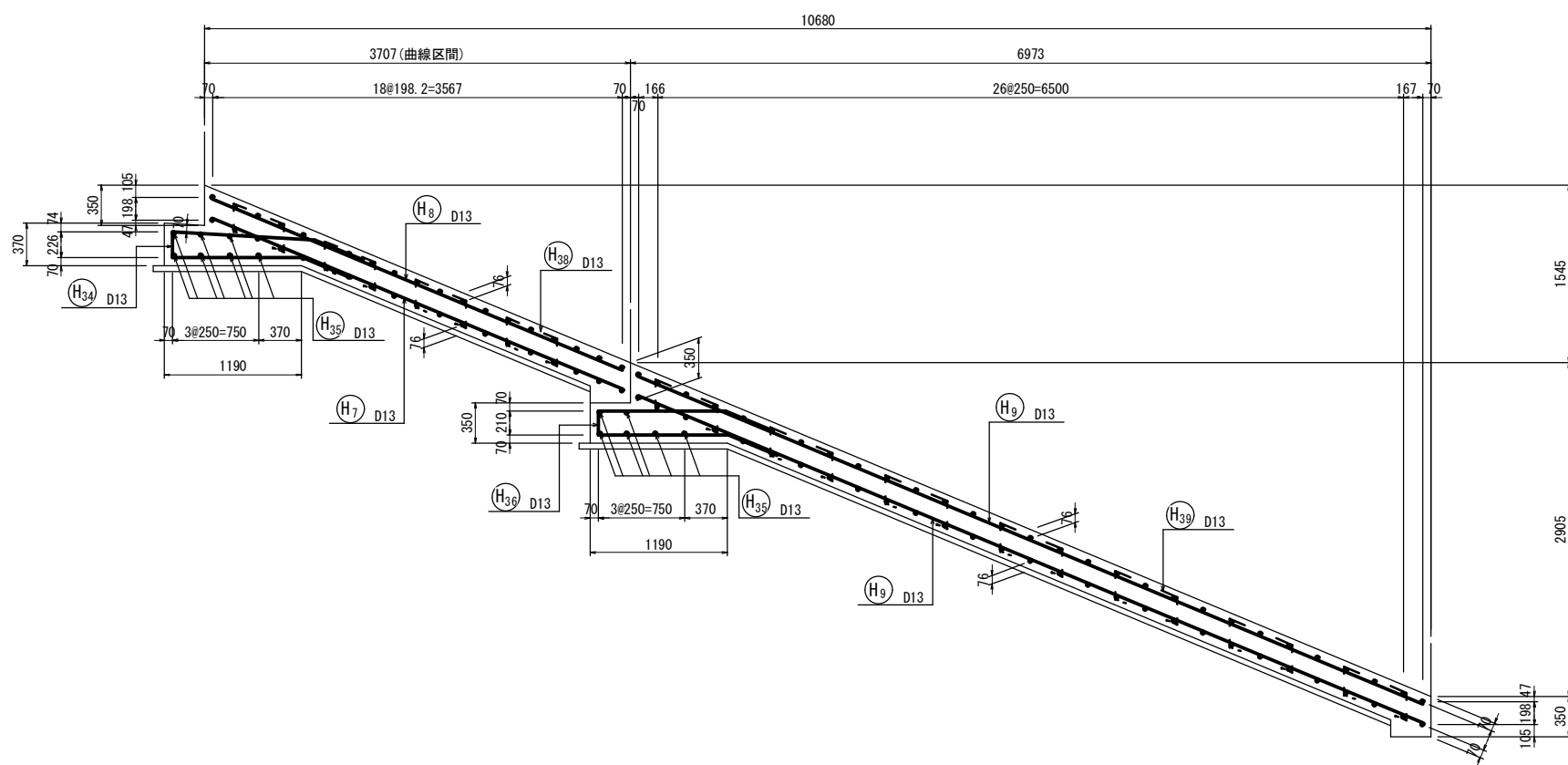


F-F断面

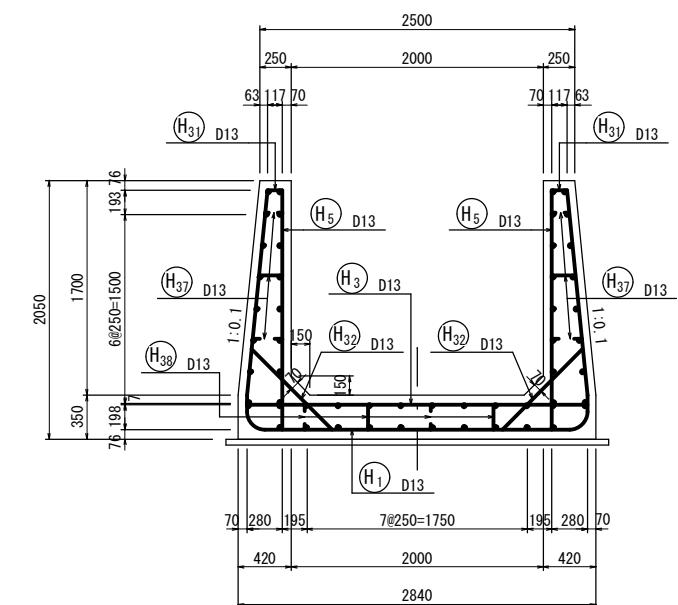


○印はダウエルバーの位置を示す
N=23

縦断面図



G-G断面



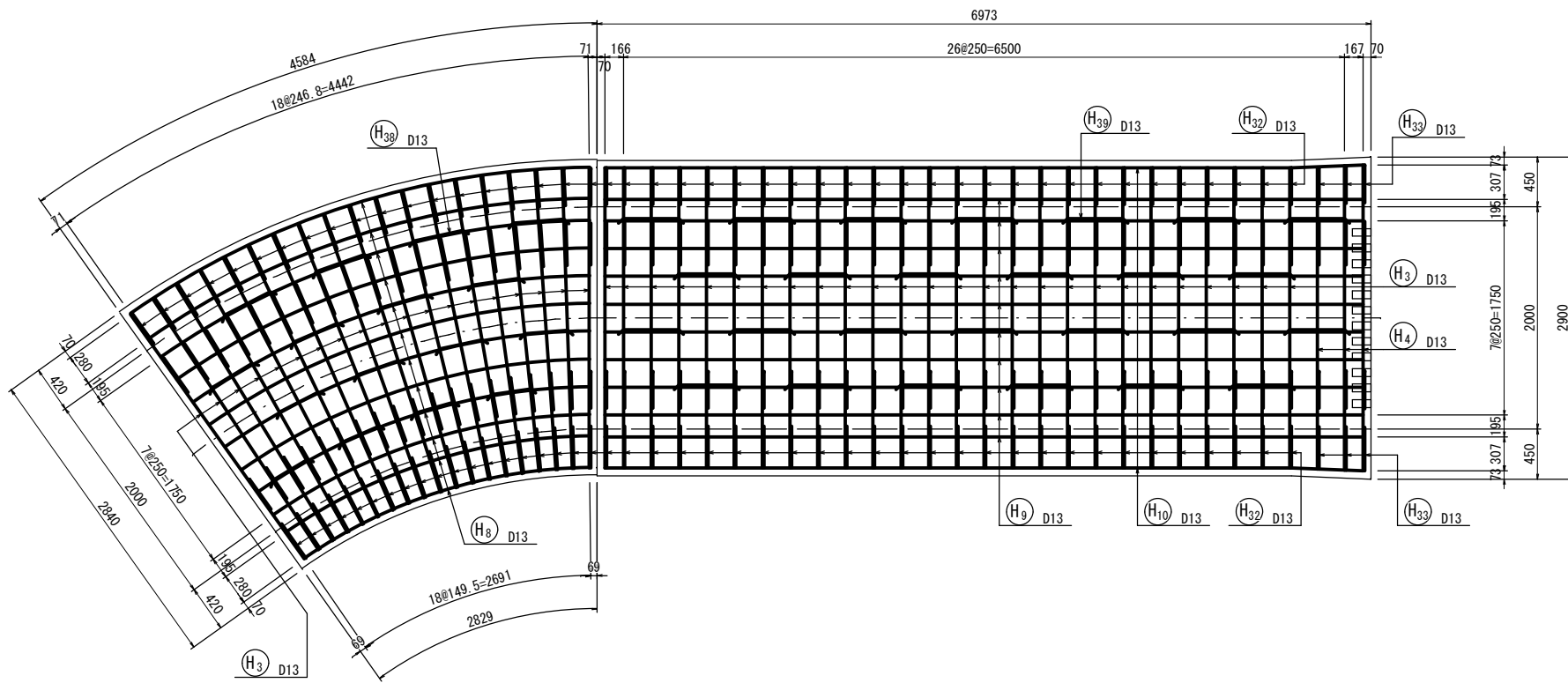
※鉄筋の寸法表示は、鉄筋センター寸法を示す。
ハンチ筋及び組立鉄筋は主筋につなぐこと。
鉄筋の結束は全ての交点で行うこと。

栗林池		図面の名称	図面番号
洪水吐配筋図-5		縮尺 図示	12/28
測量	キタイ設計株式会社		
設計	キタイ設計株式会社		
製図	原図	2023年 10月	
	複写		
福山市 田尻町 地内			
福山市			

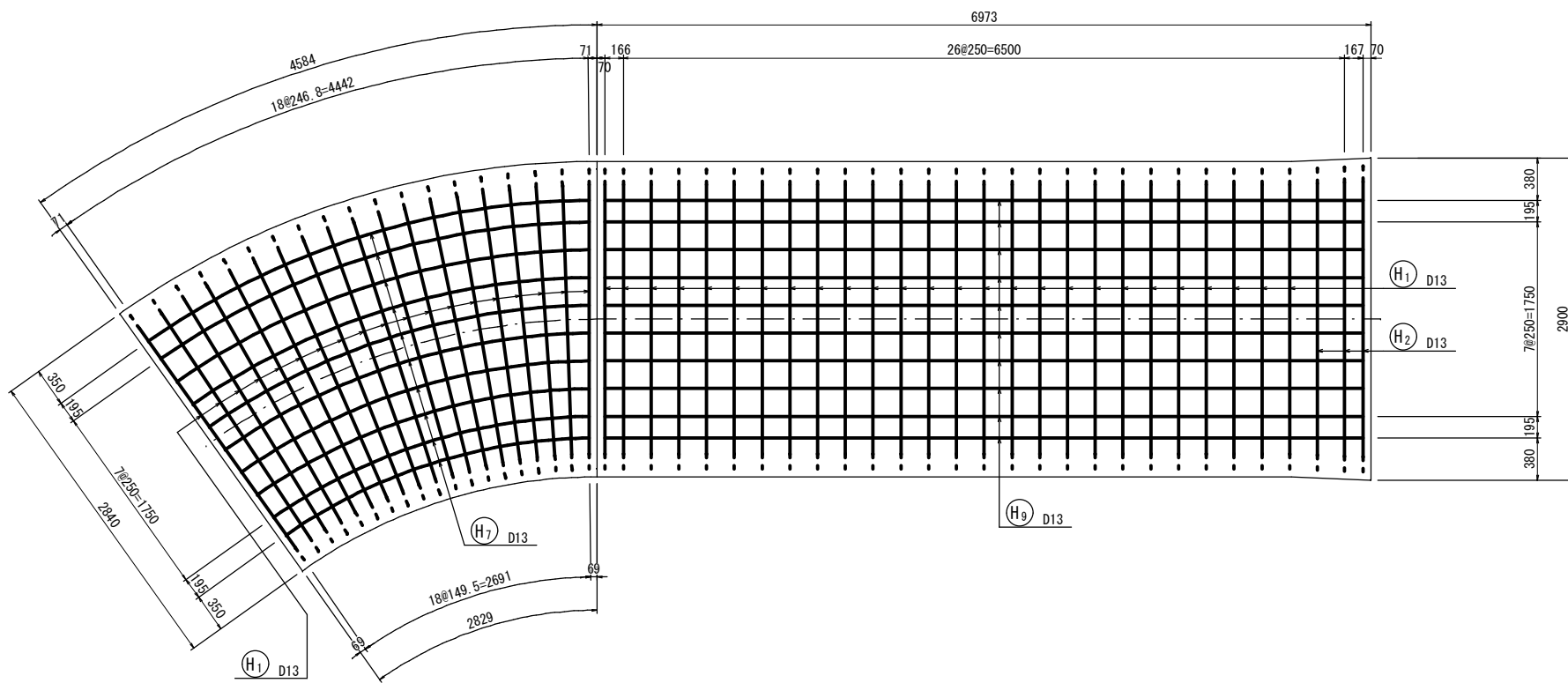
洪水吐配筋図-6

放水路 S=1:30

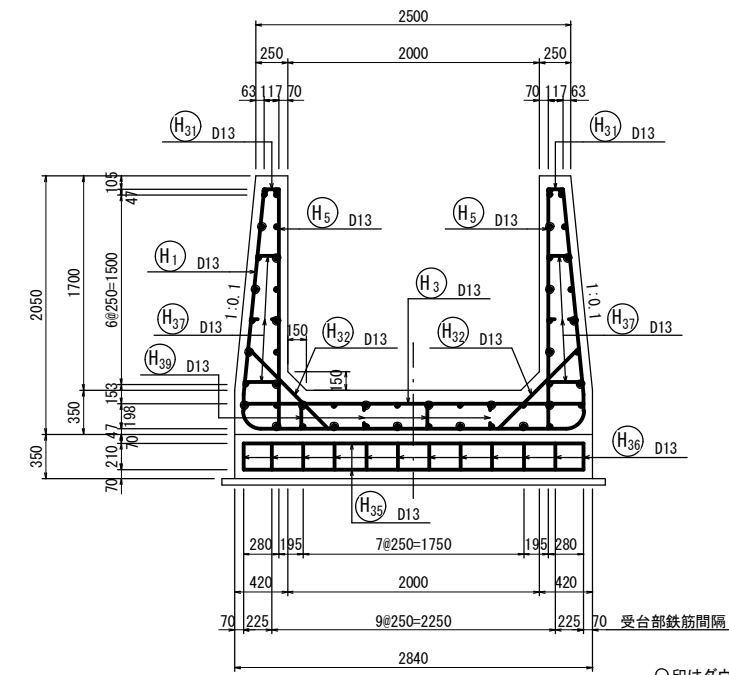
底板(上面)



底板(下面)

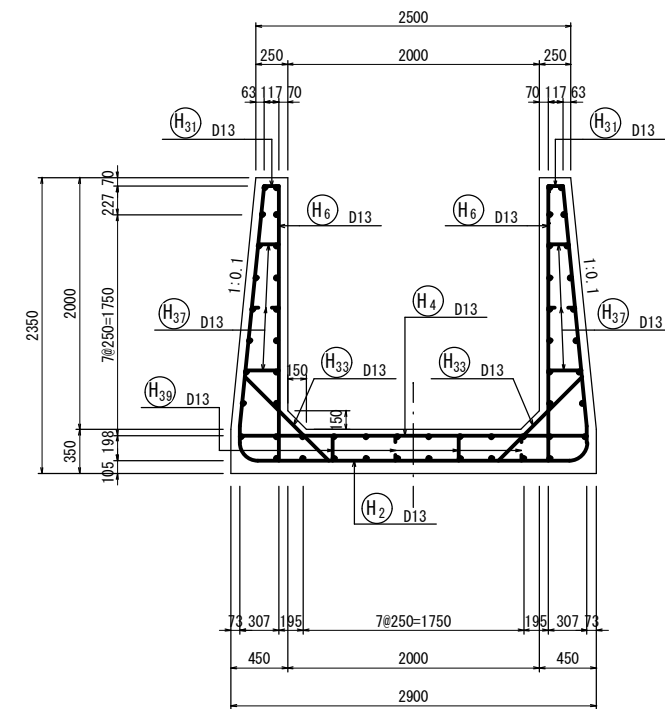


H-H断面



○印はダウエルバーの位置を示す
N=23

I-I断面



※鉄筋の寸法表示は、鉄筋センター寸法を示す。
ハンチ筋及び組立鉄筋は主筋につなぐこと。
鉄筋の結束は全ての交点で行うこと。

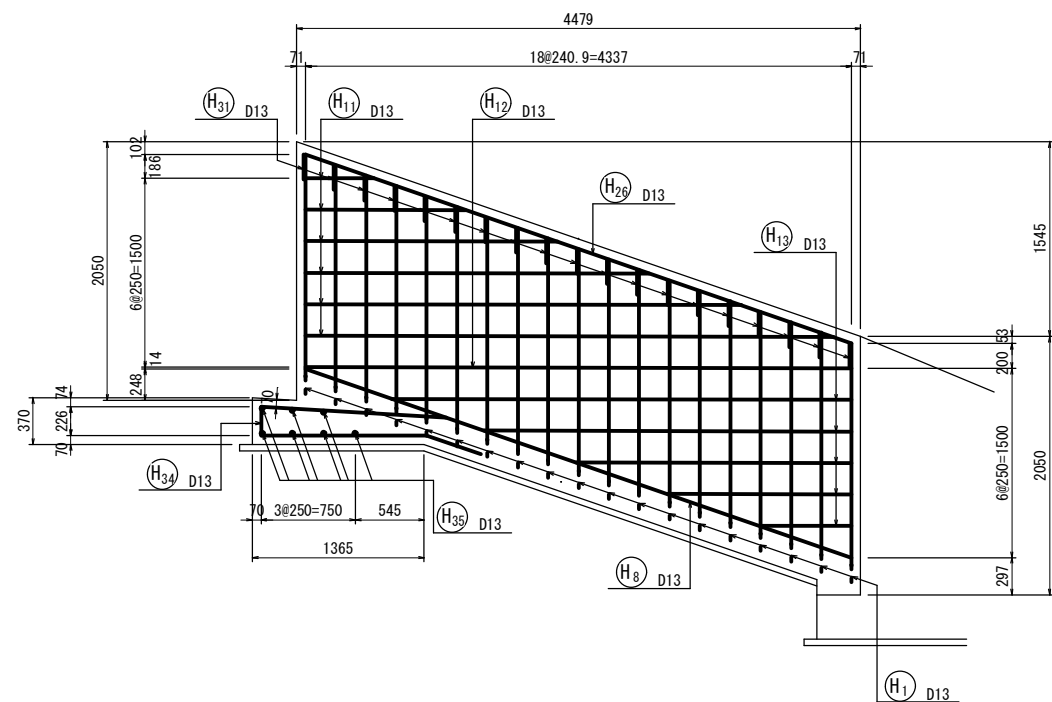
栗林池		図面の名称	図面番号
洪水吐配筋図-6 縮尺 図示			13/28
測量	キタイ設計株式会社		
設計	キタイ設計株式会社		
製図	原図	2023年 10月	
	複写		
福山市 田尻町 地内			
福山市			

洪水吐配筋図-7

放水路 S=1:30

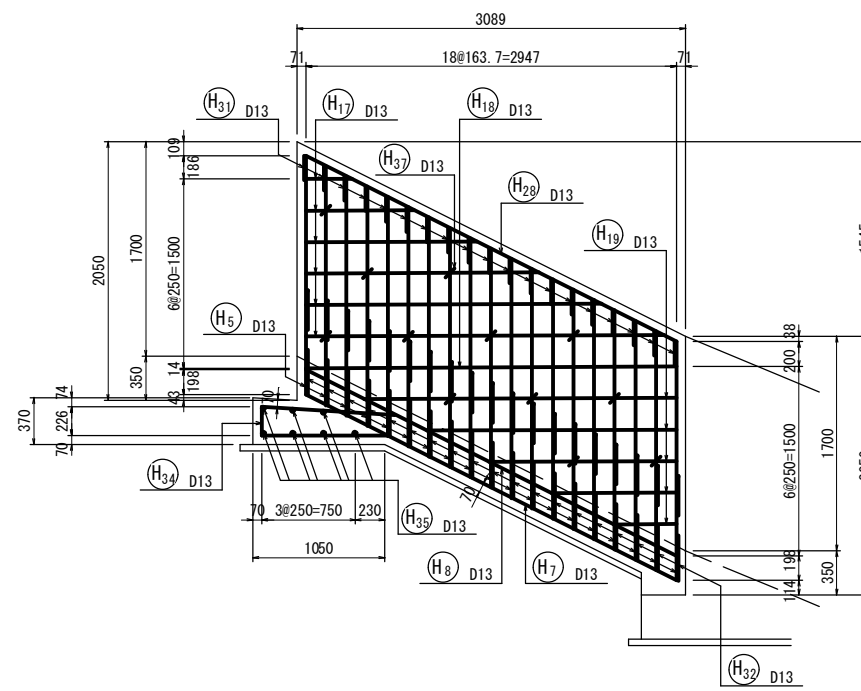
側壁(曲線部外側)

(1-1)



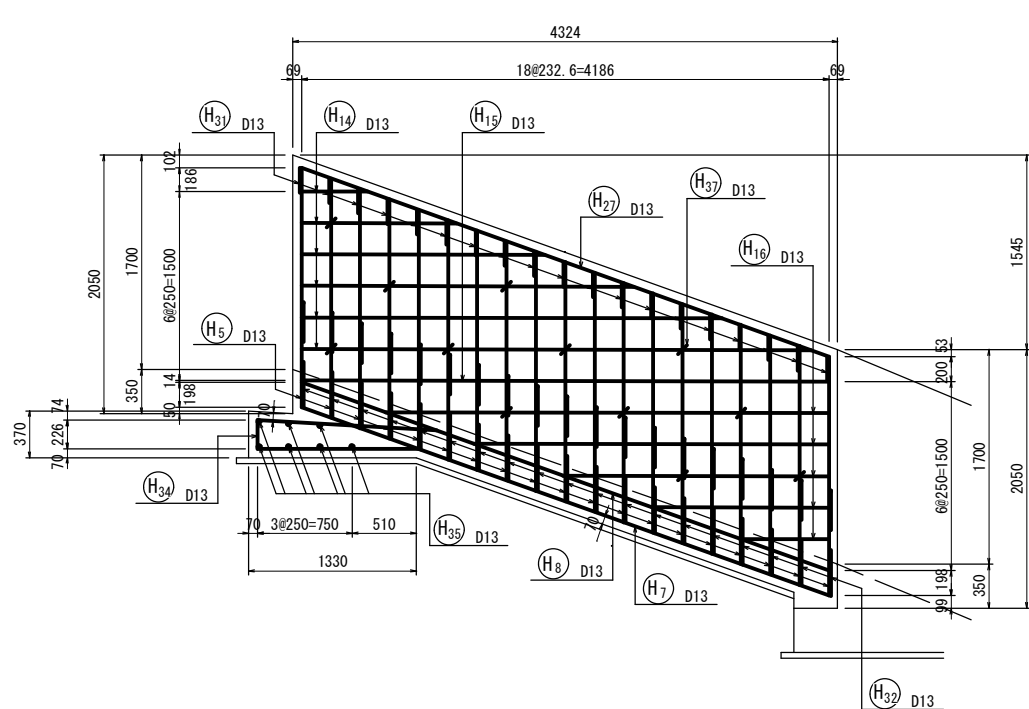
側壁(曲線部内側)

(3-3)



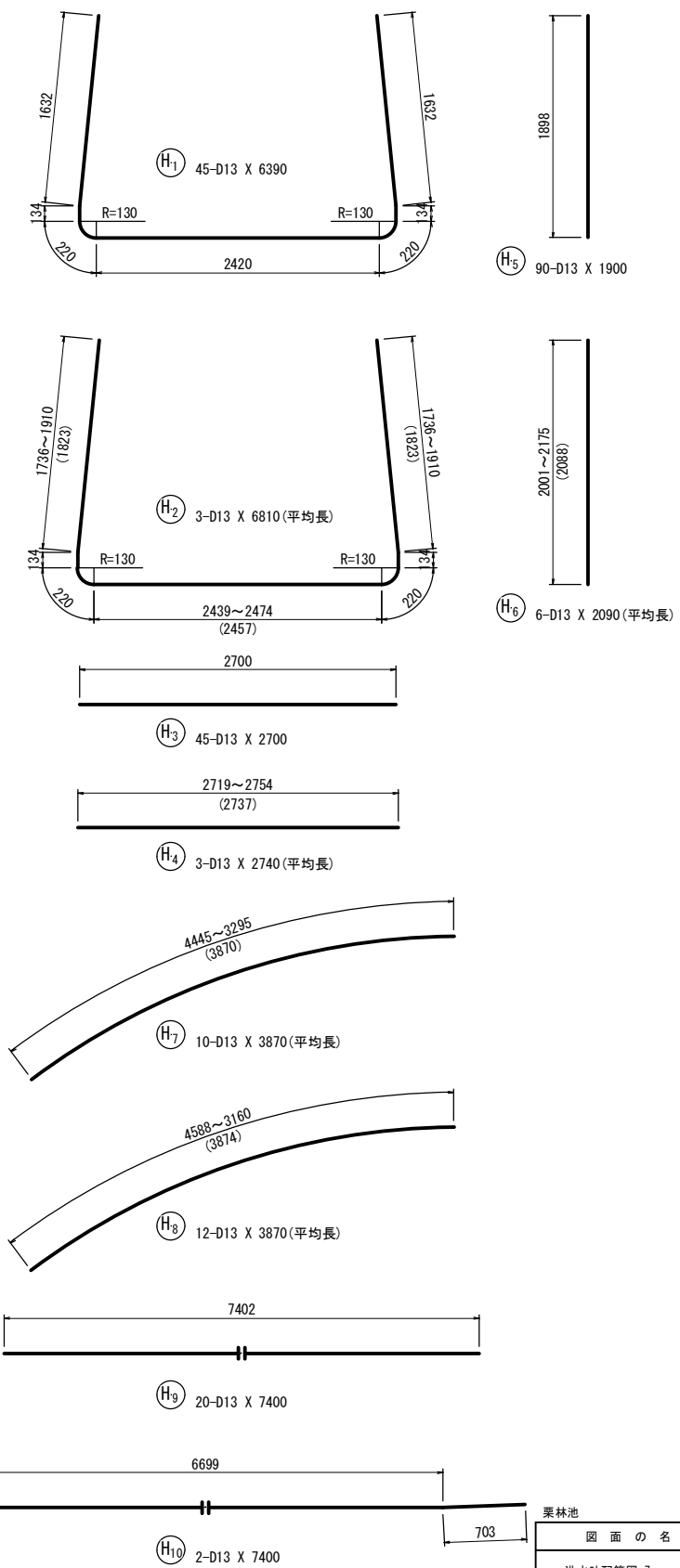
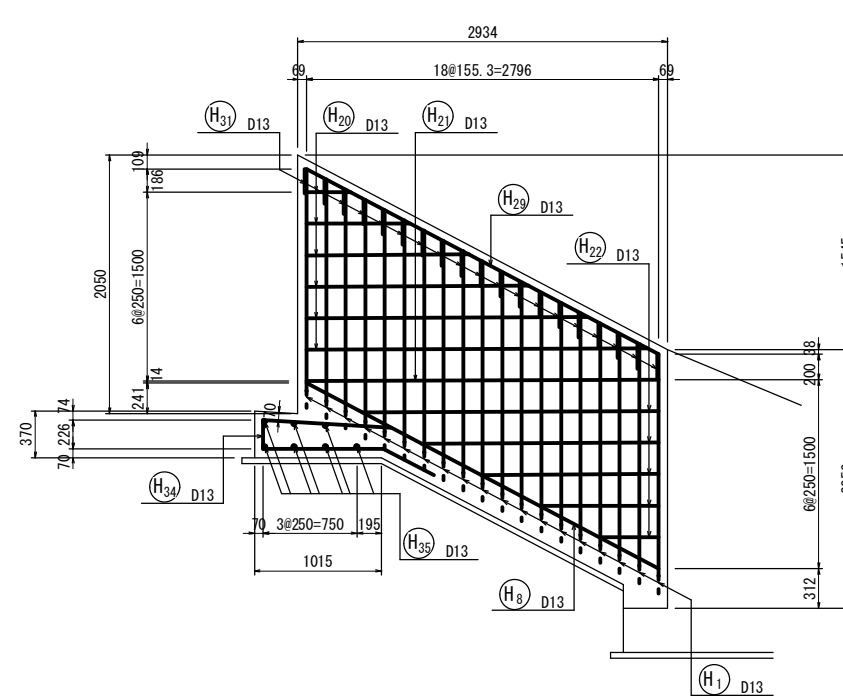
側壁(曲線部内側)

(2-2)



側壁(曲線部外側)

(4-4)



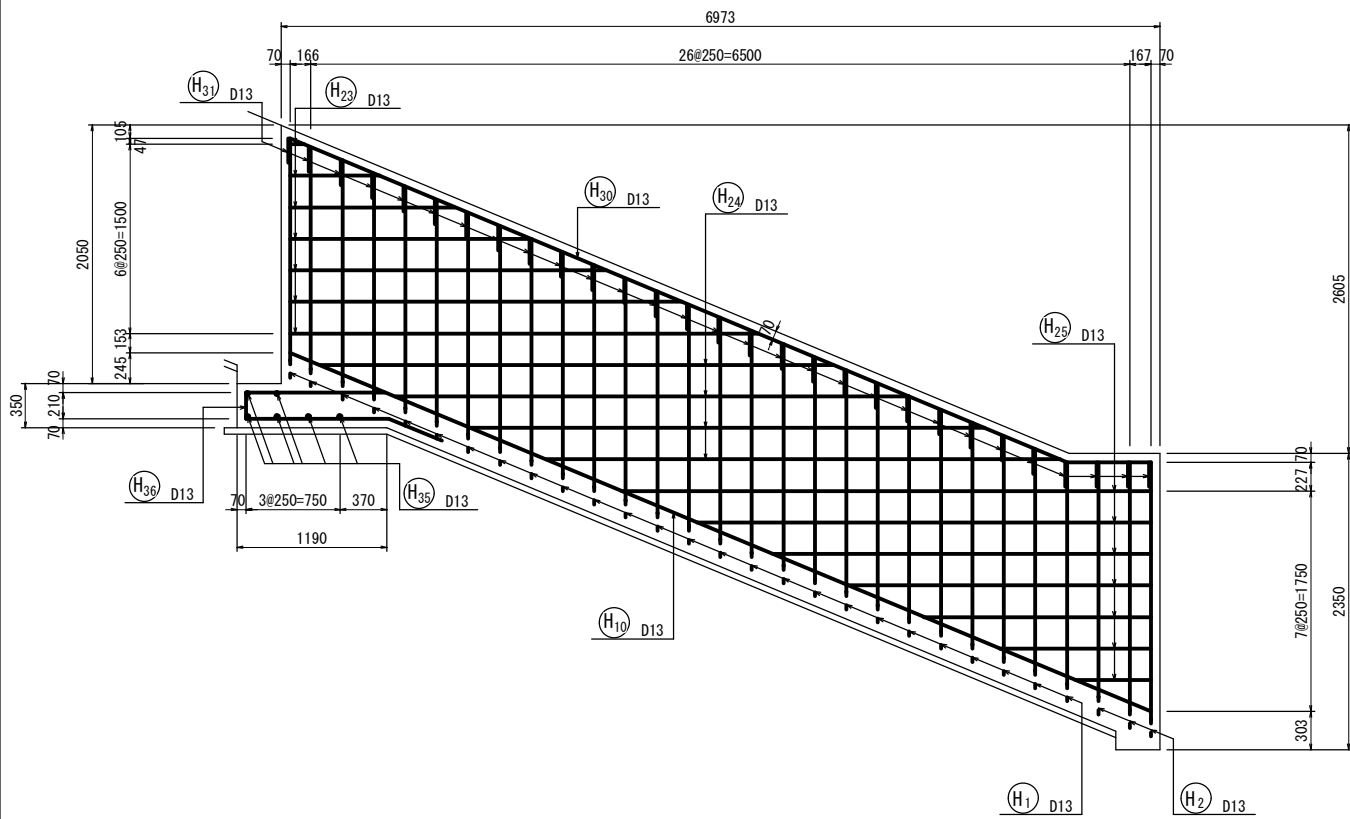
※鉄筋の寸法表示は、鉄筋センター寸法を示す。
ハンチ筋及び組立鉄筋は主筋につなぐこと。
鉄筋の結束は全ての交点で行うこと。

図面の名称		図面番号
洪水吐配筋図-7 縮尺 図示		14/28
測量	キタイ設計株式会社	
設計	キタイ設計株式会社	
製図	原図	2023年 10月
	複写	
福山市 田尻町 地内		
福山市		

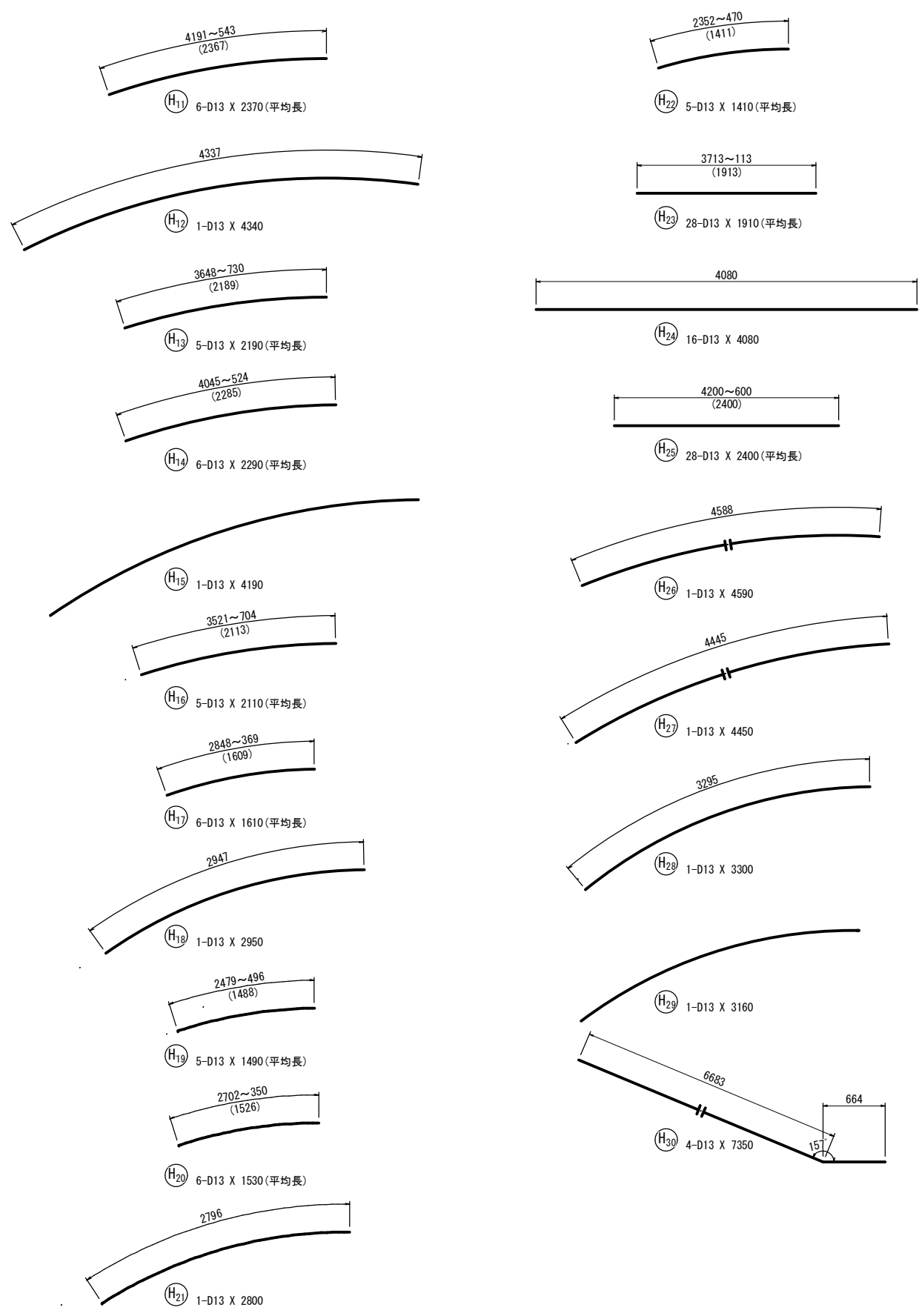
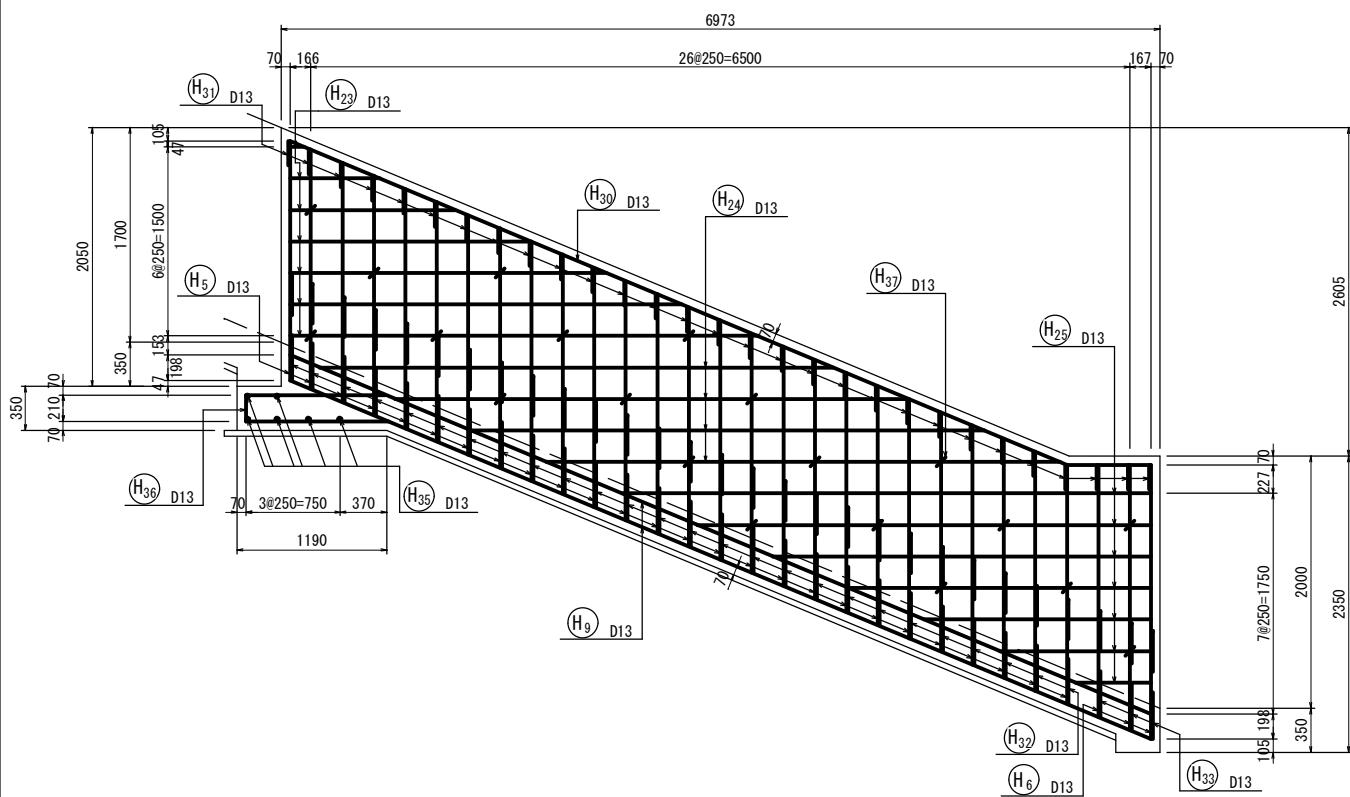
洪水吐配筋図-8

放水路 S=1:30

側壁(直線部外側)
(1-1)(4-4)



側壁(直線部内側)
(2-2)(3-3)

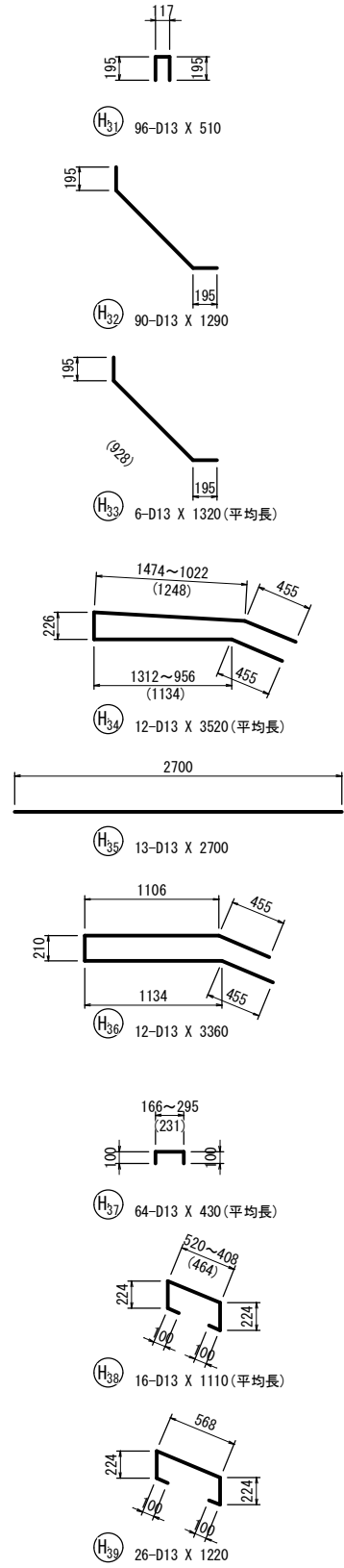


※鉄筋の寸法表示は、鉄筋センター寸法を示す。
ハンチ筋及び組立鉄筋は主筋につなぐこと。
鉄筋の結束は全ての交点で行うこと。

栗林池		図面の名称	図面番号
洪水吐配筋図-8 縮尺 図示			15/28
測量	キタイ設計株式会社		
設計	キタイ設計株式会社		
製図	原図	2023年 10月	
	複写		
福山市 田尻町 地内			
福山市			

洪水吐配筋図-9

放水路 S=1:30



鉄筋質量表

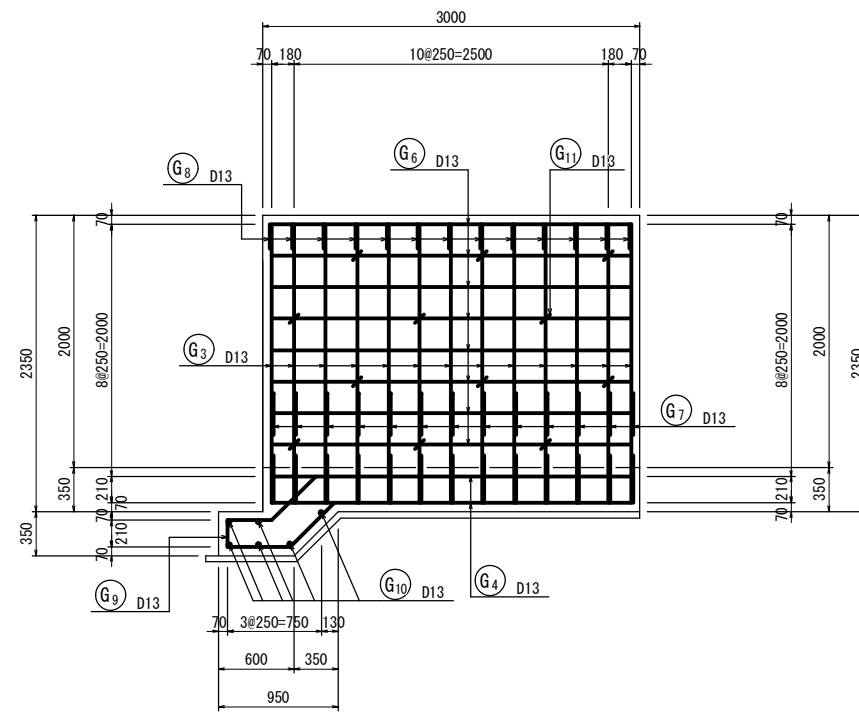
記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当たり 質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
H 1	D13	6390	45	0.995	6.358	286.110	┌┐
H 2	D13	6810	3	0.995	6.776	20.328	┌┐ (平均長)
H 3	D13	2700	45	0.995	2.687	120.915	┌┌
H 4	D13	2740	3	0.995	2.726	8.178	┌┌ (平均長)
H 5	D13	1900	90	0.995	1.891	170.190	┌┌
H 6	D13	2090	6	0.995	2.080	12.480	┌┌ (平均長)
H 7	D13	3870	10	0.995	3.851	38.510	┌┌ (平均長)
H 8	D13	3870	12	0.995	3.851	46.212	┌┌ (平均長)
H 9	D13	7400	20	0.995	7.363	147.260	┌┌
H 10	D13	7400	2	0.995	7.363	14.726	┌┌
H 11	D13	2370	6	0.995	2.358	14.148	┌┌ (平均長)
H 12	D13	4340	1	0.995	4.318	4.318	┌┌
H 13	D13	2190	5	0.995	2.179	10.895	┌┌ (平均長)
H 14	D13	2290	6	0.995	2.279	13.674	┌┌ (平均長)
H 15	D13	4190	1	0.995	4.169	4.169	┌┌
H 16	D13	2110	5	0.995	2.099	10.495	┌┌ (平均長)
H 17	D13	1610	6	0.995	1.602	9.612	┌┌ (平均長)
H 18	D13	2950	1	0.995	2.935	2.935	┌┌
H 19	D13	1490	5	0.995	1.483	7.415	┌┌ (平均長)
H 20	D13	1530	6	0.995	1.522	9.132	┌┌ (平均長)
H 21	D13	2800	1	0.995	2.786	2.786	┌┌
H 22	D13	1410	5	0.995	1.403	7.015	┌┌ (平均長)
H 23	D13	1910	28	0.995	1.900	53.200	┌┌ (平均長)
H 24	D13	4080	16	0.995	4.060	64.960	┌┌
H 25	D13	2400	28	0.995	2.388	66.864	┌┌ (平均長)
H 26	D13	4590	1	0.995	4.567	4.567	┌┌
H 27	D13	4450	1	0.995	4.428	4.428	┌┌
H 28	D13	3300	1	0.995	3.284	3.284	┌┌
H 29	D13	3160	1	0.995	3.144	3.144	┌┌
H 30	D13	7350	4	0.995	7.313	29.252	┌┌
H 31	D13	510	96	0.995	0.507	48.672	┌┌
H 32	D13	1290	90	0.995	1.284	115.560	┌┌
H 33	D13	1320	6	0.995	1.313	7.878	┌┌ (平均長)
H 34	D13	3520	12	0.995	3.502	42.024	┌┌ (平均長)
H 35	D13	2700	13	0.995	2.687	34.931	┌┌
H 36	D13	3360	12	0.995	3.343	40.116	┌┌
H 37	D13	430	64	0.995	0.428	27.392	┌┌ (平均長)
H 38	D13	1110	16	0.995	1.104	17.664	┌┌ (平均長)
H 39	D13	1220	26	0.995	1.214	31.564	┌┌
計						1557.003	
				D13	1557.003 (kg)		
				合計	1557.003 (kg)		

栗林池		図面の名称	図面番号
洪水吐配筋図-9		縮尺 図示	16/28
測量	キタイ設計株式会社		
設計	キタイ設計株式会社		
製図	原図	2023年 10月	
	複写		
福山市 田尻町 地内			
福山市			

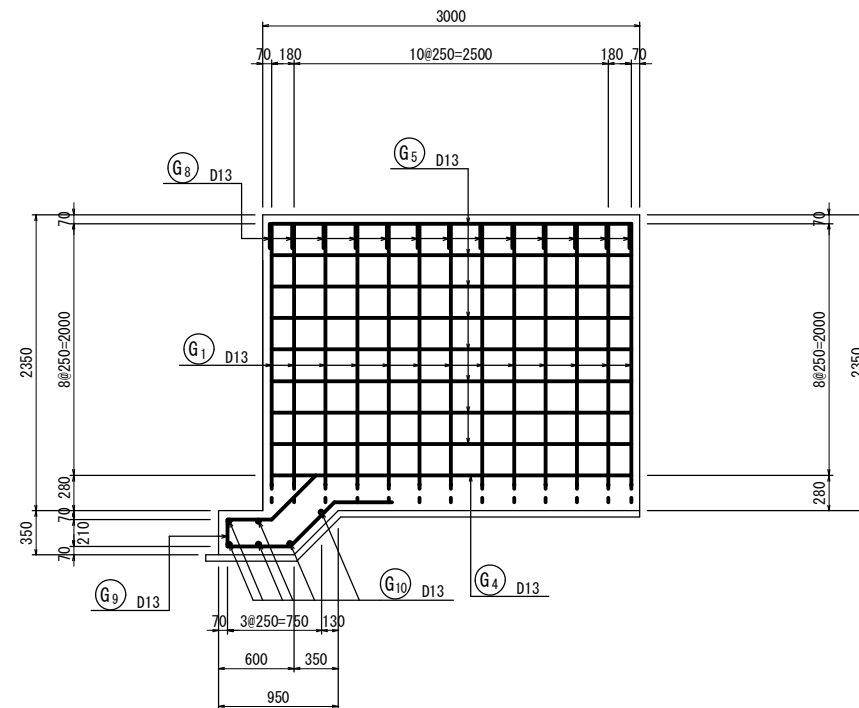
洪水吐配筋図-10

静水池 S=1:30

側壁(内側)

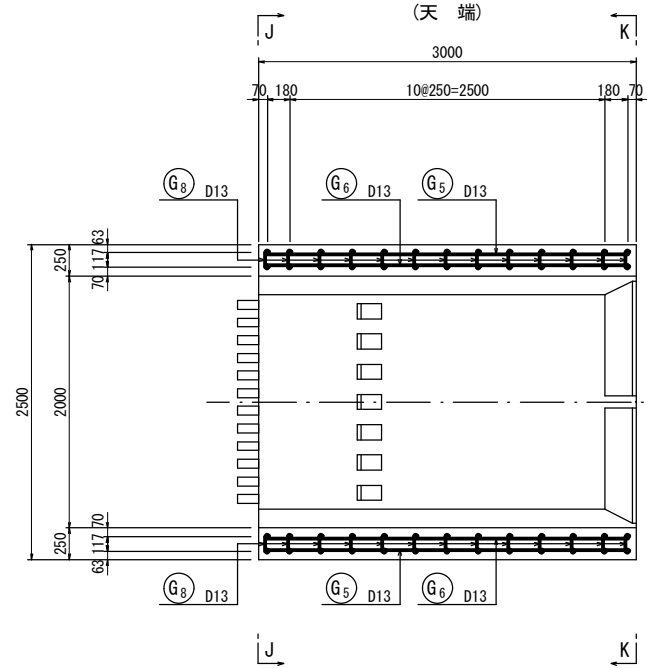


側壁(外側)

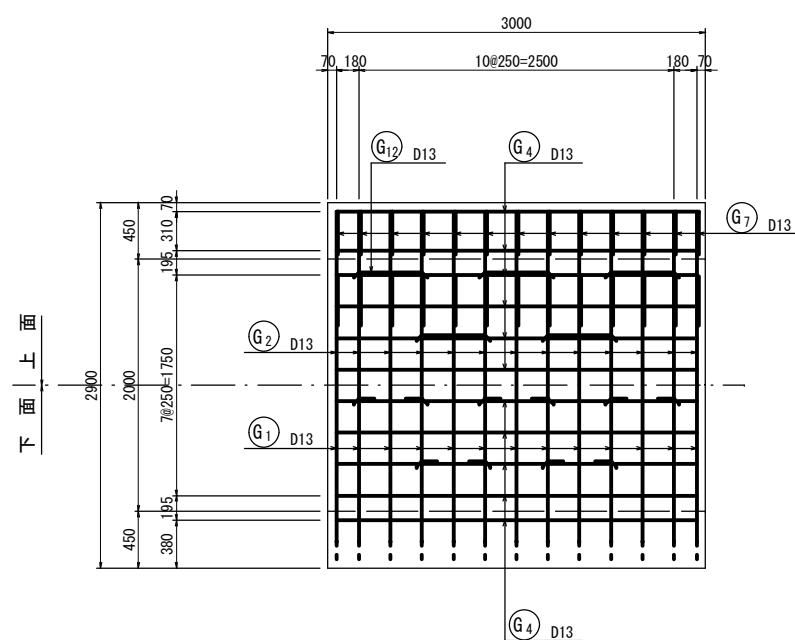


平面図

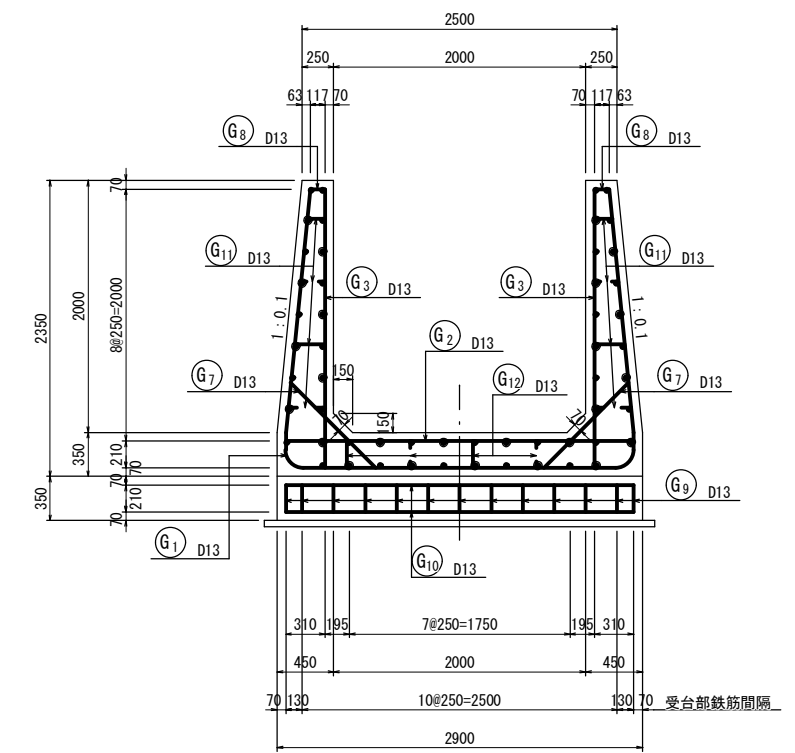
(天端)



底板

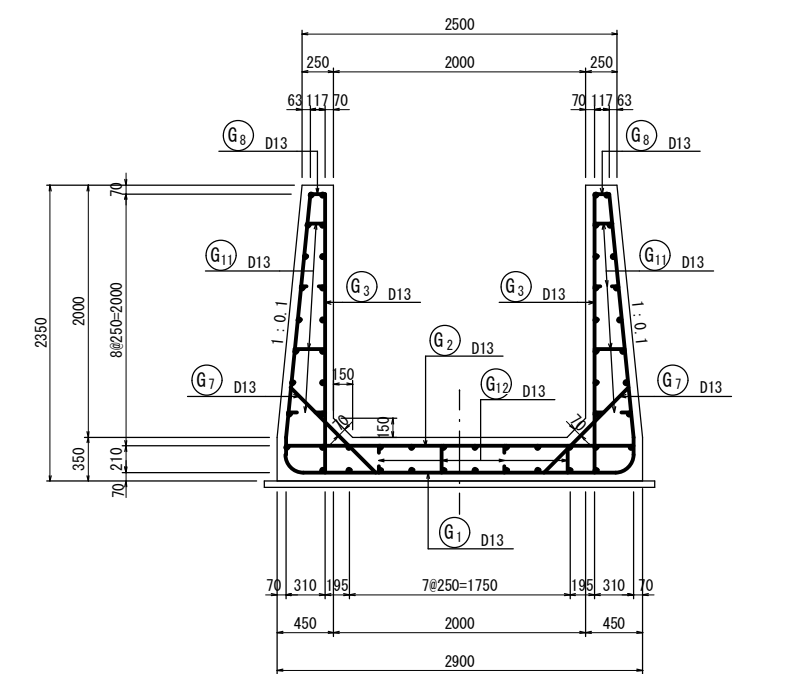


J-J断面



○印はダウエルバーの位置を示す
N=25

K-K断面



※鉄筋の寸法表示は、鉄筋センター寸法を示す。
ハンチ筋及び組立鉄筋は主筋につなぐこと。
鉄筋の結束は全ての交点で行うこと。

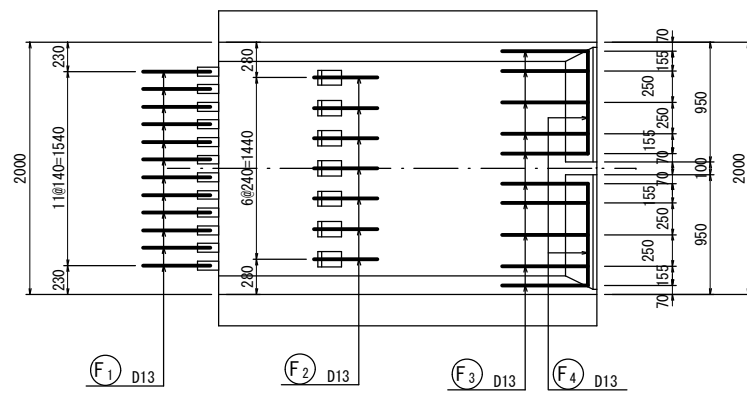
栗林池		図面の名称	図面番号
		洪水吐配筋図-10 縮尺 図示	17/28
測量	キタイ設計株式会社		
設計	キタイ設計株式会社		
製図	原図	2023年 10月	
	複写		
福山市 田尻町 地内			
福山市			

この図面はA3版時、約50%で縮小しています。

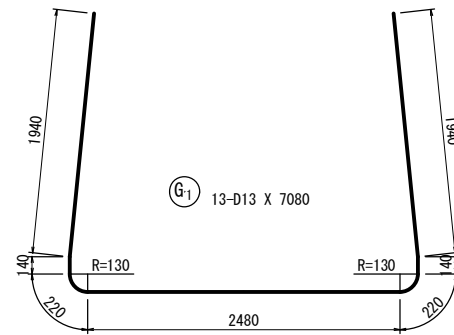
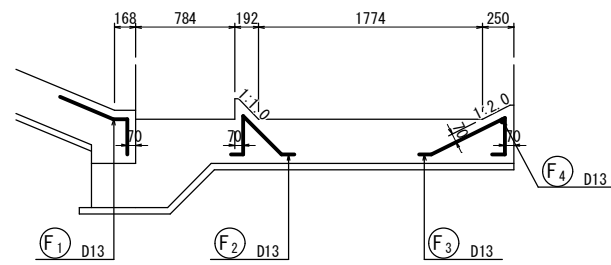
洪水吐配筋図-11

静水池 S=1:30

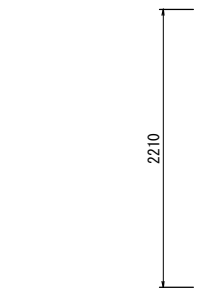
付帯構造物平面図



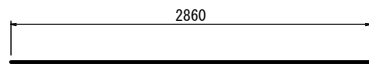
付帯構造物縦断面図



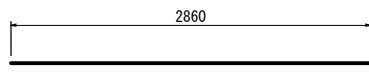
G2 13-D13 X 2760



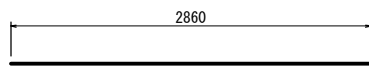
G3 26-D13 X 2210



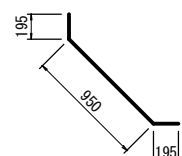
G4 22-D13 X 2860



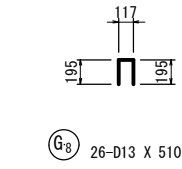
G5 16-D13 X 2860



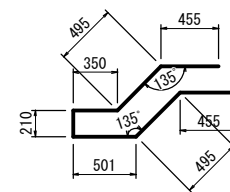
G6 16-D13 X 2860



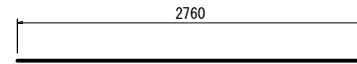
G7 26-D13 X 1340



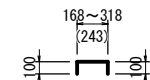
G8 26-D13 X 510



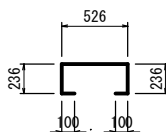
G9 13-D13 X 2960



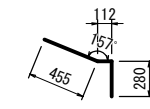
G10 6-D13 X 2760



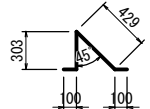
G11 24-D13 X 440 (平均長)



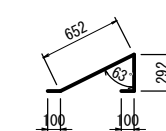
G12 10-D13 X 1200



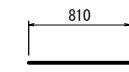
F1 12-D13 X 850



F2 7-D13 X 930



F3 10-D13 X 1140



F4 2-D13 X 810

鉄筋質量表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当たり質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
G1	D13	7080	13	0.995	7.045	91.585	└┘
G2	D13	2760	13	0.995	2.746	35.698	—
G3	D13	2210	26	0.995	2.199	57.174	
G4	D13	2860	22	0.995	2.846	62.612	—
G5	D13	2860	16	0.995	2.846	45.536	—
G6	D13	2860	16	0.995	2.846	45.536	—
G7	D13	1340	26	0.995	1.333	34.658	└┘
G8	D13	510	26	0.995	0.507	13.182	└┘
G9	D13	2960	13	0.995	2.945	38.285	└┘
G10	D13	2760	6	0.995	2.746	16.476	—
G11	D13	440	24	0.995	0.438	10.512	└┘ (平均長)
G12	D13	1200	10	0.995	1.194	11.940	└┘
F1	D13	850	12	0.995	0.846	10.152	└┘
F2	D13	930	7	0.995	0.925	6.475	└┘
F3	D13	1140	10	0.995	1.134	11.340	└┘
F4	D13	810	2	0.995	0.806	1.612	—
計						492.773	
D13						492.773 (kg)	
合計						492.773 (kg)	

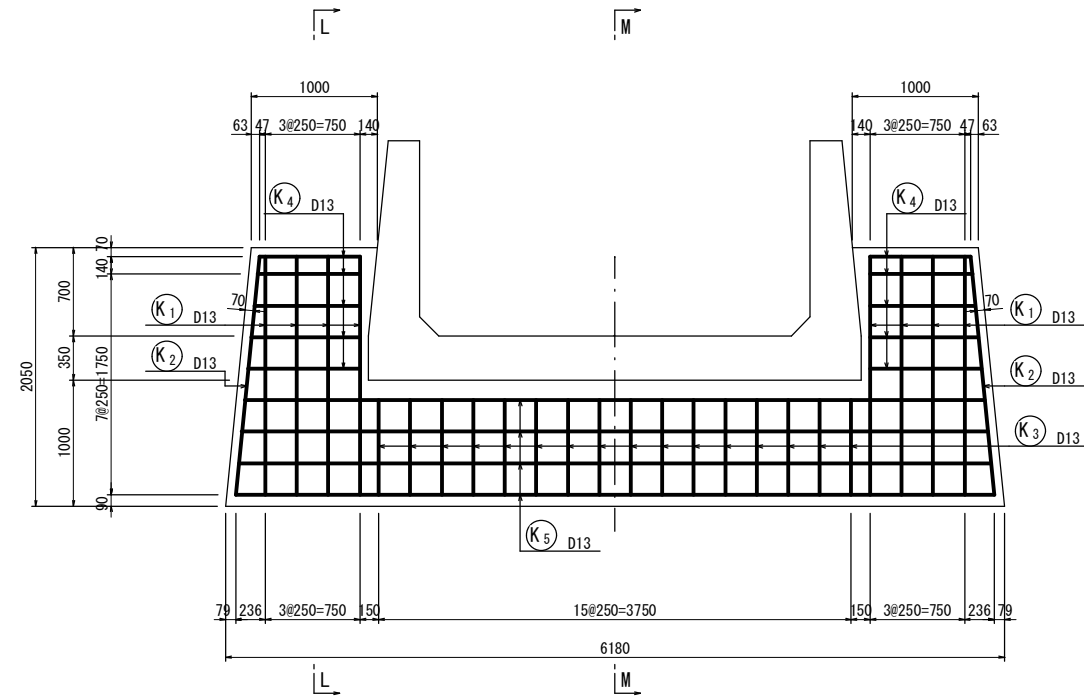
※鉄筋の寸法表示は、鉄筋センター寸法を示す。
ハンチ筋及び組立鉄筋は主筋につなぐこと。
鉄筋の結束は全ての交点で行うこと。

栗林池		図面の名称	図面番号
		洪水吐配筋図-11	18/28
		縮尺 図示	
測量	キタイ設計株式会社		
設計	キタイ設計株式会社		
製図	原図	2023年 10月	
	複写		
福山市 田尻町 地内			
福 山 市			

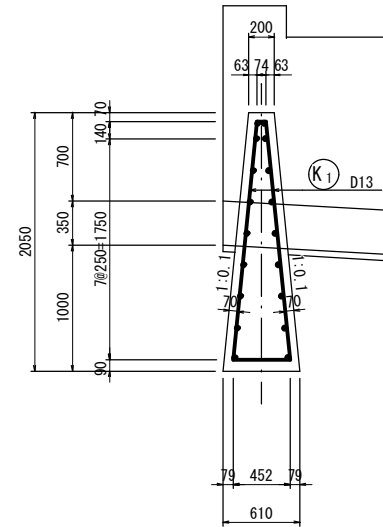
洪水吐配筋図-12

止水壁 S=1:30

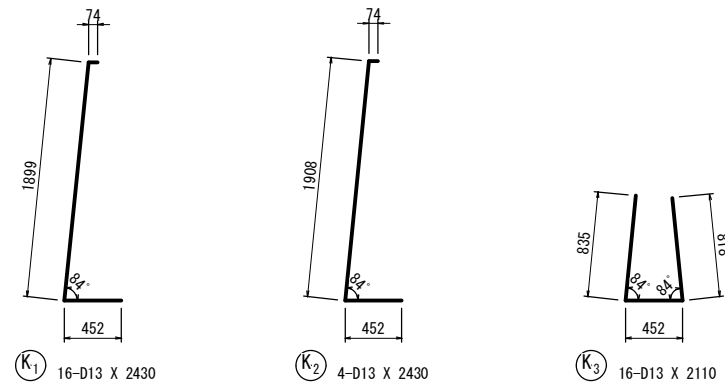
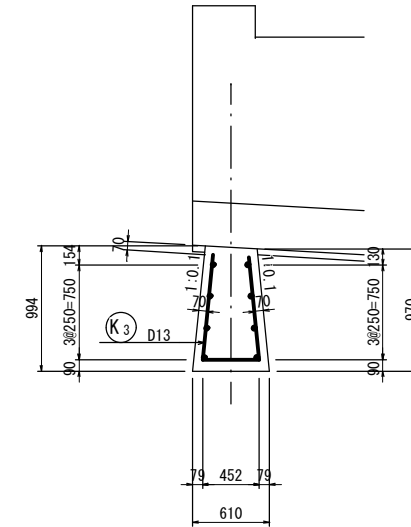
止水壁正面図



L-L断面



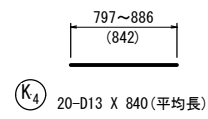
M-M断面



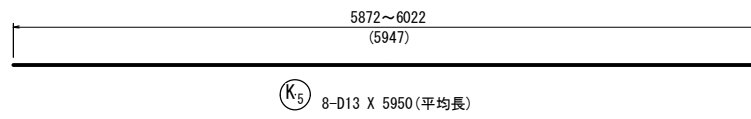
K1 16-D13 X 2430

K2 4-D13 X 2430

K3 16-D13 X 2110



K4 20-D13 X 840 (平均長)



K5 8-D13 X 5950 (平均長)

鉄筋質量表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当たり質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
K1	D13	2430	16	0.995	2.418	38.688	└
K2	D13	2430	4	0.995	2.418	9.672	└
K3	D13	2110	16	0.995	2.099	33.584	└
K4	D13	840	20	0.995	0.836	16.720	— (平均長)
K5	D13	5950	8	0.995	5.920	47.360	— (平均長)
計						146.024	
					D13	146.024 (kg)	
					合計	146.024 (kg)	

栗林池

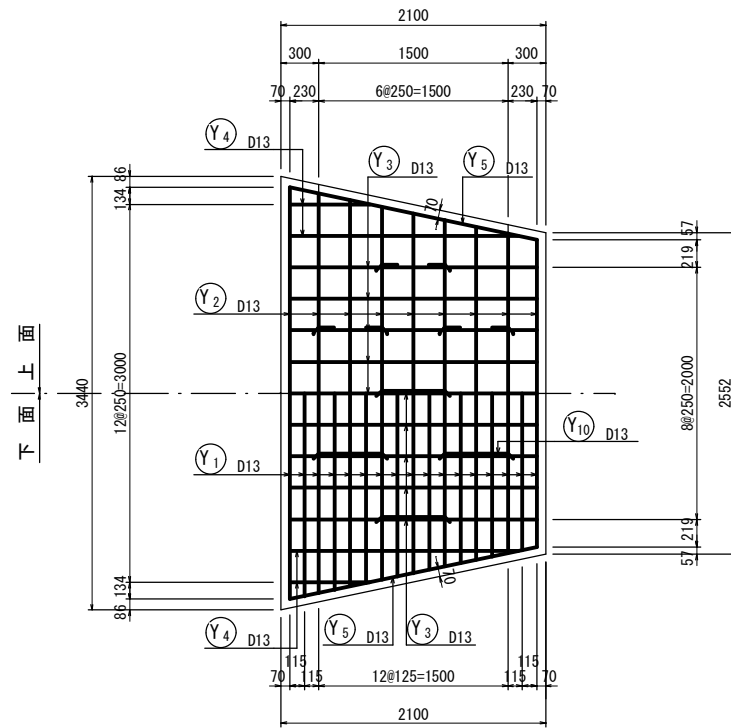
図面の名称		図面番号
洪水吐配筋図-12		19/28
縮尺 図示		
測量	キタイ設計株式会社	
設計	キタイ設計株式会社	
製図	原図	2023年 10月
	複写	
福山市 田原町 地内		
福山市		

この図面はA3版時、約50%で縮小しています。

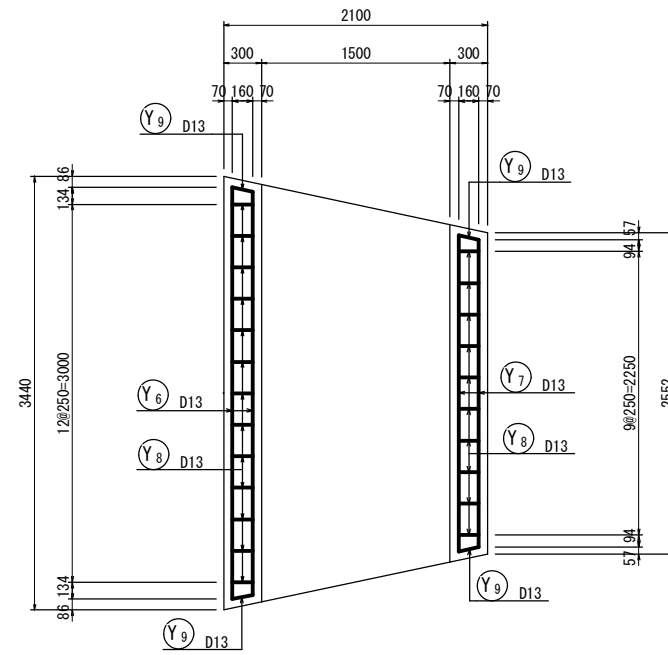
洪水吐配筋図-13

管理橋 S=1:30

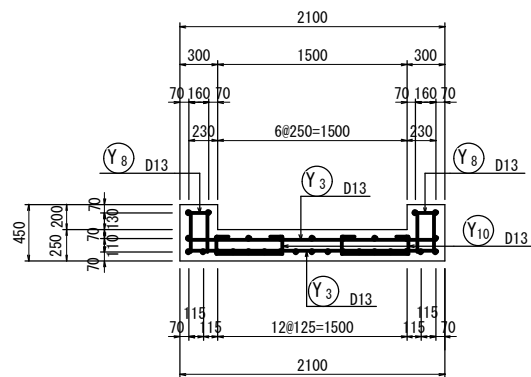
床版配筋図



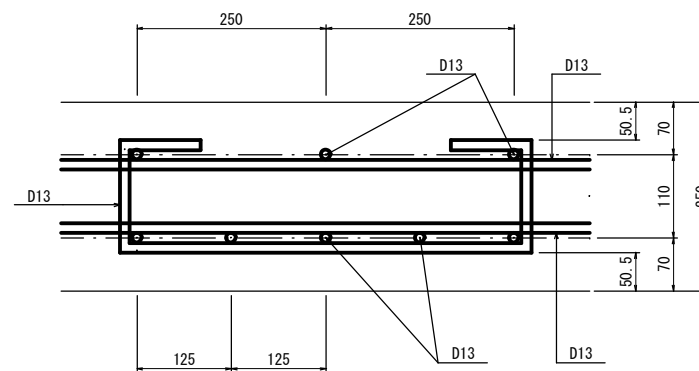
地覆配筋図



断面図

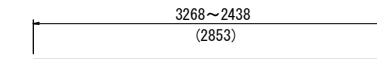


かぶり詳細図 S=1:5

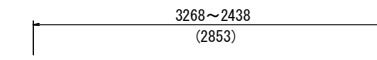


鉄筋質量表

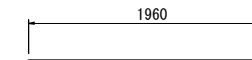
記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当たり 質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
Y1	D13	2850	17	0.995	2.836	48.212	—— (平均長)
Y2	D13	2850	9	0.995	2.836	25.524	—— (平均長)
Y3	D13	1960	18	0.995	1.950	35.100	——
Y4	D13	1220	8	0.995	1.214	9.712	—— (平均長)
Y5	D13	2000	4	0.995	1.990	7.960	——
Y6	D13	3230	2	0.995	3.214	6.428	—— (平均長)
Y7	D13	2470	2	0.995	2.458	4.916	—— (平均長)
Y8	D13	750	23	0.995	0.746	17.158	□
Y9	D13	760	4	0.995	0.756	3.024	□
Y10	D13	1000	7	0.995	0.995	6.965	□
計						164.999	
					D13	164.999 (kg)	
					合計	164.999 (kg)	



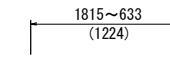
Y1 17-D13 X 2850 (平均長)



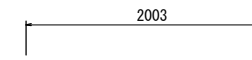
Y2 9-D13 X 2850 (平均長)



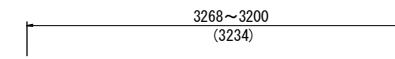
Y3 18-D13 X 1960



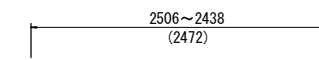
Y4 8-D13 X 1220 (平均長)



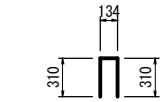
Y5 4-D13 X 2000



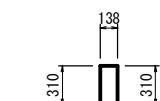
Y6 2-D13 X 3230 (平均長)



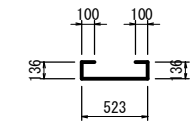
Y7 2-D13 X 2470 (平均長)



Y8 23-D13 X 750



Y9 4-D13 X 760



Y10 7-D13 X 1000

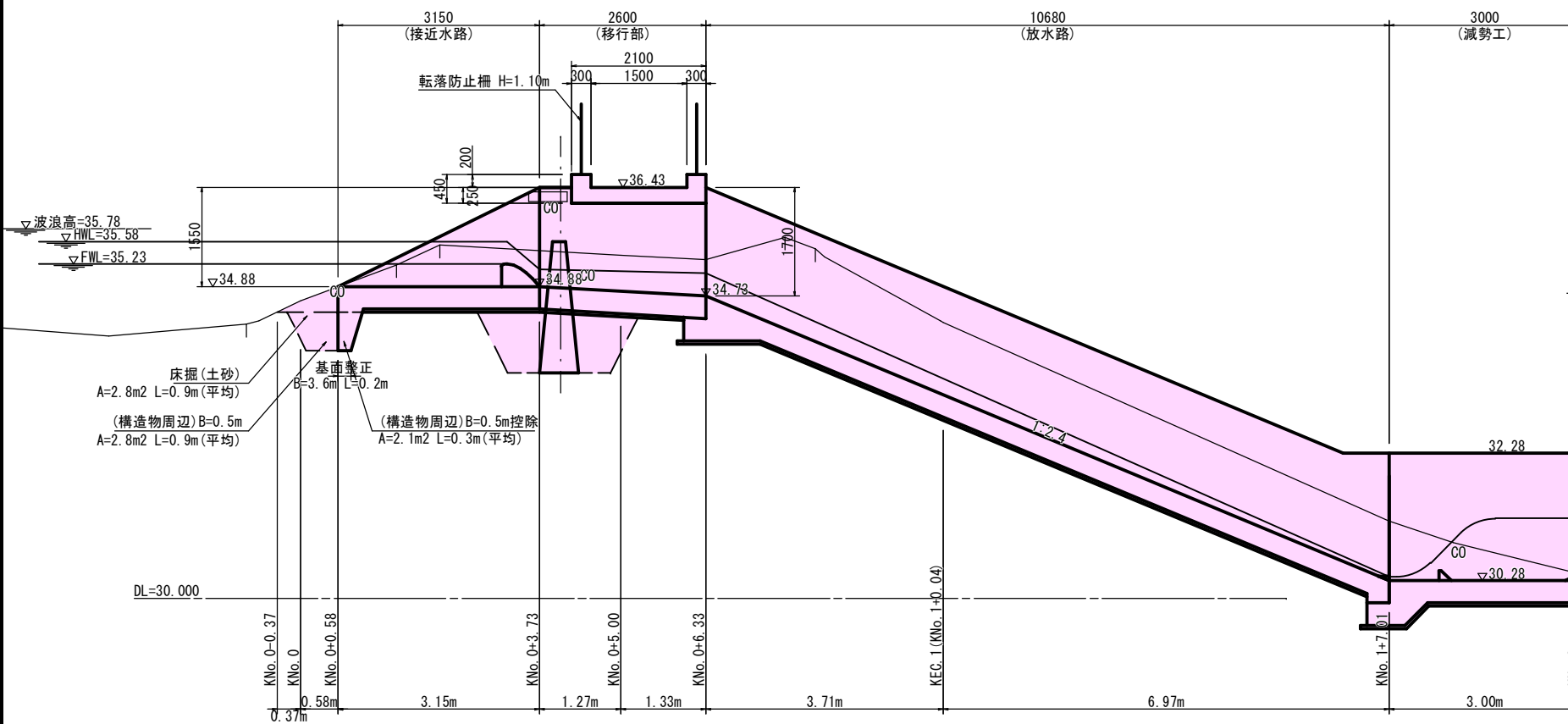
栗林池

図面の名称		図面番号
洪水吐配筋図-13 縮尺 図示		20/28
測量	キタイ設計株式会社	
設計	キタイ設計株式会社	
製図	原図	2023年 10月
	複写	
福山市 田尻町 地内		
福 山 市		

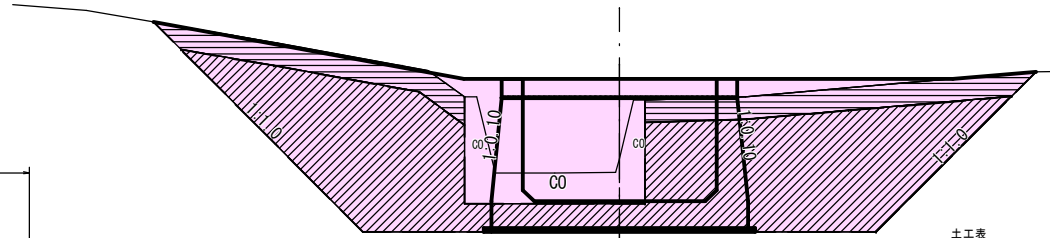
洪水吐土工定規図(1)

S=1:50

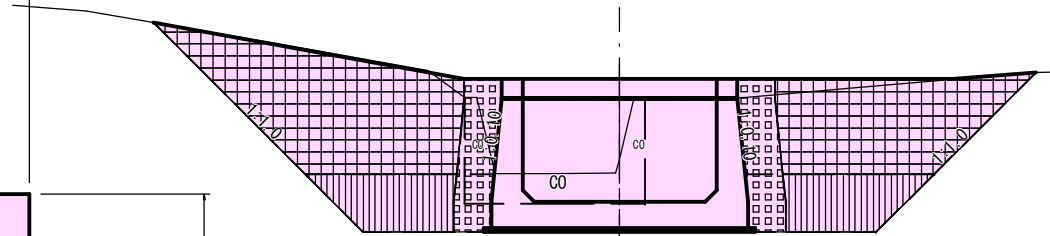
縦断面図



掘削工



盛土工



工種	凡例
表土剥取	
床掘(土砂)	
埋戻 (構造物周辺) B=0.5m	
B ≥ 4.0m	
2.5m ≤ B < 4.0m	
1.0m ≤ B < 2.5m	
B < 1.0m	
基面整正	

※起点部~No. 0+5.00の区間については、HWLの高さまで鋼土(流用)で埋戻とする。

横断面図

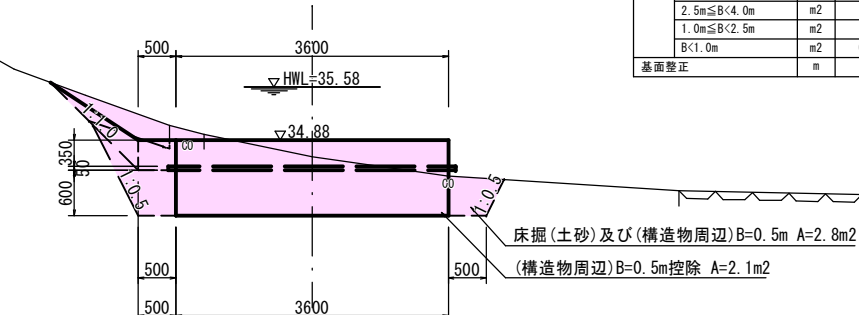
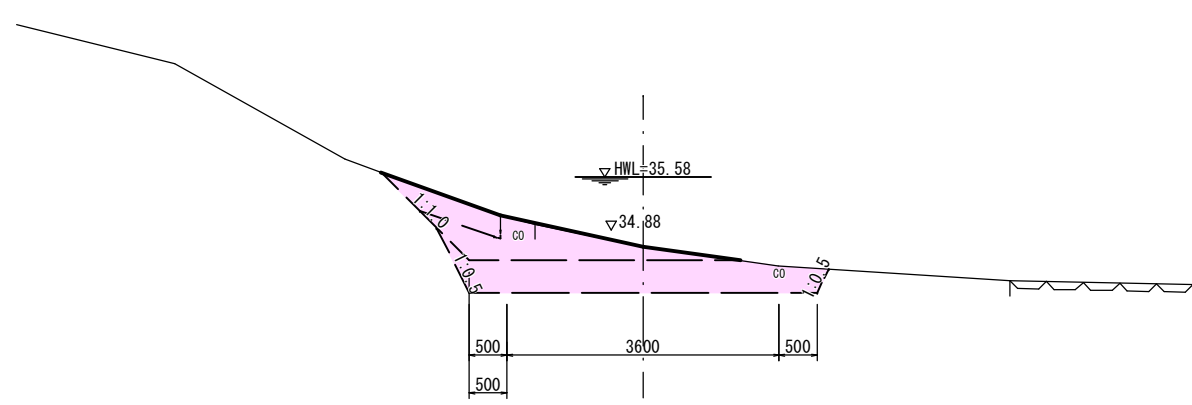
KNo. 0
GH=34.66

工種	単位	数量
表土剥取	m ²	0.4
床掘(土砂)	m ²	1.1
埋戻 (構造物周辺) B=0.5m	m ²	1.5
B ≥ 4.0m	m ²	-
2.5m ≤ B < 4.0m	m ²	-
1.0m ≤ B < 2.5m	m ²	-
B < 1.0m	m ²	-
基面整正	m	-

KNo. 0+0.58 (KNo. 0投影)
GH=34.66

工種	単位	数量
表土剥取	m ²	0.4
床掘(土砂)	m ²	1.1
埋戻 (構造物周辺) B=0.5m	m ²	0.7
B ≥ 4.0m	m ²	-
2.5m ≤ B < 4.0m	m ²	-
1.0m ≤ B < 2.5m	m ²	-
B < 1.0m	m ²	0.4
基面整正	m	-

工種	単位	数量
表土剥取	m ²	0.4
床掘(土砂)	m ²	1.1
埋戻 (構造物周辺) B=0.5m	m ²	0.2
B ≥ 4.0m	m ²	-
2.5m ≤ B < 4.0m	m ²	-
1.0m ≤ B < 2.5m	m ²	-
B < 1.0m	m ²	0.2
基面整正	m	-



DL=32.00

DL=32.00

図面の名称		図面番号
洪水吐土工定規図(1)		21/28
縮尺 図示		
測量	キタイ設計株式会社	
設計	キタイ設計株式会社	
製図	原図	2023年 10月
	複写	
福山市 田尻町 地内		
福山市		

この図面はA3縦時、約50%で縮小しています。

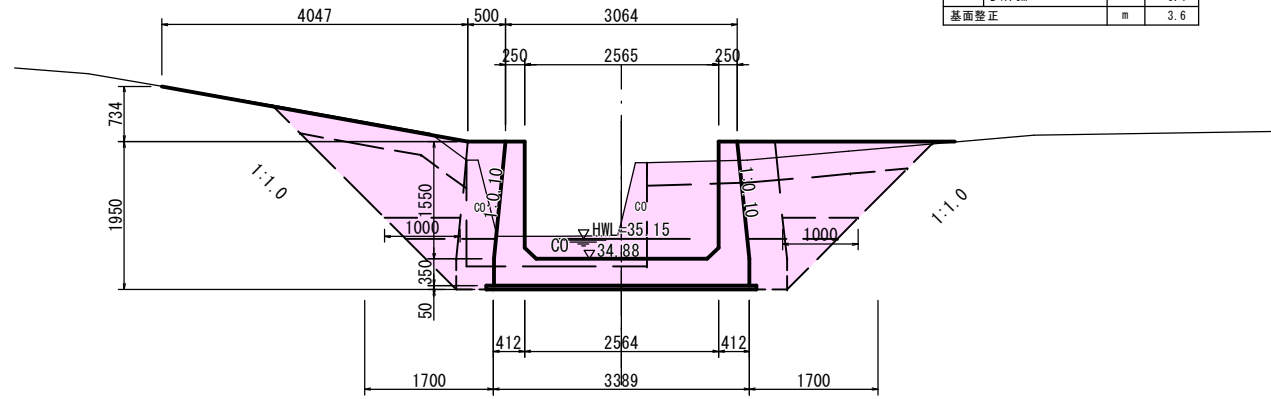
洪水吐土工定規図(2)

S=1:50

横断図

No. 0+3.73 (KNO. 0+5.00投影)
GH=35.37

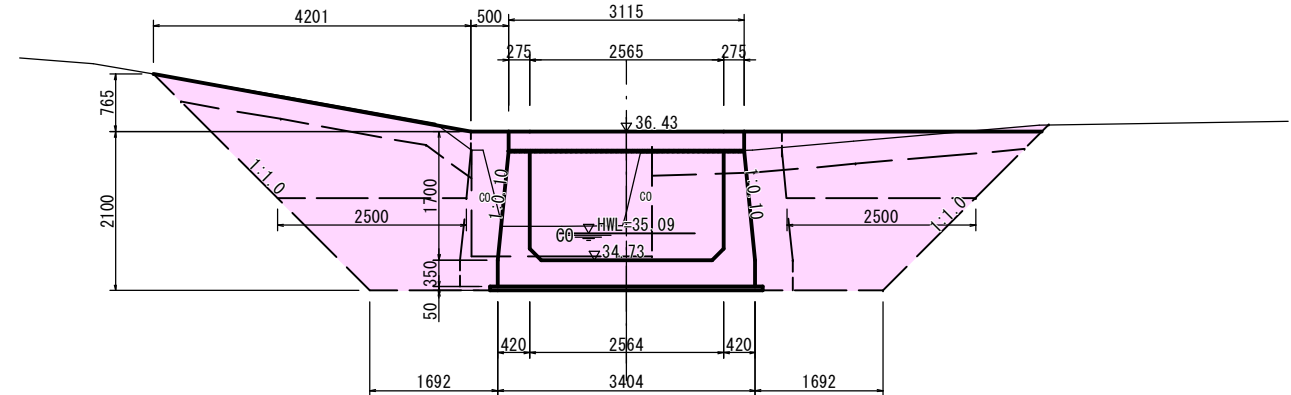
土工表 No. 0+3.73 (KNO. 0+5.00投影)			
工種	単位	数量	
表土剥取	m ²	1.8	
床掘(土砂)	m ²	6.3	
埋戻	(構造物周辺)B=0.5m	m ²	鋼0.6
	(構造物周辺)B=0.5m	m ²	1.3
	B≥4.0m	m ²	-
	2.5m≤B<4.0m	m ²	-
	1.0m≤B<2.5m	m ²	3.6
	B<1.0m	m ²	鋼0.5
B<1.0m	m ²	0.4	
基面整正	m	3.6	



DL=32.00

No. 0+6.33 (KNO. 0+5.00投影)
GH=35.37

土工表 No. 0+6.33 (KNO. 0+5.00投影)			
工種	単位	数量	
表土剥取	m ²	2.8	
床掘(土砂)	m ²	12.6	
埋戻	(構造物周辺)B=0.5m	m ²	2.0
	B≥4.0m	m ²	-
	2.5m≤B<4.0m	m ²	6.5
	1.0m≤B<2.5m	m ²	4.5
	B<1.0m	m ²	-
基面整正	m	3.6	

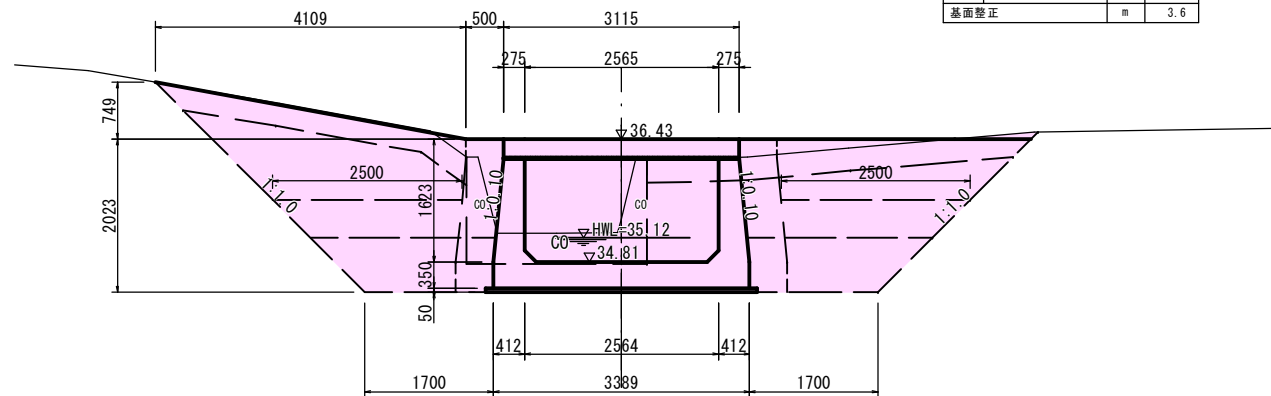


DL=32.00

KNO. 0+5.00
GH=35.37

土工表 KNO. 0+5.00 (上流側)			
工種	単位	数量	
表土剥取	m ²	2.7	
床掘(土砂)	m ²	11.8	
埋戻	(構造物周辺)B=0.5m	m ²	鋼0.7
	(構造物周辺)B=0.5m	m ²	1.4
	B≥4.0m	m ²	-
	2.5m≤B<4.0m	m ²	6.0
	1.0m≤B<2.5m	m ²	鋼2.2
	1.0m≤B<2.5m	m ²	2.3
B<1.0m	m ²	-	
基面整正	m	3.6	

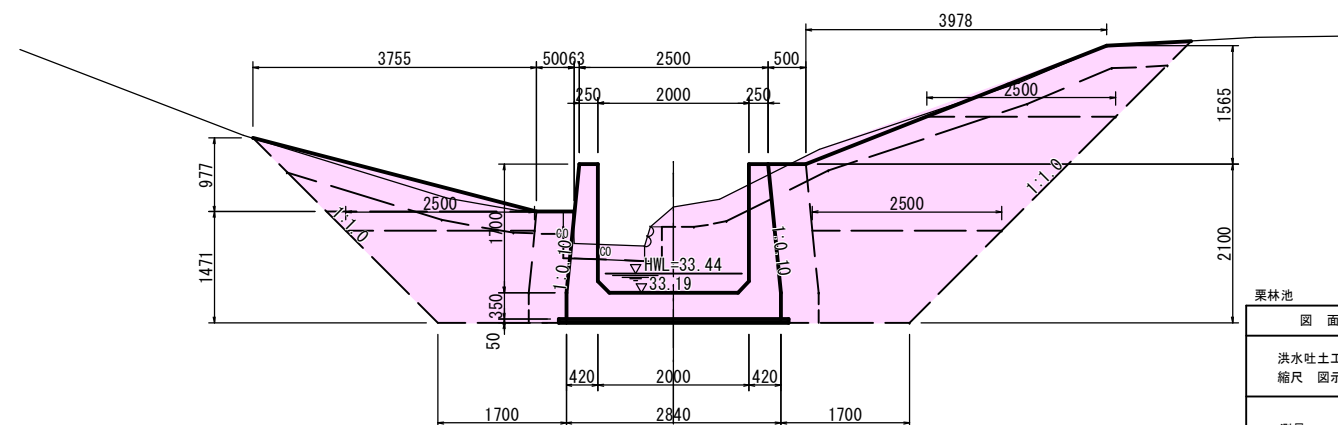
土工表 KNO. 0+5.00 (下流側)			
工種	単位	数量	
表土剥取	m ²	2.7	
床掘(土砂)	m ²	11.8	
埋戻	(構造物周辺)B=0.5m	m ²	2.1
	B≥4.0m	m ²	-
	2.5m≤B<4.0m	m ²	6.0
	1.0m≤B<2.5m	m ²	4.5
	1.0m≤B<2.5m	m ²	-
	B<1.0m	m ²	-
基面整正	m	3.6	



DL=32.00

KEC1 (KNo. 1+0.04)
GH=34.32

土工表 KEC1 (KNo. 1+0.04)			
工種	単位	数量	
表土剥取	m ²	3.4	
床掘(土砂)	m ²	14.5	
埋戻	(構造物周辺)B=0.5m	m ²	1.8
	B≥4.0m	m ²	-
	2.5m≤B<4.0m	m ²	5.2
	1.0m≤B<2.5m	m ²	6.2
	B<1.0m	m ²	1.4
基面整正	m	3.0	



DL=31.00

図面の名称		図面番号
洪水吐土工定規図(2)		22/28
縮尺 図示		
測量	キタイ設計株式会社	
設計	キタイ設計株式会社	
製図	原図	2023年 10月
	複写	
福山市 田尻町 地内		
福 山 市		

この図面はA3版時、約50%で縮小しています。

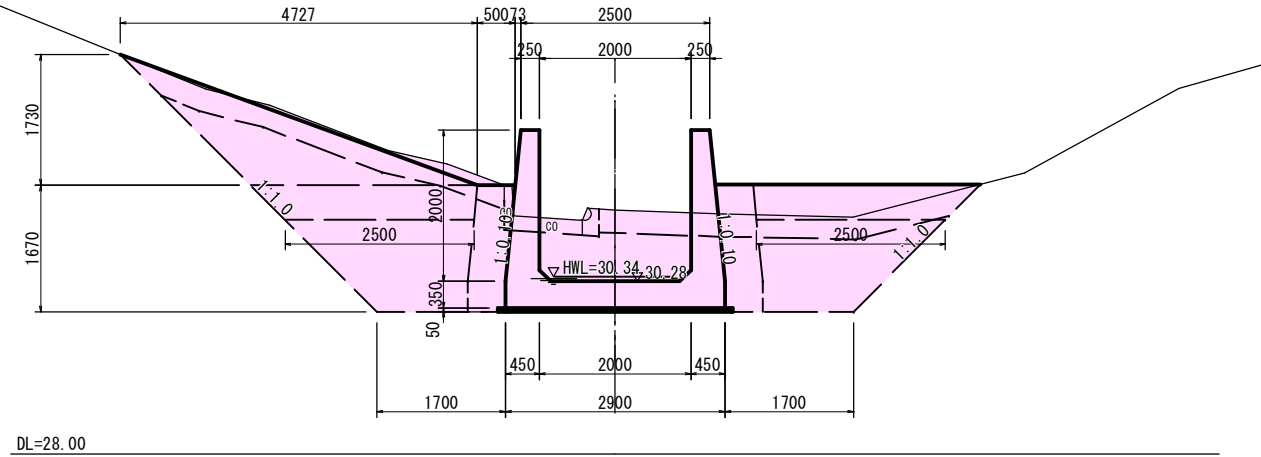
洪水吐土工定規図(3)

S=1:50

横断図

KNO. 1+7.01
GH=31.22

土工表		KNO. 1+7.01	
工種	単位	数量	
表土剥取	m ²	3.0	
床掘(土砂)	m ²	10.7	
埋戻 (構造物周辺) B=0.5m	m ²	1.7	
B≥4.0m	m ²	-	
2.5m≤B<4.0m	m ²	2.5	
1.0m≤B<2.5m	m ²	4.5	
B<1.0m	m ²	2.6	
基面整正	m	3.1	

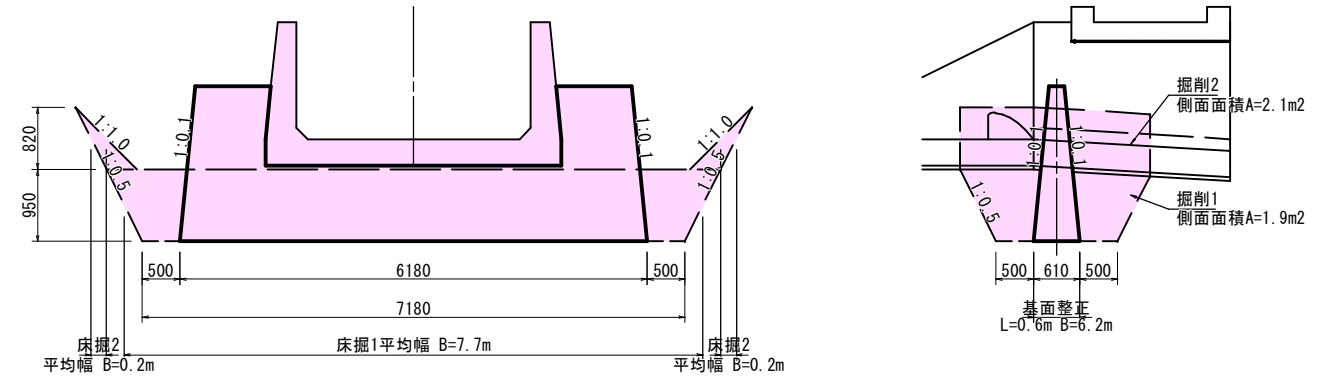


DL=28.00

止水壁掘削土工図

正面図

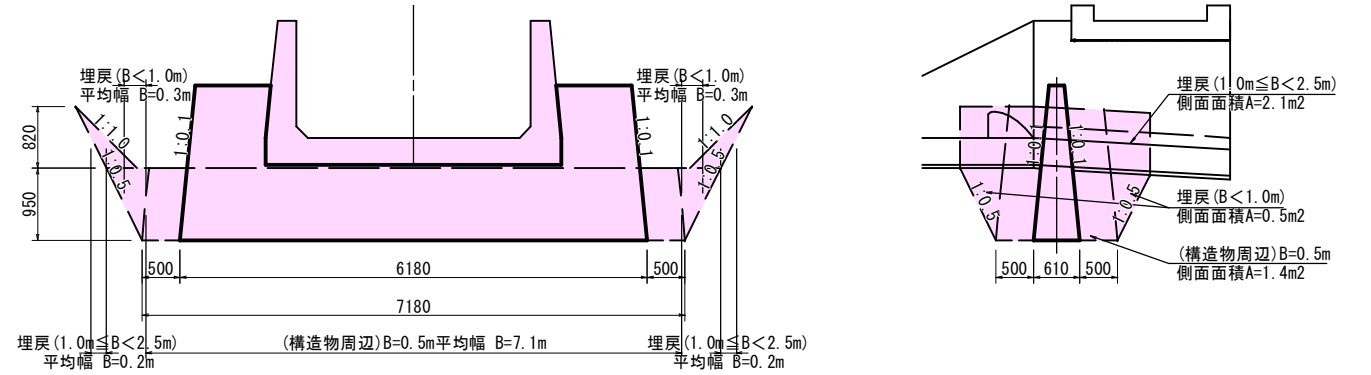
側面図



止水壁盛土工図

正面図

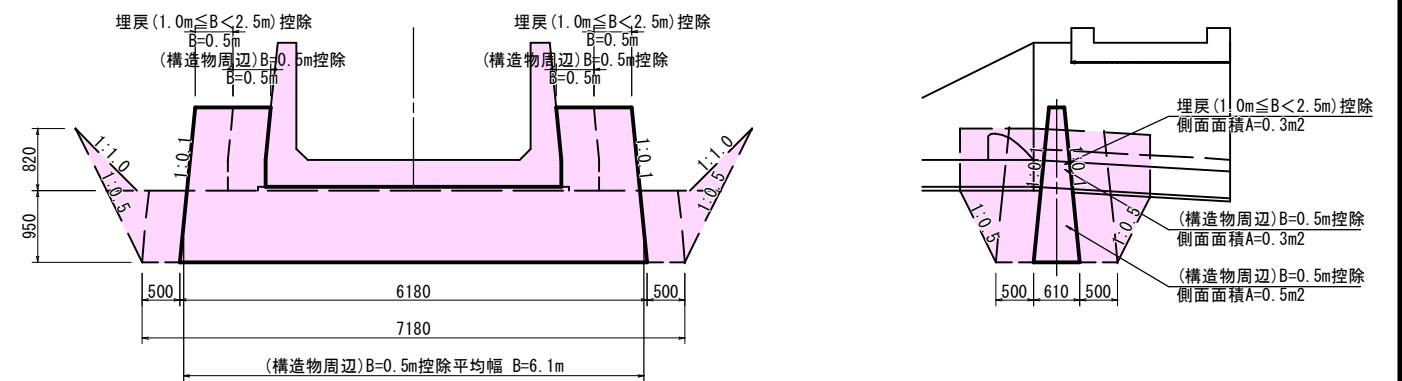
側面図



止水壁控除土工図

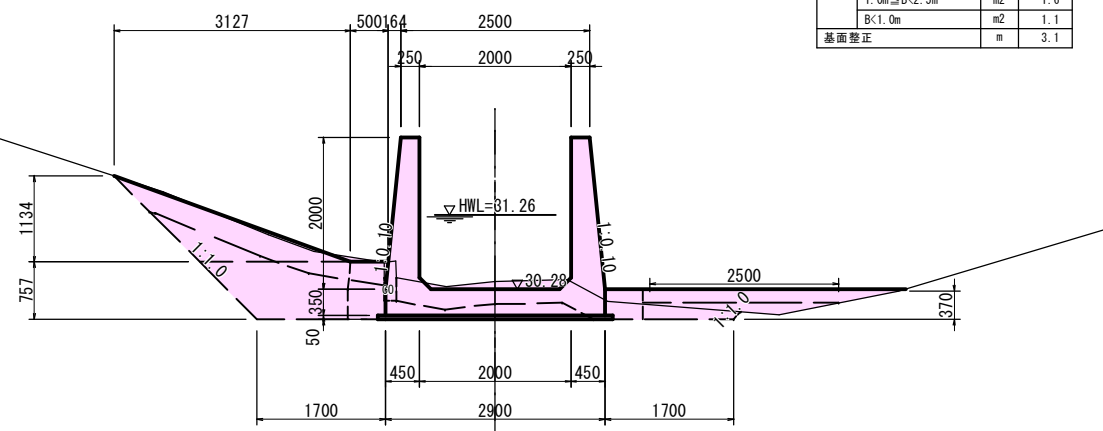
正面図

側面図



KEP (KNO. 2投影)
GH=30.38

土工表		KEP (KNO. 2投影)	
工種	単位	数量	
表土剥取	m ²	2.2	
床掘(土砂)	m ²	2.1	
埋戻 (構造物周辺) B=0.5m	m ²	0.6	
B≥4.0m	m ²	-	
2.5m≤B<4.0m	m ²	0.6	
1.0m≤B<2.5m	m ²	1.6	
B<1.0m	m ²	1.1	
基面整正	m	3.1	



DL=27.00

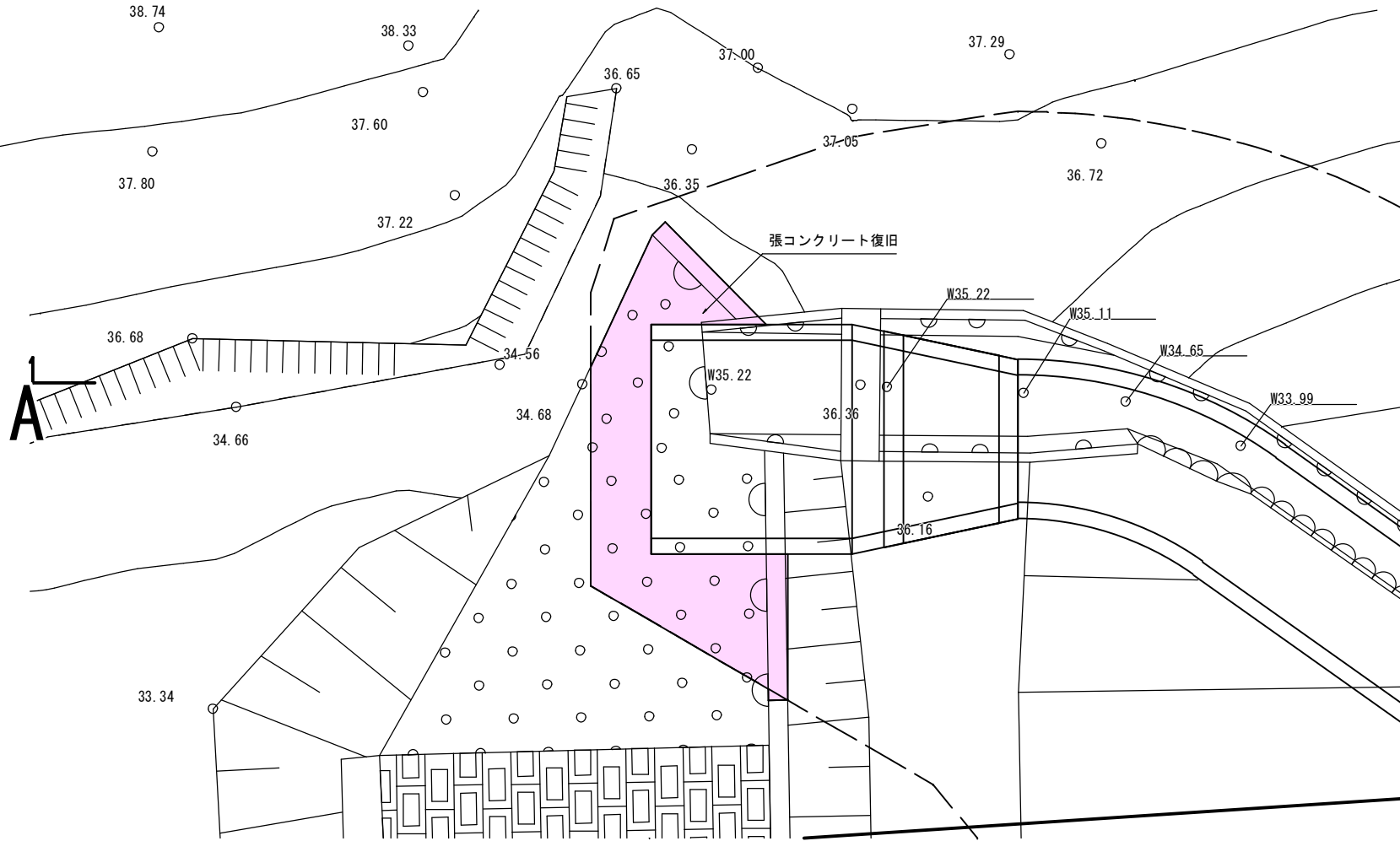
栗林池		図面の名称	図面番号
		洪水吐土工定規図(3)	23/28
		縮尺 図示	
測量	キタイ設計株式会社		
設計	キタイ設計株式会社		
製図	原図	2023年 10月	
	複写		
福山市 田尻町 地内			
福山市			

この図面はA3版時、約50%で縮小しています。

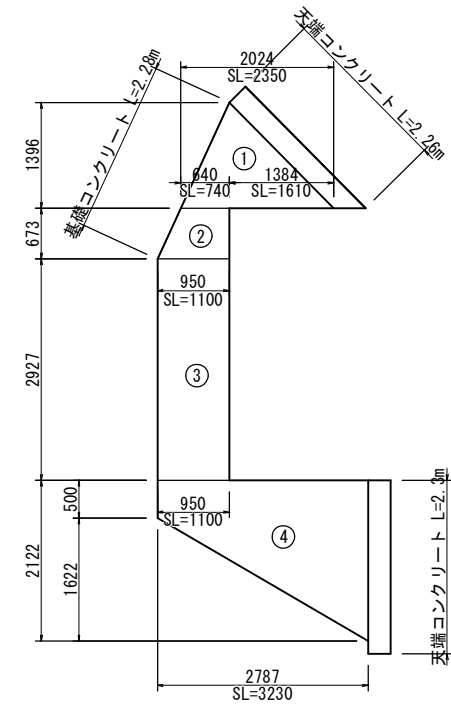
復旧工構造図

S=1:50

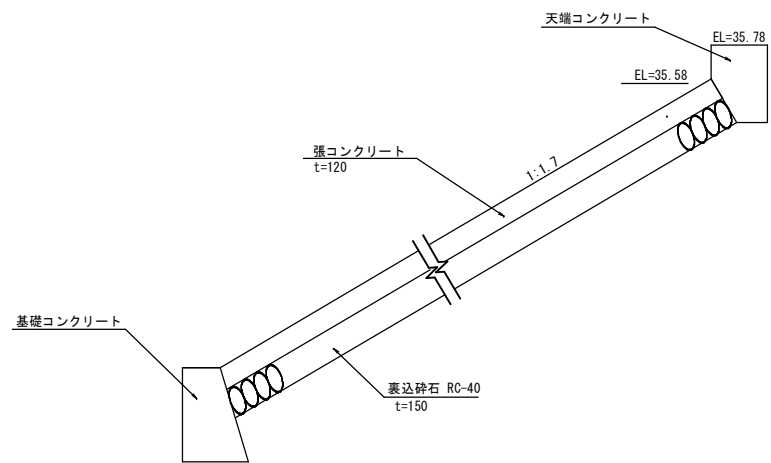
平面図



張コンクリート展開図



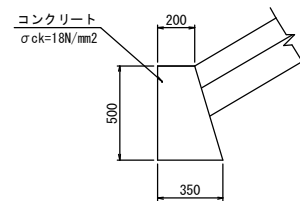
断面図



材料表 10m2当り

名称	規格寸法	単位	数量
裏込砕石	RC-40	m3	1.5

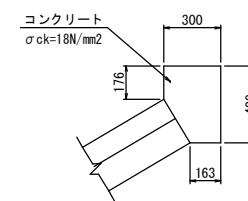
基礎コンクリート S=1:20



材料表 10m当り

名称	規格寸法	単位	数量
コンクリート	σck=18N/mm2	m3	1.38
型枠	小型構造物	m2	10.22
目地材	t=10mm	m2	0.14

天端コンクリート S=1:20



材料表 10m当り

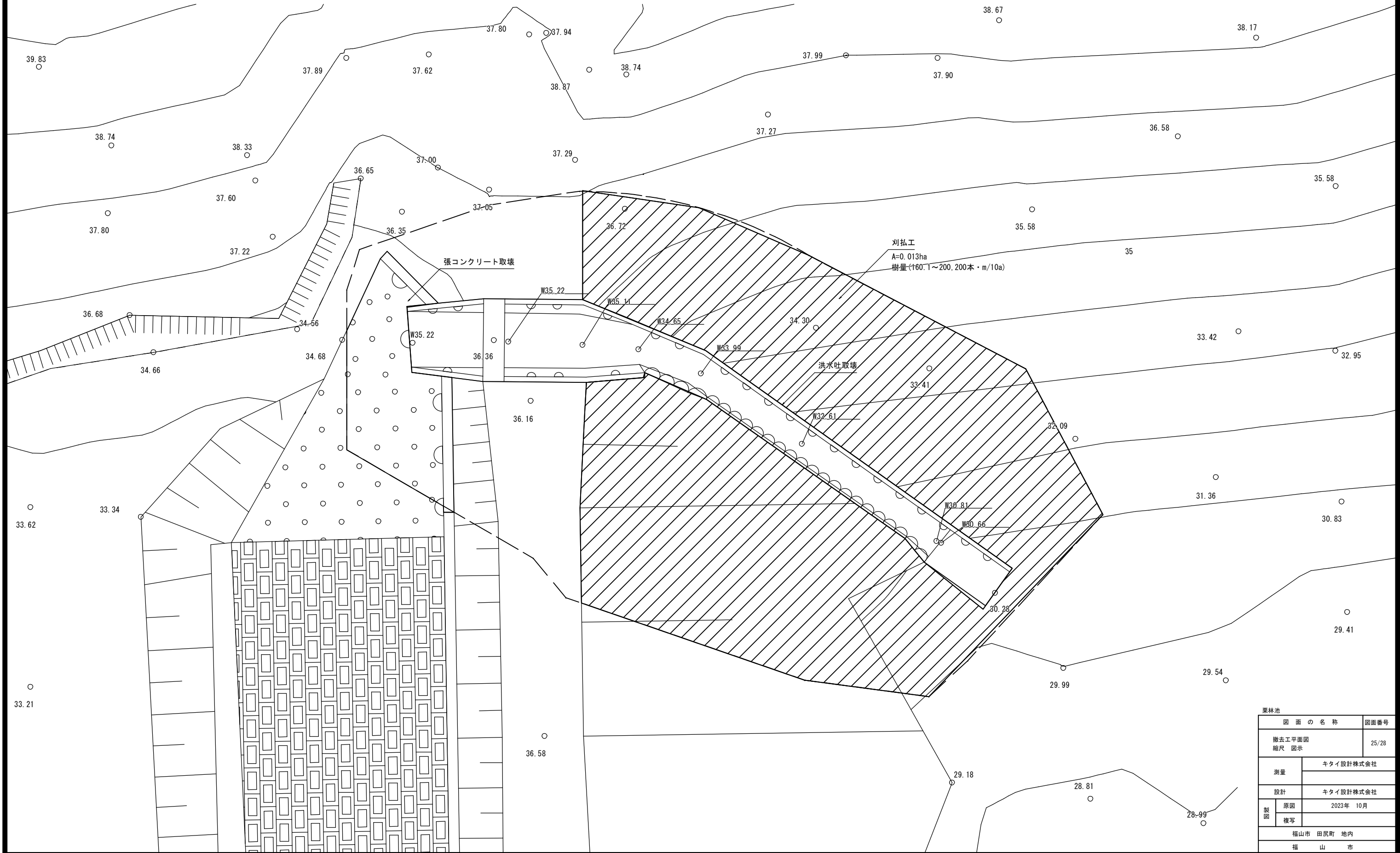
名称	規格寸法	単位	数量
コンクリート	σck=18N/mm2	m3	1.07
型枠	小型構造物	m2	5.85
目地材	t=10mm	m2	0.11

栗林池		図面の名称	図面番号
復旧工構造図			24/28
縮尺 図示			
測量	キタイ設計株式会社		
設計	キタイ設計株式会社		
製図	原図	2023年 10月	
	複写		
福山市 田尻町 地内			
福山市			

撤去工平面図

S=1:100

平面図



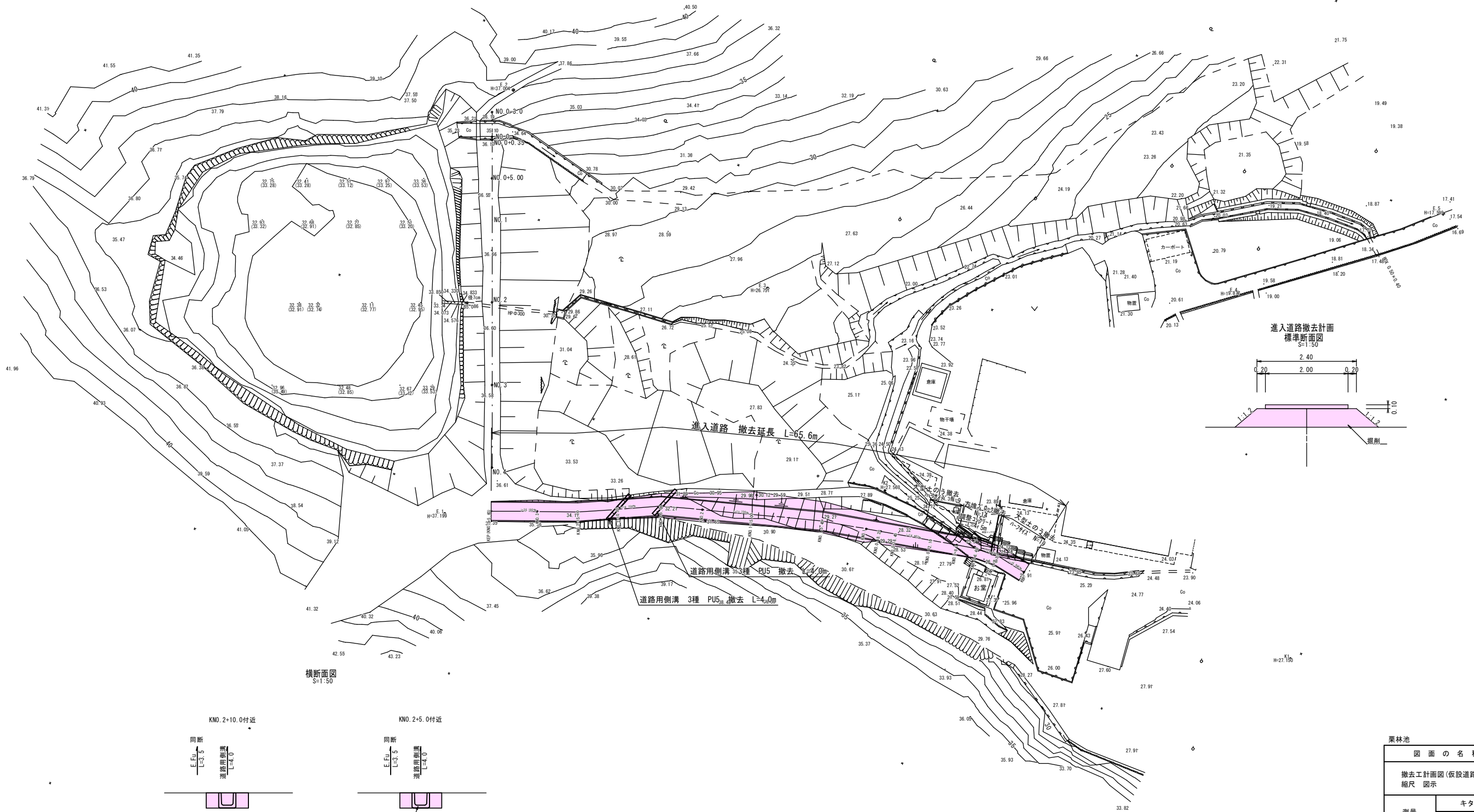
栗林池		図面の名称	図面番号
		撤去工平面図	25/28
		縮尺 図示	
測量	キタイ設計株式会社		
設計	キタイ設計株式会社		
製図	原図	2023年 10月	
	複写		
福山市 田原町 地内			
福 山 市			

この図面はA3版時、約50%で縮小しています。

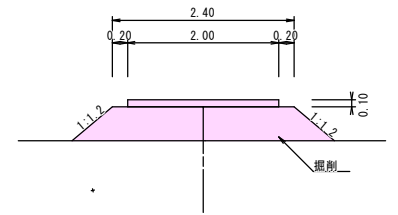
撤去工計画図(仮設道路)(1)

S=1:50

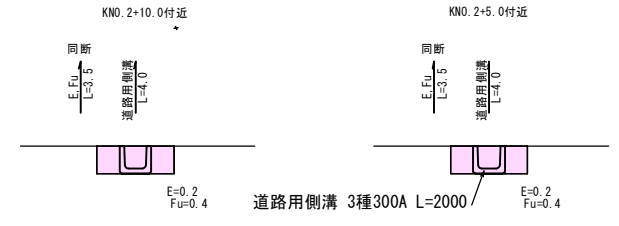
平面図



進入道路撤去計画
標準断面図
S=1:50



横断面図
S=1:50



図面の名称		図面番号
撤去工計画図(仮設道路)(1) 縮尺 図示		26/28
測量	キタイ設計株式会社	
設計	キタイ設計株式会社	
製図	原図	2023年 10月
	複写	
福山市 田尻町 地内		
福山市		

この図面はA3版時、約50%で縮小しています。

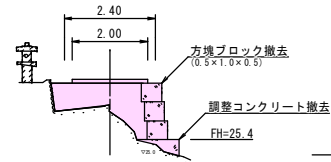
撤去工計画図(仮設道路) (2)

S=1:100

横断面図

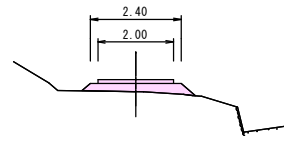
凡 例	
掘削(土砂)	2.3
盛土	-
砂利舗装工	-

D=2.500
KNO. 0+6.40
GH=26.13
FH=27.000



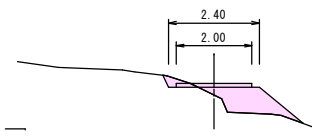
凡 例	
掘削(土砂)	0.8
盛土	-
砂利舗装工	-

D=1.800
KNO. 0+16.40
GH=28.37
FH=28.684



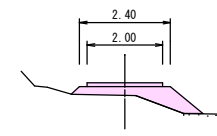
凡 例	
掘削(土砂)	1.3
盛土	0.1
砂利舗装工	-

D=0.000
KNO. 1+5.40
GH=29.95
FH=30.200



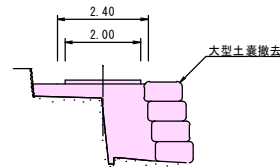
凡 例	
掘削(土砂)	1.2
盛土	-
砂利舗装工	-

D=5.000
KNO. 2
GH=31.88
FH=32.211



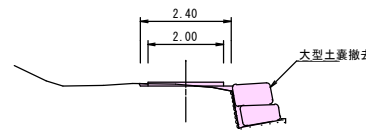
凡 例	
掘削(土砂)	2.3
盛土	-
砂利舗装工	-

D=2.700
KNO. 0+3.70
GH=25.66
FH=26.490



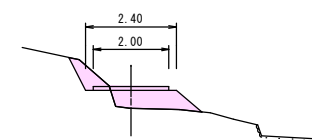
凡 例	
掘削(土砂)	0.3
盛土	-
砂利舗装工	-

D=4.300
KNO. 0+12.10
GH=27.99
FH=27.960



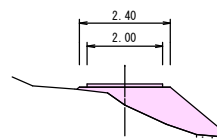
凡 例	
掘削(土砂)	1.2
盛土	0.4
砂利舗装工	-

D=5.400
KNO. 1
GH=28.73
FH=29.291



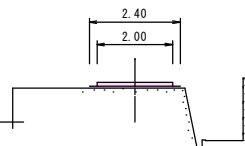
凡 例	
掘削(土砂)	2.3
盛土	-
砂利舗装工	-

D=5.000
KNO. 1+15.0
GH=30.82
FH=31.385



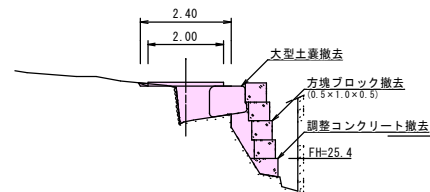
凡 例	
掘削(土砂)	0.2
盛土	-
砂利舗装工	-

D=3.700
KBP (KNO. 0)
GH=25.90
FH=25.900



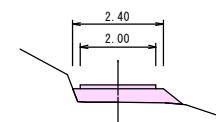
凡 例	
掘削(土砂)	1.0
盛土	-
砂利舗装工	-
調整コンクリート	0.26
調整コン型枠	-

D=3.200
KNO. 0+8.90
GH=23.68
FH=27.420



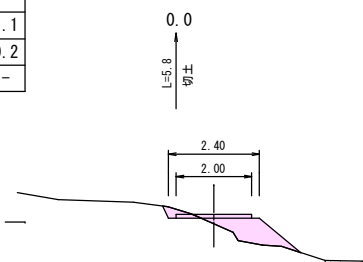
凡 例	
掘削(土砂)	1.2
盛土	-
砂利舗装工	-

D=1.800
KNO. 0+18.20
GH=28.52
FH=28.988



凡 例	
掘削(土砂)	1.1
盛土	0.2
砂利舗装工	-

D=9.600
KNO. 1+5.40
GH=29.95
FH=30.200



栗林池		図面の名称	図面番号
		撤去工計画図(仮設道路) (2)	27/28
		縮尺 図示	
測量	キタイ設計株式会社		
設計	キタイ設計株式会社		
製図	原図	2023年 10月	
	複写		
福山市 田原町 地内			
福 山 市			

この図面はA3版時、約50%で縮小しています。

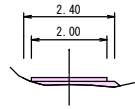
撤去工計画図(仮設道路) (3)

S=1:100

横断面図

D=4.900
KNO. 2+15.10
GH=34.13
FH=34.330

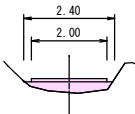
凡 例	
掘削(土砂)	0.5
盛土	-
砂利舗装工	-



DL=34.000

D=4.800
KNO. 2+10.30
GH=33.26
FH=33.650

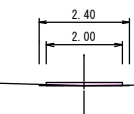
凡 例	
掘削(土砂)	0.7
盛土	-
砂利舗装工	-



DL=33.000

KEP (No. 3+5.60)
GH=36.45
FH=36.450

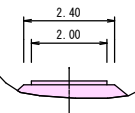
凡 例	
掘削(土砂)	0.2
盛土	-
砂利舗装工	-



DL=36.000

D=5.300
KNO. 2+5.0
GH=32.46
FH=32.900

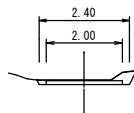
凡 例	
掘削(土砂)	1.1
盛土	-
砂利舗装工	-



DL=32.000

D=5.600
KNO. 3
GH=35.35
FH=35.319

凡 例	
掘削(土砂)	-
盛土	-
砂利舗装工	-



DL=35.000

図面の名称		図面番号
撤去工計画図(仮設道路) (3)		28/28
縮尺 図示		
測量	キタイ設計株式会社	
設計	キタイ設計株式会社	
製図	原図	2023年 10月
	複写	
福山市 田尻町 地内		
福 山 市		

この図面はA3版時、約50%で縮小しています。

以下参考図書

施工単価表

床掘り

SPK23040015

単第 0 -0001号表

土砂 上記以外(小規模)

1

m3 当り

機械構成比: 20.81%

労務構成比: 71.39%

材料構成比: 7.80%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

2,046.8000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ(クローラ型) 後方超小旋回型・排2 山積0.28/平積0.2m3	20.81%		バックホウ(クローラ型) 後方超小旋回型・排2 山積0.28/平積0.2m3		MTPC00083 MTPT00083
運転手(特殊)	38.71%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
普通作業員	32.68%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	7.80%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 土砂 E=1 -(全ての費用)			B=5 上記以外(小規模)		

施工単価表

機械投入

SPK23040007

単第 0 -0003号表

土砂

小規模(標準以外)

1

m3 当り

機械構成比: 21.98%

労務構成比: 69.33%

材料構成比: 8.69%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,660.7000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3	21.98%		小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3		MTPC00077 MTPT00077
運転手(特殊)	69.33%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
軽油 パトロール給油, 2~4KL積載車給油	8.69%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 土砂			B=5 小規模(標準以外)		

施工単価表

ため池工事締固（振動ローラ）
 搭乗式コンバインド型 2.4～2.5t級

仕上厚0.13m 締固め8回

単第 0 -0008号表

1 m3 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
<賃>振動ローラ(搭乗・コンバインド式) 質量2.4～2.6t 排出ガス対策型(第1,2次基準値)低騒音	1.40	日			
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	14.80	L			3.7*4
特殊作業員	1.00	人			
諸雑費	1	式			
1 m3当り		m3			
単位当り	1	m3			
A=1 搭乗式コンバインド型 2.4～2.5t級 C=0.13 仕上り厚さ(m) E=1000 締め固速度(m/h)			B=8 締固め回数(回) D=0.4 作業効率 F=1.4 運転日当り賃料日数(搭乗式コンバインド型)		

施工単価表

土砂等運搬

SPK23040002

単第 0 -0014号表

小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む)

DID区間無し 距離7.0km以下(5.5km超)

1

m3 当り

機械構成比: 19.19% 労務構成比:

71.06% 材料構成比: 9.75%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

3,860.9000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	19.19%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00016T1 MTPT00016T1
運転手(一般)	71.06%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	9.75%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2 小規模 C=1 土砂(岩塊・玉石混り土含む) F=31 距離7.0km以下(5.5km超)			B=6 バックホウ山積0.13m3(平積0.1m3) D=1 DID区間無し		

施工単価表

頁0 -0030

コンクリート

SPK23040154

単第 0 -0015号表

無筋・鉄筋構造物 18-8-40BB

バックホウ(クレーン機能付)打設

1

m3 当り

機械構成比: 4.32%

労務構成比:

37.95%

材料構成比: 57.73%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

29,669.0000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>バックホウ(クローラ型クレーン機能付) 山積0.8m3(平積0.6)吊能力2.9t 排1~3,2011,2014	4.08%		バックホウ [クローラ型クレーン付] 排ガス型(第2次)山積0.8m3吊2.9t		KTPC00006 KTPT00006
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	11.26%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	10.14%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	7.41%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
運転手(特殊)	6.90%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
その他(労務)			その他(労務)		ER009
レディーミクストコンクリート指定品 呼び強度18,スランプ8,粗骨材40 W/C(60%),種別(高炉)	55.58%		生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%		TTPCD0010 TTPT00343
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	2.03%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013

施工単価表

型枠

SPK23040156

単第 0 -0016号表

一般型枠

均しコンクリート

1

m2 当り

機械構成比: 0.00%

労務構成比: 100.00%

材料構成比: 0.00%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

4,504.1000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
型わく工	59.07%		型わく工		RTPC00010 RTPT00010
普通作業員	19.80%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	5.88%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=1 一般型枠 C=1 -(全ての費用)			B=5 均しコンクリート		

施工単価表

コンクリート

SPK23040154

単第 0 -0017号表

無筋・鉄筋構造物 コンクリート(各種)

バックホウ(クレーン機能付)打設

1

m3 当り

機械構成比: 4.32% 労務構成比:

37.95% 材料構成比: 57.73%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

29,669.0000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>バックホウ(クローラ型クレーン機能付) 山積0.8m3(平積0.6)吊能力2.9t 排1~3,2011,2014	4.08%		バックホウ [クローラ型クレーン付] 排ガス型(第2次)山積0.8m3吊2.9t		KTPC00006 KTPT00006
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	11.26%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	10.14%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	7.41%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
運転手(特殊)	6.90%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
その他(労務)			その他(労務)		ER009
レディーミクストコンクリート指定品 呼び強度21,スランプ8,粗骨材20(25) W/C(55%),種別(高炉)	55.58%		生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%		F0000000001 TTPT00343
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	2.03%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013

施工単価表

型枠

SPK23040156

単第 0 -0018号表

一般型枠

鉄筋・無筋構造物

1

m2 当り

機械構成比: 0.00%

労務構成比: 100.00%

材料構成比: 0.00%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

8,890.1000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
型わく工	46.99%		型わく工		RTPC00010 RTPT00010
普通作業員	25.08%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	9.24%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=1 一般型枠 C=1 -(全ての費用)			B=1 鉄筋・無筋構造物		

施工単価表

ダウエルバー取付
異形棒鋼

D 1 6

単第 0 -0020号表

10

本 当り

名称・規格など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
異形棒鋼<JISG3112> SD295,D16 単位質量1.56kg/m	0.016	t			
硬質塩化ビニル管 一般管VP径20長4.0m	1.25	本			
土木一般世話役	0.03	人			
普通作業員	0.14	人			
諸雑費	1	式			
合計	10	本			
単位当り	1	本			
A=1 D 1 6					

施工単価表

目地板

SPK23040122

単第 0 -0021号表

1工事当り使用量30m2未満

ゴム発泡体 t=10mm

1

m2 当り

機械構成比: 0.00% 労務構成比:

63.91%

材料構成比: 36.09%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

3,582.4000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	47.33%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	16.27%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
ゴム発泡体 t=10mm	36.09%		瀝青繊維質目地板 厚さ10mm		TTPCD0148 TTPT00199
積算単価			積算単価		EP001
A=1 1工事当り使用量30m2未満			B=4 ゴム発泡体 t=10mm		

施工単価表

目地板

SPK23040122

単第 0 -0022号表

1工事当り使用量30m2未満

瀝青繊維質目地板 t=10mm

1

m2 当り

機械構成比: 0.00% 労務構成比:

63.91% 材料構成比: 36.09%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

3,582.4000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	47.33%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	16.27%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
目地板 瀝青繊維質板 厚10mm	36.09%		瀝青繊維質目地板 厚さ10mm		TTPC00199 TTPT00199
積算単価			積算単価		EP001
A=1 1工事当り使用量30m2未満			B=1 瀝青繊維質目地板 t=10mm		

施工単価表

止水板

SPK23040123

単第 0 -0023号表

幅CF200×厚さ5mm(塩ビ製)

1

m 当り

機械構成比: 0.00% 労務構成比: 57.16%

材料構成比: 42.84%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

2,522.1000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	42.46%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	14.70%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
止水板-塩ビ製- CF(センターバルブ形フラット) 幅200mm,厚5mm	42.84%		塩ビ製止水板 CF 幅200×厚さ5mm		TTPC00198 TTPT00198
積算単価			積算単価		EP001
A=1 幅CF200×厚さ5mm(塩ビ製)					

施工単価表

手摺先行型枠組・単管・単管傾斜足場
手摺先行型枠組足場

単第 0 -0028号表

頁0 -0045

100

掛m2 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.600	人			
とび工	7.000	人			
普通作業員	1.300	人			
<作>ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 25t吊,オペレータ付 排1~3,2011,2014	1.400	日			
諸雑費	34	%			
合計	100	掛m2			
単位当り	1	掛m2			
A=1 手摺先行型枠組足場 C=0 潮待割増			B=1	安全ネットを設置しない	

施工単価表

手摺先行型枠組・単管・単管傾斜足場
単管足場

単第 0 -0029号表

頁0 -0046

100

掛m2 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.900	人			
とび工	6.900	人			
普通作業員	1.800	人			
<作>ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 25t吊,オペレータ付 排1~3,2011,2014	0.800	日			
諸雑費	29	%			
合計	100	掛m2			
単位当り	1	掛m2			
A=2 単管足場 C=0 潮待割増			B=1	安全ネットを設置しない	

施工単価表

頁0 -0051

コンクリート

SPK23040154

単第 0 -0034号表

小型構造物 18-8-40BB

バックホウ(クレーン機能付)打設

1

m3 当り

機械構成比: 4.19%

労務構成比:

40.17%

材料構成比: 55.64%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

30,518.0000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>バックホウ(クローラ型クレーン機能付) 山積0.8m3(平積0.6)吊能力2.9t 排1~3,2011,2014	3.96%		バックホウ [クローラ型クレーン付] 排ガス型(第2次)山積0.8m3吊2.9t		KTPC00006 KTPT00006
その他(機械)			その他(機械)		EK009
普通作業員	11.83%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
特殊作業員	10.94%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	8.07%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
運転手(特殊)	6.71%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
その他(労務)			その他(労務)		ER009
レディーミクストコンクリート指定品 呼び強度18,スランプ8,粗骨材40 W/C(60%),種別(高炉)	53.56%		生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%		TTPCD0010 TTPT00343
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	1.97%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013

施工単価表

型枠

SPK23040156

単第 0 -0035号表

一般型枠

小型構造物

1

m2 当り

機械構成比: 0.00%

労務構成比: 100.00%

材料構成比: 0.00%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

8,042.9000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
型わく工	44.66%		型わく工		RTPC00010 RTPT00010
普通作業員	30.77%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	11.53%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=1 一般型枠 C=1 -(全ての費用)			B=2 小型構造物		

施工単価表

頁0 -0057

殻運搬

SPK23040152

単第 0 -0039号表

Co(鉄筋)構造物とりこわし

DID区間有り 運搬距離23.2km以下(18.5km超)

1

m3 当り

機械構成比: 42.35% 労務構成比:

42.40%

材料構成比: 15.25%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

3,832.3000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	42.35%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
運転手(一般)	42.40%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	15.25%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2 Co(鉄筋)構造物とりこわし C=2 DID区間有り E=1 -(全ての費用)			B=1 機械積込 D=61 運搬距離23.2km以下(18.5km超)		

施工単価表

殻運搬

SPK23040152

単第 0 -0040号表

Co(無筋)構造物とりこわし

DID区間有り 運搬距離23.2km以下(18.5km超)

1

m3 当り

機械構成比: 42.35% 労務構成比:

42.40% 材料構成比: 15.25% 市場単価構成比: 0.00%

標準単価: 3,135.5000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	42.35%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
運転手(一般)	42.40%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油, 2~4KL積載車給油	15.25%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 Co(無筋)構造物とりこわし C=2 DID区間有り E=1 -(全ての費用)			B=1 機械積込 D=61 運搬距離23.2km以下(18.5km超)		

施工単価表

掘削

SPK23040001

単第 0 -0041号表

土砂 上記以外(小規模)

標準以外

1

m3 当り

機械構成比: 21.98% 労務構成比:

69.33%

材料構成比: 8.69%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

2,434.5000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3	21.98%		小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3		MTPC00077 MTPT00077
運転手(特殊)	69.33%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	8.69%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 土砂 E=8 標準以外			B=5 上記以外(小規模)		

施工単価表

ダンプトラック運転
オンロード・ディーゼル・10t積級

単第 0 -0055号表

1 日 当り

名称・規格など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	60.00	L			
運転手(一般)	1.00	人			
ダンプトラック オンロード・ディーゼル 10t積級	1.29	供用日			
タイヤ損耗費 ダンプトラック 10t (良)	1.29	供用日			
諸雑費	1	式			
単位当り	1	日			
A=5 C=60 E=1 G=0	オンロード・ディーゼル・10t積級 軽油消費量(L/日) 路面状況:良好 労務単価の夜間等割増率		B=1 D=1.29 F=1	運転労務数量(人/日) 機械損料数量(供用日/日)	

2. 洪水吐工数量計算書

2-1. 洪水吐土工数量計算書

栗林池		洪水吐土工		数量集計表	
細別	規格	算式		単位	数量
【土工】					
〈掘削工〉					
表土剥取		[洪水吐土積計算書より]	= 52.0		
床堀	土砂	[洪水吐土積計算書より]	= 197.5		
		[洪水吐土工【カットオフ】数量計算書より]	= 2.5		
		[洪水吐土工【止水壁】数量計算書より]	= 15.5		
		計	267.5	m ³	268
〈盛土工〉					
埋戻 (鋼)	構造物周辺	[洪水吐土積計算書より]	= 3.0		
		[洪水吐土工【カットオフ】数量計算書より]	= 1.9		
		[洪水吐土工【止水壁】数量計算書より]	= 6.6		
		計	11.5	m ³	12
	B<1.0m	[洪水吐土積計算書より]	= 1.5		
		[洪水吐土工【止水壁】数量計算書より]	= 0.3		
		計	1.8	m ³	2
	1.0m≤B<2.5m	[洪水吐土積計算書より]	= 1.4		
		[洪水吐土工【止水壁】数量計算書より]	= 0.5		
		計	1.9	m ³	2
埋戻 (ランダム)	構造物周辺	[洪水吐土積計算書より]	= 29.1	m ³	29
	B<1.0m	[洪水吐土積計算書より]	= 23.0	m ³	23
	1.0m≤B<2.5m	[洪水吐土積計算書より]	= 81.7	m ³	82
	2.5m≤B<4.0m	[洪水吐土積計算書より]	= 65.3	m ³	65
〈整形工〉					
基面整正		[洪水吐土積計算書より]	= 57.9		
		[洪水吐土工【カットオフ】数量計算書より]	= 0.7		
		[洪水吐土工【止水壁】数量計算書より]	= 3.7		
		計	62.3	m ²	62
残土処分	地区外処分	$267.5 - (11.5 + 1.8 + 1.9 + 29.1 + 23.0 + 81.7 + 65.3) / 0.9$	= 29.4	m ³	29

栗林池 洪水吐土積計算書

土 積 計 算 書

No. 1

測 点	追加距離 (m)	単距離 (m)	表土剥取			床堀			埋戻(鋼・構造物周辺)			埋戻(鋼・B<1.0m)		
			断 面 (m ²)	平均断面 (m ²)	容 積 (m ³)	断 面 (m ²)	平均断面 (m ²)	容 積 (m ³)	断 面 (m ²)	平均断面 (m ²)	容 積 (m ³)	断 面 (m ²)	平均断面 (m ²)	容 積 (m ³)
KNO. 0-0.37	0.00	0.00												
KNO. 0	0.37	0.37	0.4	0.20	0.1	1.1	0.55	0.2	1.5	0.75	0.3			
KNO. 0+0.58(上)	0.95	0.58	0.4	0.40	0.2	1.1	1.10	0.6	0.7	1.10	0.6	0.4	0.20	0.1
KNO. 0+0.58(下)	0.95	0.00	0.4	0.40	0.0	1.1	1.10	0.0	0.2	0.45	0.0	0.2	0.30	0.0
KNO. 0+3.73	4.10	3.15	1.8	1.10	3.5	6.3	3.70	11.7	0.6	0.40	1.3	0.5	0.35	1.1
KNO. 0+5.00	5.37	1.27	2.7	2.25	2.9	11.8	9.05	11.5	0.7	0.65	0.8	0.0	0.25	0.3
KNO. 0+6.33	6.70	1.33	2.8	2.75	3.7	12.6	12.20	16.2						
KEC. 1 (KNO. 1+0.04)	10.41	3.71	3.4	3.10	11.5	14.5	13.55	50.3						
KNO. 1+7.01	17.38	6.97	3.0	3.20	22.3	10.7	12.60	87.8						
KNO. 2	20.38	3.00	2.2	2.60	7.8	2.1	6.40	19.2						
計		20.38			52.0			197.5			3.0			1.5

栗林池 洪水吐土積計算書

土 積 計 算 書

No. 2

測 点	追加距離 (m)	単距離 (m)	埋戻(鋼・1.0m \leq B<2.5m)			埋戻(鋼・2.5m \leq B<4.0m)			埋戻(コンクリート・構造物周辺)			埋戻(コンクリート・B<1.0m)		
			断 面 (m ²)	平均断面 (m ²)	容 積 (m ³)	断 面 (m ²)	平均断面 (m ²)	容 積 (m ³)	断 面 (m ²)	平均断面 (m ²)	容 積 (m ³)	断 面 (m ²)	平均断面 (m ²)	容 積 (m ³)
KNO. 0-0.37	0.00	0.00												
KNO. 0	0.37	0.37												
KNO. 0+0.58(上)	0.95	0.58												
KNO. 0+0.58(下)	0.95	0.00												
KNO. 0+3.73	4.10	3.15	0.0					1.3	0.65	2.0	0.4	0.20	0.6	
KNO. 0+5.00(上)	5.37	1.27	2.2	1.10	1.4			1.4	1.35	1.7	0.0	0.20	0.3	
KNO. 0+5.00(下)	5.37	0.00						2.1	1.75	0.0				
KNO. 0+6.33	6.70	1.33						2.0	2.05	2.7				
KEC. 1 (KNO. 1+0.04)	10.41	3.71						1.8	1.90	7.0	1.4	0.70	2.6	
KNO. 1+7.01	17.38	6.97						1.7	1.75	12.2	2.6	2.00	13.9	
KNO. 2	20.38	3.00						0.6	1.15	3.5	1.1	1.85	5.6	
計		20.38			1.4			0.0			29.1		23.0	

栗林池 洪水吐土積計算書

土 積 計 算 書

No. 3

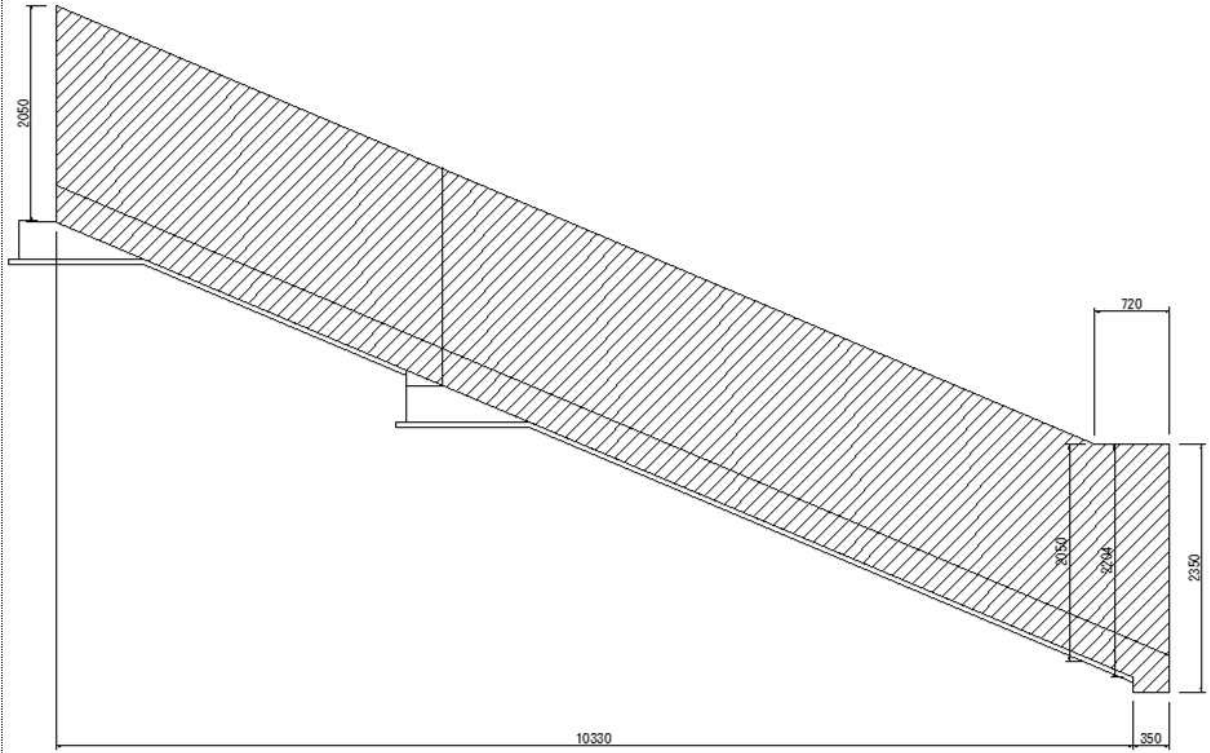
測 点	追加距離 (m)	単距離 (m)	埋戻(ランダム・1.0m≦B<2.5m)			埋戻(ランダム・2.5m≦B<4.0m)			埋戻(B≧4.0m)			基面修正		
			断 面 (m ²)	平均断面 (m ²)	容 積 (m ³)	断 面 (m ²)	平均断面 (m ²)	容 積 (m ³)	断 面 (m ²)	平均断面 (m ²)	容 積 (m ³)	距離 (m)	平均距離 (m)	面積 (m ²)
KNO. 0-0.37	0.00	0.00												
KNO. 0	0.37	0.37												
KNO. 0+0.58(上)	0.95	0.58												
KNO. 0+0.58(下)	0.95	0.00												
KNO. 0+3.73	4.10	3.15	3.6	1.80	5.7							3.6	1.80	5.7
KNO. 0+5.00(上)	5.37	1.27	2.3	2.95	3.7	6.0	3.00	3.8				3.6	3.60	4.6
KNO. 0+5.00(下)	5.37	0.00	4.5	3.40	0.0	6.0	6.00	0.0				3.6	3.60	0.0
KNO. 0+6.33	6.70	1.33	4.5	4.50	6.0	6.5	6.25	8.3				3.6	3.60	4.8
KEC. 1(KNO. 1+0.04)	10.41	3.71	6.2	5.35	19.8	5.2	5.85	21.7				3.0	3.30	12.2
KNO. 1+7.01	17.38	6.97	4.5	5.35	37.3	2.5	3.85	26.8				3.1	3.05	21.3
KNO. 2	20.38	3.00	1.6	3.05	9.2	0.6	1.55	4.7				3.1	3.10	9.3
計		20.38			81.7			65.3			0.0			57.9

2-2. 洪水吐本体工数量計算書

栗林池		洪水吐工 接近水路		数量計算書	
工種	細目	算式	単位	数量	
基礎工	均しコンクリート 18-8-40	$(3.80 + 4.11)/2 \times (3.15 - 0.40) \times 0.05 = 0.54$	m ³	0.5	
	均し型枠	$\{(3.15 - 0.40) \times 2 + 0.10 \times 2 \times 2\} \times 0.05 = 0.30$	m ²	0.3	
コンクリート工	21-8-20BB W/C≦55%				
	カットオフ	$(0.20 + 0.40)/2 \times (0.60 + 0.05) = 0.20$	m ²		
	A-A断面積 (底版)	$3.60 \times 0.35 = 1.26$	m ²		
	B-B断面積 ハンチ除く	$(0.25 + 0.41)/2 \times 1.55 \times 2 + 3.91 \times 0.35 = 2.39$	m ²		
	<体積>				
	カットオフ	$0.20 \times 3.60 = 0.72$			
	本体	$(1.26 + 2.39)/2 \times 3.15 = 5.75$			
	ハンチ	$(0.15 \times 0.15/2 \times 3.15 - 0.15 \times 0.15/2 \times 0.31/2) \times 2 = 0.07$			
	越流堰	$0.15 \times 3.10 = 0.47$			
	<ハンチ控除>	$\Delta 0.15 \times 0.15/2 \times (0.61 + 0.47)/2 \times 2 = \Delta 0.01$			
		計 7.00	m ³	7.0	
養生工	一般養生 鉄筋構造物	[コンクリート数量より]7.00	m ³	7.0	
型枠工	一般型枠 鉄筋構造物				
	カットオフ	$(0.60 + 0.05 + 0.60 \times 1.044[\text{斜率}]) \times 3.60 + (0.40 + 0.20)/2 \times 0.65 \times 2 = 4.99$			
	底版(側面)	$0.35 \times 3.15 \times 2 + 0.35 \times 3.60 \times 2 = 4.73$			
	側壁(外面)	$1.55/2 \times 3.15 \times 1.005[\text{外壁斜率}] \times 2 = 4.91$			
	側壁(内面)	$1.55/2 \times 3.15 \times 2 = 4.88$			
	<ハンチ控除>	$\Delta 0.15 \times \{3.15 - (0.61 + 0.47)/2\} \times 2 = \Delta 0.78$			
	<越流堰控除>	$\Delta 0.15 \times 2 = \Delta 0.30$			
	ハンチ	$0.15 \times 1.414[\text{斜率}] \times (3.15 - (0.61 + 0.47)/2) \times 2 - 0.15 \times 1.414[\text{斜率}] \times 0.31/2 \times 2 = 1.04$			
	越流堰	$0.35 \times 3.10 = 1.09$			
		計 20.56	m ²	20.6	

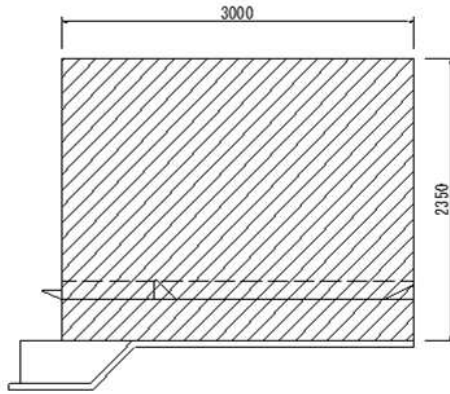
栗林池		洪水吐工 放水路		数量計算書	
工種	細目	算式	単位	数量	
基礎工	均しコンクリート 18-8-40	$(3.04 + 3.10)/2 \times (10.68 + 0.10 \times 2) \times 0.05$			
		= 1.67	m ³	1.7	
	均し型枠	$(10.68 + 0.10 \times 2 + 3.04 + 3.10) \times 0.05$		m ²	0.9
コンクリート工	21-8-20BB W/C ≤ 55%				
		H-H断面積 ハンチ・受台除く	$(0.25 + 0.42)/2 \times 1.70 \times 2 + 0.35 \times 2.84 = 2.13$		m ²
	I-I断面積 ハンチ・受台除く	$(0.25 + 0.45)/2 \times 2.00 \times 2 + 0.35 \times 2.90 = 2.42$		m ²	
	<体積>				
	本体	$(2.13 + 2.42)/2 \times 10.68$			
		+ $0.72 \times 0.30/2 \times 2$	= 24.51		
	受台1(上部)	$((0.37 + 0.35)/2 \times 0.35 + 0.35 \times 0.84/2)$			
		$\times 2.84$	= 0.78		
	受台2(中央部)	$(0.35 \times 0.35 + 0.35 \times 0.84/2) \times 2.84$	= 0.77		
	受台3(下部)	$0.15 \times 0.35/2 \times 2.90$	= 0.08		
	ハンチ	$0.15 \times 0.15/2 \times 10.68 \times 2$	= 0.24		
			計 26.38	m ³	26.4
養生工	一般養生 鉄筋構造物	[コンクリート数量より]26.38	= 26.38	m ³	26.4
型枠工	鉄筋構造物				
	止断面	[H - H断面積より]2.13 + $0.15 \times 0.15/2 \times 2$	= 2.15		
	底版(側面)	$0.35 \times 10.68 \times 2$	= 7.48		
	側壁(外面)	$(1.70 \times 10.68 + 0.72 \times 0.30/2) \times 1.005$ [外壁斜率]			
		$\times 2$	= 36.71		
	側壁(内面)	$(1.70 \times 10.68 + 0.72 \times 0.30/2) \times 2$	= 36.53		
	<ハンチ控除>	$\Delta 0.15 \times 10.68 \times 2$	= Δ 3.20		
	ハンチ	0.15×1.414 [斜率] $\times 10.68 \times 2$	= 4.53		
	受台1(上部)	$((0.37 + 0.35)/2 \times 0.35 + 0.35 \times 0.84/2) \times 2$			
		+ 0.37×2.84	= 1.60		
	受台2(中央部)	$(0.35 \times 0.35 + 0.35 \times 0.84/2) \times 2$			
		+ 0.35×2.84	= 1.53		
	受台3(下部)	$0.15 \times 0.35/2 \times 2 + 0.15 \times 2.90$	= 0.49		
			計 87.82	m ²	87.8

足場工(壁外面)



栗林池		洪水吐工 静水池		数量計算書	
工種	細目	算式		単位	数量
基礎工	均しコンクリート 18-8-40	$3.10 \times 3.45 \times 0.05 = 0.53$		m ³	0.5
	均し型枠	$(3.45 \times 2 + 3.10) \times 0.05 = 0.50$		m ²	0.5
コンクリート工	21-8-20BB W/C≦55%				
	J-J断面積 ハンチ・受台除く	$(0.25 + 0.45) / 2 \times 2.00 \times 2 + 0.35 \times 2.90 = 2.42$		m ²	
	K-K断面積 ハンチ・受台除く	$(0.25 + 0.45) / 2 \times 2.00 \times 2 + 0.35 \times 2.90 = 2.42$		m ²	
	<体積>				
	本体	$2.42 \times 3.00 = 7.26$			
	受台3(下部)	$(0.60 + 0.60 + 0.35) / 2 \times 0.35 \times 2.90 = 0.79$			
	シュートブロック	$0.17 \times 0.07 / 2 \times 0.07 \times 12 = 0.00$			
	バップルピア	$(0.03 + 0.19) / 2 \times 0.16 \times 0.12 \times 7 = 0.01$			
	エンドシル	$(0.03 + 0.25) / 2 \times 0.11 \times 0.91 \times 2 = 0.03$			
	ハンチ	$(0.15 \times 0.15 / 2 \times (3.00 - 0.25) + 0.15 \times 0.15 / 2 \times 0.25 / 2) \times 2 = 0.06$			
		計	8.15	m ³	8.2
養生工	一般養生 鉄筋構造物	[コンクリート数量より]8.16 = 8.15		m ³	8.2
型枠工	鉄筋構造物				
	止断面(上流)	[J - J断面積より] $2.42 + 0.15 \times 0.15 / 2 \times 2 = 2.44$			
	止断面(下流)	[K - K断面積より] $2.42 + 0.15 \times 0.15 / 2 \times 2 = 2.44$			
	底板(側面)	$0.35 \times 3.00 \times 2 = 2.10$			
	側壁(外面)	$2.00 \times 3.00 \times 1.005[\text{外壁斜率}] \times 2 = 12.06$			
	側壁(内面)	$2.00 \times 3.00 \times 2 = 12.00$			
	<ハンチ控除>	$\Delta 0.15 \times 3.00 \times 2 = \Delta 0.90$			
	ハンチ	$0.15 \times 1.414[\text{斜率}] \times 3.00 \times 2 = 1.27$			
	受台4 (下部)	$(0.60 + 0.60 + 0.35) / 2 \times 0.35 \times 2 + 0.35 \times 2.90 = 1.56$			
	シュートブロック	$0.17 \times 0.07 / 2 \times 2 \times 12 = 0.14$			
バップルピア	$(0.03 + 0.19) / 2 \times 0.16 \times 2 \times 7 + 0.12 \times 0.16 \times 7 = 0.38$				
エンドシル	$(0.03 + 0.25) / 2 \times 0.11 \times 2 + 0.11 \times 0.91 \times 2 = 0.23$				
		計	33.72	m ²	33.7

足場工(壁外面)



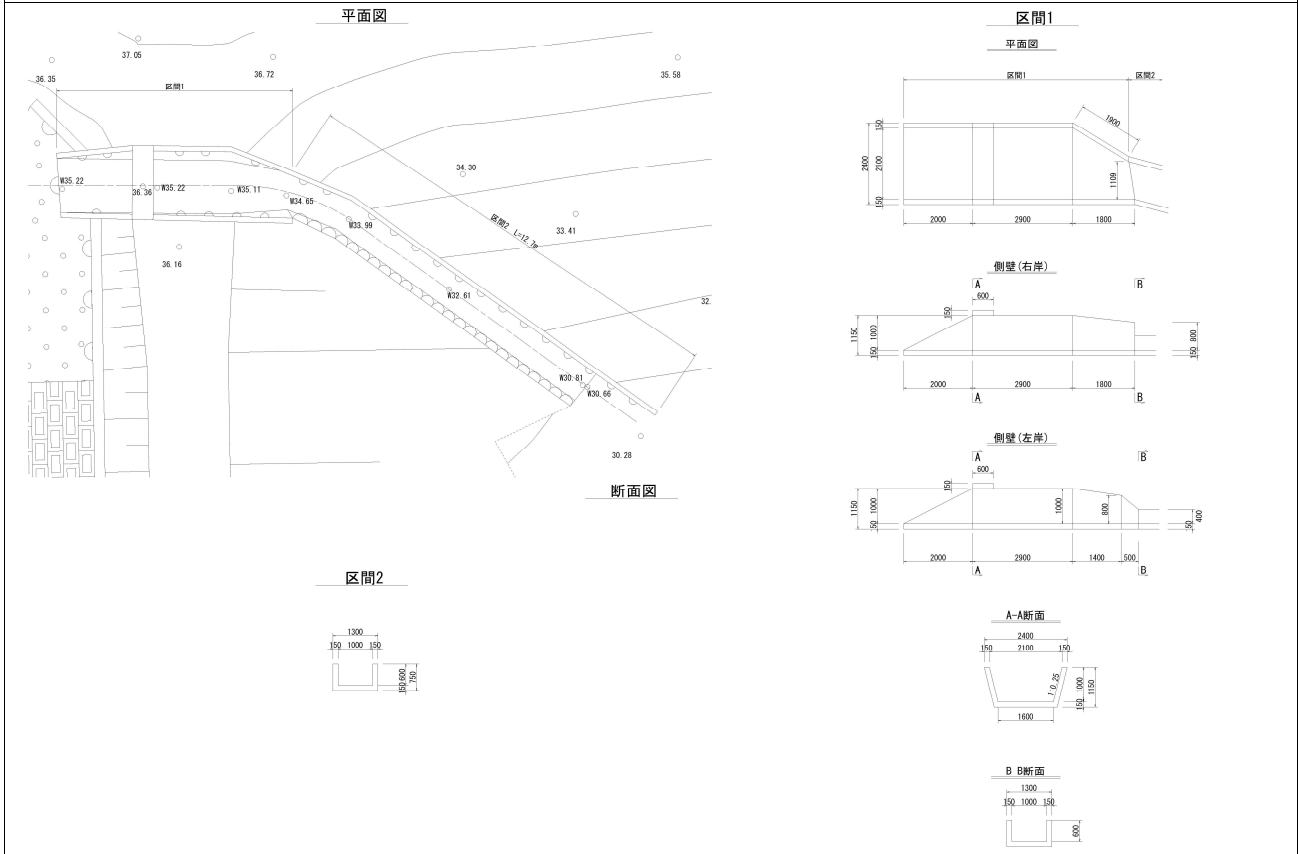
2-3. 洪水吐復旧工数量計算書

2-4. 洪水吐撤去工数量計算書

栗林池

洪水吐取壊工

数量計算書



工種	細目	算式	単位	数量
構造物取壊し工	鉄筋コンクリート			
	区間1	$\langle (1.60 + 0.15 \times 2) \times 0.15 + \{ 2.40 + (1.60 + 0.15 \times 2) \} / 2 \times 1.15 - (2.10 + 1.60) / 2 \times 1.00 \rangle / 2$		
		$\times 2.00 = 0.91$		
		$\langle \{ 2.40 + (1.60 + 0.15 \times 2) \} / 2 \times 1.15 - (2.10 + 1.60) / 2 \times 1.00 \rangle \times 2.90$		
		$= 1.81$		
		$(0.80 + 1.00) / 2 \times 1.80 \times \sqrt{(1^2 + 0.25^2)} [\text{斜率}]$		
		$\times 0.15 = 0.25$		
		$\{ (0.80 + 1.00) / 2 \times 1.40 + (0.80 + 0.40) / 2 \times 0.50 \} \times \sqrt{(1^2 + 0.25^2)} [\text{斜率}] \times 0.15$		
		$= 0.24$		
		$(2.10 + 1.11) / 2 \times 1.80 \times 0.15 = 0.43$		
		計 3.64	m ³	3.6
	区間2	$(1.30 \times 0.75 - 1.00 \times 0.60) \times 12.7 = 4.76$	m ³	4.8
	合計	3.64 + 4.76 = 8.40	m ³	8.4

撤去工（仮設道路）数量計算書

種別		横断図より			(進入道路)					種別		横断図より		
番号	距離	断面	切土 平均	数量	番号	距離	断面	盛土 平均	数量	番号	距離	断面	平均	数量
KBP	-	0.2	-		KNO.0+18.2	-	0.0	-						
KNO.0+3.7	3.7	2.3	1.25	4.6	KNO.1	1.8	0.4	0.20	0.4					
KNO.0+6.4	2.7	2.3	2.30	6.2	KNO.1+5.4	5.4	0.1	0.25	1.4					
KNO.0+8.9	2.5	1.0	1.65	4.1										
KNO.0+12.1	3.2	0.3	0.65	2.1	KNO.1+5.4	-	0.2	-						
KNO.0+16.4	4.3	0.8	0.55	2.4		5.8	0.0	0.10	0.6					
KNO.0+18.2	1.8	1.2	1.00	1.8										
KNO.1	1.8	1.2	1.20	2.2										
KNO.1+5.4	5.4	1.3	1.25	6.8										
KNO.1+5.4	-	1.1	-											
KNO.1+15.0	9.6	2.3	1.70	16.3										
KNO.2	5.0	1.2	1.75	8.8										
KNO.2+5.0	5.0	1.1	1.15	5.8										
KNO.2+10.3	5.3	0.7	0.90	4.8										
KNO.2+15.1	4.8	0.5	0.60	2.9										
KNO.3	4.9	0.0	0.25	1.2										
KEP	5.6	0.2	0.10	0.6										
計				m ³ 70.6	計				m ³ 2.4	計				0.0

栗林池

撤去工（仮設道路） 数量計算書

計第 変-2 表

		横断図より			(進入道路)							
種別 番号	距離	大型土のう撤去 ハーフサイズ		袋	種別 番号	距離	m2		種別 番号	距離		
	KBP~KNO.0+4.8 区間			19								
	KNO.0+8.0~KNO.0+13.0 区間			9							方塊コンクリートブロック撤去	14 個
											$0.5 \times 1.0 \times 0.5 \times 14 = 3.50$ m3	
											調整コンクリート撤去	$0.26 \times 4.5 = 1.17$ m3
											道路用側溝撤去	$4.0 + 4.0 = 8.0$ m
計				28.0							$0.419\text{t}/\text{本} \times 4 = 1.68$ t	
				袋							$1.68 / 2.5 = 0.67$ m3	
	袋処分	$28\text{袋} \times 3.0\text{kg}/\text{袋} =$		84.0							床掘	$0.2 \times 3.5 \times 2 = 1.4$ m3
				kg							埋戻	$0.4 \times 3.5 \times 2 = 2.8$ m3
	詰土処分	$28\text{m}^3 \times 0.5 / 1.2 =$		11.7								
				m3								
					計			0.0				